

F D

2024 年度

北海道医療大学 F D 研修報告書

＜基本編・テーマ編＞

学生を中心とした
教育をすすめるために

北海道医療大学 全学 F D 委員会

目 次

<基本編>

北海道医療大学全学FD研修

「学生を中心とした教育をすすめるために」

-ユニバーシティ・アイデンティティーを考える-

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

実施概要（趣旨など）・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

参加者名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

学長講話・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

「北海道医療大学の教員としての使命と期待」

学長 三国 久美

レクチャー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27

「当大学の理念・目標・方針に基づく授業

～基本的な確認事項について～」

医療技術学部 藏満 保宏

ワークショップ（プロダクト）

Aグループ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 54

Bグループ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57

Cグループ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59

Dグループ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 61

アンケート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63

FD委員感想・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 70

<テーマ編>

北海道医療大学全学FD研修

学生を中心とした教育をすすめるために

- DX関連ツールの教育・実習への有効な活用について -

はじめに	76
実施概要（趣旨など）	77
参加者名簿	78
レクチャー①	
「生成系AIの新展開」	86
	薬学部 二瓶 裕之
レクチャー②	
「講義・実習におけるタブレット端末の効果的な活用法-Goodnotesを使った講義の実際-」	94
	歯学部 根津 顕弘
ワークショップ（プロダクト）	
1グループ（テーマ1）	103
2グループ（テーマ2）	105
ワークショップ（感想）	107
FD委員感想	113
総合評価	116

全学 FD 研修 [基本編]

「学生を中心とした
教育をすすめるために」
-ユニバーシティ・アイデンティティーを考える-

期 日：令和 6 年 4 月 2 日（火）

会 場：当別キャンパス

はじめに

北海道医療大学 全学 FD 委員長
荒川俊哉

4月4日に全学FD研修（基本編）が開催されました。今回は、三国新学長をお迎えした初めてのFD研修会でした。まず初めに三国学長より「北海道医療大学の教員としての使命と期待」と題した講話をいただきました。その中で、北海道医療大学の理念をはじめ、より良い教育を実施していくためのFD研修会の必要性が強調されました。続いて、蔵満委員より「授業の基本的な確認事項」についてのレクチャーがありました。

午後からは、薬学部、歯学部、看護福祉学部、リハビリテーション科学部の新任の16名の先生方に対し、例年と同様のテーマである「本学のユニバーシティ・アイデンティティーに即した教育法」について、4つのグループに分かれてワークショップを行っていただきました。毎年のように、新任の先生方には情熱を持って積極的に議論していただいております。本年度も同様に、我々ファシリテーター役の委員もその熱意を感じることができました。新人の先生方には少し重たいテーマではありますが、それぞれのグループから個性的なプロダクトをいただきました。これから始まる本学での教員としての仕事のスタートとして、大いに役立てていただければ幸いです。

最後に、いつもお世話になっておりますFD委員の先生方、事務スタッフの皆様にご挨拶申し上げます。今回もFDスタッフのお力添えで研修を無事に終えることができましたこと、御礼申し上げます。

令和6年度 全学FD研修＜基本編＞

メインテーマ：「学生を中心とした教育をすすめるために」

*サブテーマ：「ユニバーシティ・アイデンティティを考える」

主 催：北海道医療大学全学FD委員会

日 時：令和6年4月2日（火） 10：00～16：15

会 場：本学当別キャンパス 中央講義棟 C52講義室

参加対象者：2024年度新規採用(4月1日付)教員及び

2023年度中途採用(4月2日付以降)教員：計16名

運 営 委 員：令和5年度の全学FD委員

FD委員長：歯学部 荒川教授

FD委員：薬学部：小島教授、歯学部：會田教授

看護福祉学部：桑原教授、八木准教授、心理科学部：柳生教授

リハビリテーション科学部：本家教授、中川教授

医療技術学部：藏満教授、全学教育推進センター：鈴木准教授

歯科衛生士専門学校：千葉専任教員

講 師：三国学長、藏満教授（FD委員）

事務担当：茂庭学務部次長、橋本教務企画課員、紺井IR課員

【趣旨】

本学の教職員一人ひとりが自主性・創造性を発揮することにより「学生中心の教育」並びに「患者中心の医療」を推進しつつ、「21世紀の新しい健康科学の構築」を追究することが本学の行動指針である。その実現のためにFD研修会を開催し、教授法の開発改善を行うとともに「教育力」を高めることを本研修会の趣旨とする。

【目標】

- 1) 本学の教育の三方針、アドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを理解し、本学の「ユニバーシティ・アイデンティティ」とは何かを考える。
- 2) 講義を行う上での様々な注意点や留意点を理解する。

【研修形態】

- 1) 能動的体験型研修とする。
- 2) 肩書なしの対等な意見交換をする。
- 3) 建設的な意見交換から建設的対応策を生み出す。

【スケジュール概要】

時間	内容	担当者
9:50	参加者集合	
10:00	開会	【進行：荒川委員長】
10:00-10:10	《開会挨拶とオリエンテーション》 ・研修の意義と進行内容の説明	《荒川委員長》
10:10-11:00	《講話》 北海道医療大学の教員としての使命と期待	《三国学長》
11:05-11:35	《レクチャー》 ・当大学の理念・目標・方針に基づく授業 ～基本的な確認事項について～	《藏満委員》
11:35-12:40	昼食・休憩 ※昼食は参加者各自で適宜	
12:40-12:50	《全学FD委員の自己紹介（約1分×10名）》	【午後進行：桑原委員】
12:50～	《ワークショップ》	【説明：中川委員】
12:50-13:10	*ワークショップテーマの説明 *プロダクトの作成作業について *ワークショップの進め方	＜ファシリテーター＞ 各グループ2～3名 A グループ (柳生、本家) B グループ (小島、八木、藏満) C グループ (會田、鈴木、千葉) D グループ (桑原、中川)
13:10-15:00	*自己紹介、役割分担(進行・記録・発表)の決定(10分) *グループ討論(100分) 「テーマ：本学のユニバーシティ・ アイデンティティに即した教育法」	
15:00-15:10	休憩	
15:10-16:00	発表(発表・質疑応答 10分×4グループ)	【発表進行：鈴木委員】 【午後進行：桑原委員】
16:00-16:05	総評	《荒川委員長》
16:05-16:15	アンケート記入・閉会	

令和6年度 全学FD研修＜基本編(新任教員等)＞ 参加者名簿

[敬称略]

職 名	氏 名	所属講座等	グループ
薬学部			
教 授	前田 直良	薬学教育推進(薬学教育支援室)	A
助 授	山城 寿樹	衛生薬学(衛生化学)	D
歯学部			
講 師	高橋 正敏	口腔機能修復・再建学系(生体材料工学)	D
助 教	杉山 のどか	口腔機能修復・再建学系(歯周歯内治療学)	B
助 教	島谷 真梨	口腔生物学系(生理学)	C
助 教	松木 優子	総合教育学系(臨床教育管理運営)	A
看護福祉学部			
特任教授	高橋 亮	福祉マネジメント学科(社会福祉学)	B
助 教	原 美希	看護学科(基礎・統合看護学:基礎看護学)	D
助 教	松浦 詠子	看護学科(基礎・統合看護学:基礎看護学)	A
助 教	鈴木 菜緒香	看護学科(生涯発達看護学:成人看護学)	B
助 教	野崎 由希子	看護学科(生涯発達看護学:母性看護学)	C
リハビリテーション科学部			
准教授	永見 慎輔	言語聴覚療法学科	C
講 師	阿部 隆宏	理学療法学科	B
助 教	谷口 翔平	理学療法学科	A
助 教	用田 歩	理学療法学科	D
助 教	齋藤 隆司	作業療法学科	C

参加者計 16

講師(1)	学長	三国 久美
FD委員長(1)	歯学部	荒川 俊哉
FD委員(10)	薬学部	小島 弘幸
	歯学部	會田 英紀
	看護福祉学部	桑原 ゆみ・八木 こずえ
	心理科学部	柳生 一自
	リハビリテーション科学部	本家 寿洋・中川 賀嗣
	医療技術学部	藏満 保宏
	全学教育推進センター	鈴木 喜一
	歯科衛生士専門学校	千葉 利代
事務担当(3)	学務部	茂庭 智広・橋本 悠平・紺井 咲

全学FD研修（基本編） グループ編成

グループ	氏 名 【所属学部等】		FD委員
A 4 名	前田 直良 【薬】	松木 優子 【歯】	柳生委員 本家委員
	松永 詠子 【看護】	谷口 翔平 【理学】	
B 4 名	杉山 のどか 【歯】	鈴木 菜緒香 【看護】	小島委員 八木委員 藏満委員
	高橋 亮 【福祉】	阿部 隆宏 【理学】	
C 4 名	島谷 真梨 【歯】	野崎 由希子 【看護】	會田委員 鈴木委員 千葉委員
	齋藤 隆司 【作業】	永見 慎輔 【言語】	
D 4 名	山城 寿樹 【薬】	高橋 正敏 【歯】	桑原委員 中川委員
	原 美希 【看護】	用田 歩 【理学】	

グループの役割分担

- 【進 行】グループ討論時の司会進行を行う。
 【書記・PC入力】グループ討論時のPC入力(書記)を行う(プロダクト作成)。
 作成したプロダクトはPC等に保存(終了後提出)。
 【発表者】全体発表時にグループプロダクトの発表を行う。
 【発表資料作成】メンバーが協力して作成する。

ファシリテーター(FD委員)

- グループ討論・作業が効率的に進むようにサポートする。
 グループ討論のタイムキーパーも行う。

研修報告書 原稿

- | | |
|-------------|--|
| ① グループプロダクト | グループ発表資料 |
| ② 参加者アンケート | Google Forms(本日提出) |
| ③ FD委員感想 | 400字以内(ワード形式、フォント10.5、A4縦標準サイズ) |
| ④ 提出先・提出期限 | 事務局(学務部教務企画課) fd-kensyu@hoku-iryo-u.ac.jp |
| | ①③提出期限:4月26日(金) |

2024年度 全学FD研修 ＜基本編＞

学生を中心とした教育を 進めるために

サブテーマ
ユニバーシティ・アイデンティティを考える



主催：全学FD委員会

2024年4月2日（火） 当別キャンパス 中央講義棟



研修会開催の趣旨

本学の教職員一人ひとりが自主性・創造性を発揮することにより「学生中心の教育」並びに「患者中心の医療」を推進しつつ、「21世紀の新しい健康科学の構築」を追究することが本学の行動指針である。

その実現のためにFD研修会を開催し、教授法の開発改善を行うとともに「教育力」を高めることを本研修会の趣旨とする。

研修の目標

- 1) 本学の教育の三方針、アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）、ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）を理解する。
- 2) 大学教員としての自覚を持って、どのように講義を行うのかを理解し、またその際の様々な注意点や留意点を理解する。
- 3) 本学の「ユニバーシティ・アイデンティティ」とは何かを考える。

研修会スケジュール

研修会スケジュール		
9:40	FD委員集合	午前進行:荒川委員長
9:50	参加者集合	
10:00	開会、委員長あいさつ／スケジュール確認ほか	荒川委員長
10:10	学長講話: 「北海道医療大学の教員としての使命と期待」	三国 久美 学長
11:05	レクチャー: 「当大学の理念・目標・方針に基づく授業 ～基本的な確認事項について～」	藏満委員
11:35	昼休憩	
12:40	参加者集合	
	FD委員の自己紹介	午後進行:桑原委員
12:50	ワークショップ作業解説	中川委員
	ワークショップの進め方、ブレイクアウトルームについて等	
13:10	ワークショップ 「本学のユニバーシティアイデンティティに即した教育法」 (自己紹介、役割分担(記録・発表等)を決める時間を含む)	
15:00	休 憩	
15:10	発 表(1グループ 10分)	発表進行:鈴木委員
16:00	総評・アンケート提出	荒川委員長
16:15	閉会	
スケジュールは配付済みのプリントもご確認ください		

研修会スタッフ

研修会スタッフ

学長	三国久美
FD委員長	荒川俊哉 歯学部教授
FD委員	小島弘幸 薬学部教授
	會田英紀 歯学部教授
	桑原ゆみ 看護福祉学部教授
	八木こすえ 看護福祉学部准教授
	柳生一自 心理科学部教授
	本家寿洋 リハビリテーション科学部教授
	中川賀嗣 リハビリテーション科学部教授
	藏満保宏 医療技術科学教授(レクチャー担当)
	鈴木喜一 医療技術学部／全学教育推進センター准教授
	千葉利代 歯科衛生士専門学校専任教員
事務局	茂庭智広 学務部次長、教務企画課 橋本悠平、IR課 紺井 咲

研修会参加者

2024年度全学FD研修（基本編） 参加者

薬学部		看護福祉学部	
前田直良	A	野崎由希子	C
山城寿樹	D	原 美希	D
歯学部		松浦詠子	A
島谷真梨	C	リハビリテーション科学部	
杉山のどか	B	阿部隆宏	B
高橋正敏	D	齋藤隆司	C
松木優子	A	谷口翔平	A
看護福祉学部		氷見慎輔	C
鈴木菜緒香	B	用田 歩	D
高橋 亮	B	参加者内訳	4学部 16名

参加者のグループ分け

A	B	C	D
前田直良(薬)	杉山のどか(歯)	島谷真梨(歯)	山城寿樹(薬)
松木優子(歯)	鈴木菜緒香(看)	野崎由希子(看)	高橋正敏(歯)
松浦詠子(看)	高橋 亮(看)	齋藤隆司(リハ)	原 美希(看)
谷口翔平(リハ)	阿部隆宏(リハ)	永見慎輔(リハ)	用田 歩(リハ)
グループ担当ファシリテーター			
柳生委員	小島委員	會田委員	桑原委員
本家委員	八木委員	鈴木委員	中川委員
	藏満委員	千葉委員	

※荒川委員長は、各グループを巡回

講話

北海道医療大学 学長

三国 久美

北海道医療大学教員としての使命と期待

レクチャー

当大学の理念・目標・方針に基づく授業
～基本的な確認事項について～

藏満保宏

医療技術学部教授 FD委員

昼食・休憩

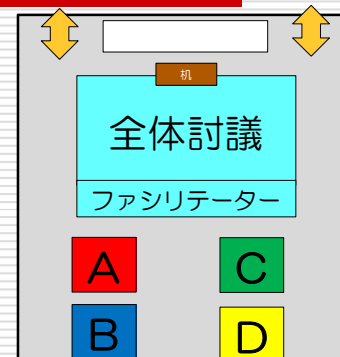


ワークショップの開始： **12:40**
(時間厳守)

12:38 までにお集まりください。

2024年度 全学FD研修（基本編）
2024年4月2日（火） 当別キャンパス 中央講義棟 C52 講義室
主催：全学FD委員会

グループの場所にお座りください。



セッションの流れ

進行／桑原委員

- 12:40 - 12:50 全学FD委員の自己紹介
- 12:50 - 13:10 ワークショップテーマ説明
プロダクトの作成作業
ワークショップの進め方
- 13:10 - 15:00 ワークショップ
自己紹介、役割分担、グループ討論
- 15:00 - 15:10 休憩
- 15:10 - 16:00 発表 ※発表グループ交代等の時間調整含む
(発表・質疑応答
10分×4グループ)



2024年度 全学FD研修 <基本編>

ワークショップテーマの説明と
プロダクトの作成作業、
ワークショップの進め方について

2024年4月2日（火曜日）

主催：全学FD委員会

担当：中川委員（リハビリテーション科学研究科・FD委員）

ワークショップテーマ 説明①

本学のユニバーシティ・アイデンティティー
(UI) に即した教育法

大学を取り巻く環境は、ユニバーサル化^(※)と少子化による存続競争が激化する状況です。
そこで、本学の理念や方針等から、特徴的なUIを考察し、学内外に対しその特徴を印象付ける具体的な教育法（教育効果の高い授業の進め方や新たなスタイル）の展開について議論してください。

※ユニバーサル化：進学率が50%以上となった段階

ワークショップテーマ 説明②

本学の理念や教育の三方針、3つのポリシー^(※)を理解し、本学のUIとは何かを考える。

その上で

- 本学のUIとなりうる本学の良さ、特長を洗い出す。
- 本学のUIとなりえる特徴を念頭におき、戦略的にアピールできる「学生を中心とした教育」を考える。
- 戦略的にアピールできる「学生を中心とした教育」の手法を具体的に示す。

(※) アドミッション、ディプロマ、カリキュラムの各ポリシー

作業解説

プロダクト作成の作業ステップを例示します
(いろいろな進め方があると思いますので進め方の一例として参考にご覧ください)

<step1>

【課題を具体的に定義する】

議論を効率的に進めるには、課題を具体的に定義し、スタート地点をしっかりと共有することで議論がまとまりやすくなります。

<step2>

【アイデアを出し議論する】

グループ内で検討するテーマに対するアイデアを引き出し、議論を活発にします。

ポイントは、

- ・出てきたアイデアを否定しない
- ・傾聴する
- ・議論に参加できないメンバーには話を振る

(アイデアの質は後で検討するのでここでは気にしません)

<step3>

【アイデアを分類し選択する】

出されたアイデアを分類することは、アイデアの良し悪しを議論するよりも効率的になります。

次に、グループのプロダクトとするアイデアを選択します。選択の方法としては、「評価軸^(※)」を決めて選択していく方法があります。

(※)評価軸:例えば、実行性や効果、かかる費用や時間・・・など

<step4>

【アイデアの詳細を詰めてまとめる】

自由に出されたアイデアは細部が詰められていないので、グループのプロダクトにするために、以下の点を詰めていきます。

- 1.誰が、2.どこで、3.どんな風に、4.誰に対して、5.どんなタイミングで、6.なぜそれをやるのか
- ・・・いわゆる5W1Hです。

<step5>

【グループ発表】

発表では、以下のポイントを意識します。

- ◇最終的な結論を一言で表現する(40文字以内)
- ◇なぜその方法を選んだのか(理由・基準)
- ◇具体的なアイデアの内容(実行方法・アイデアの詳細)
- ◇アイデアの実行による結果(生じる利益・利点)

＜プロダクトのまとめと発表方法＞

■プロダクトの発表資料の作成には、パワーポイント、ワードなどを使用してください。

(プロダクト作成に使用するアプリ等は問いません)

■作成したプロダクトは、本研修会終了後、全学FD委員会に提出してください。

提出方法は問いません。

→メールの場合は、fd-kensyu@hoku-iryo-u.ac.jp

→USBメモリなどに保存して提出の場合は、学務部教務企画課／IR課

学生中心とした教育をすすめるために、UIを念頭において、より教育効果の高い授業の進め方や新たなスタイルを提案してください。

言葉の説明（補足）

ディプロマ・ポリシー（DP）



学位授与方針

◇ディプロマ・ポリシーに盛り込むべきポイント

- ①学生が身に付けるべき資質目標・能力目標の明確化。
- ②「何ができるようになるか」に対し、卒業認定、学位授与に必要な学修成果を具体的に示す。
- ③策定においては、学生の進路に資するよう社会における顕在・潜在ニーズも十分に踏まえる。

中央教育審議会大学分科会大学教育部会（平成28年3月31日）より

カリキュラム・ポリシー（CP）



教育課程の編成・実施方針

◇カリキュラム・ポリシーに盛り込むべきポイント

- ①ディプロマ・ポリシー（DP）を踏まえた教育課程の編成、学修方法・学修過程、学修成果の評価方法等を具体的例示。
- ②能動的学修、大学教育の質的転換に向けた取組の充実。
- ③DPに基づく体系的な教育課程の構築に向けた、初年次教育、教養・専門教育、キャリア教育等、多面的観点から検討。
- ④多様な入学者が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できるような観点をもった初年次教育の充実。

中央教育審議会大学分科会大学教育部会（平成28年3月31日）より

アドミッション・ポリシー（AP）



入学者 受入方針

◇アドミッション・ポリシーに盛り込むべきポイント

- ①各大学の強み、特色や社会的な役割を踏まえつつ、大学教育を通じてどのような力を発展・向上させるのか。
- ②入学者に求める能力は何か。
- ③入学者選抜において、高等学校までに培ってきたどのような力を、どのように評価するのか。（どのような要素に比重を置くのか、どのような評価方法を活用するのかなど）

文部科学省高等教育局大学振興課大学入試室資料（平成27年3月）より

ユニバーシティ・アイデンティティ

「大学がイメージの統一を図り、その組織の存在を人々に印象付けて組織の内外ともに活性化を図るための行為」

ビジュアル・アイデンティティ（VI）：大学が社会に送り出すあらゆるもの（研究・教育に関する情報と人、サービス、設備、広告、校章に至るまで）をシンボルやデザインによって統一性や計画的多様性を持たせる

マインド・アイデンティティ（MI）：新たな教育理念の確認・確立、目標設定、長期的戦略計画の立案、内部資源の再評価・再編成などが行われる

ビヘイビア・アイデンティティ（BI）：大学の理念、機能、役割を社会に向かって明確に示し、その存在理由を主張し、社会と組織内部の支持と理解を求める

その結果を踏まえた外部への情報発信を中心とするコミュニケーション活動で、実態とイメージの一体化をはかる統合された組織行動

日経広告研究所1994:17-18

関連の参考資料

大学の基本方針

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/philosophy/basic-policy>

教育理念・目的・目標

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/philosophy/rinen/>

行動指針

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/philosophy/guideline/>

大学の三方針（ディプロマ、カリキュラム、アドミッションの各ポリシー）

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/philosophy/policy/>

シラバス（学部別にサイトが用意されています）

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/for/student/syllabus/>

学生便覧（学生便覧の後半に北海道医療大学学則が掲載されています）

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/for/student/gakuseibinran/>

学校法人東日本学園 中期計画

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/summary/med-term>

入試情報WEBサイト

<https://manavi.hoku-iryo-u.ac.jp/>

オープンキャンパス

<https://sites.google.com/hoku-iryo-u.ac.jp/opencampus/>

ワークショップの流れ

12:50 - 13:10

- ・ワークショップテーマ、プロダクトの解説
- ・ワークショップの進め方の説明

13:10 - 15:00

- ・ワークショップ（各グループ）

15:00 - 15:10 休憩

15:10 - 16:00

- ※発表グループ交代等の時間調整含む
- ・発表、質疑応答（4グループ各10分）

ワークショップの進め方

質問です。

ワークショップは初めて？

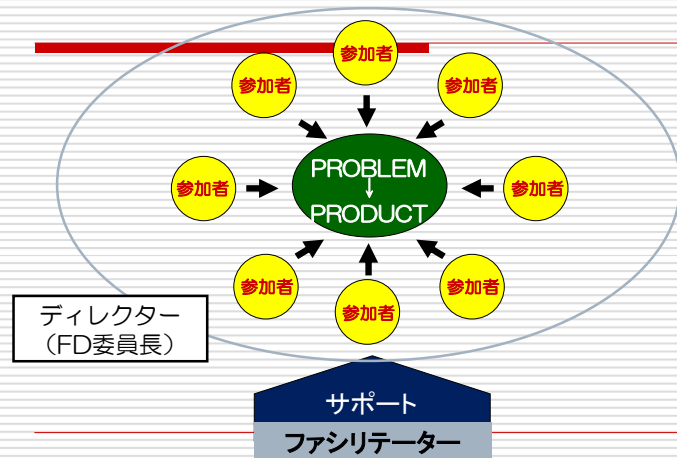


ワークショップとは？



- ・ 多人数を対象として、**参加者1人1人の参画意識を高める**ために、**小グループ**に分かれて**討論と作業**を行い、**結論**を出していく方式をいう。
- ・ **一定の時間内**にある**成果(プロダクト)**を生み出すという手段をとる。

ワークショップとは？



ワークショップの流れ

1. プレナリーセッション

全 体 : 導入講義・課題の確認



2. スモールグループディスカッション (約100分)

グループ別: 課題について討論・プロダクト作成



3. プレゼンテーション (1グループ10分)

グループ別: 発表・質疑応答



ワークショップの要件

1. 全てのメンバーが積極的な参加者になる
2. 参加者全員が **Resource Person(主役)**
3. 積極的に建設的、前向きな意見を述べる
4. どんな質問・意見でも**無意味ではない**
(良否の判断はしない。自分と異なる意見でも、まずは「なるほど～」と頷き、もう少し深く尋ねてみる等)
5. あらかじめ決まった**正解**はない
6. 先生はいない
7. 時間を守る



イラスト：富士研WSスライドより

これは歓迎しません… (+o+)



イラスト：富士研WSスライドより

こんな感じで !(^^)!

スモールグループディスカッション

1. 参加者の自己紹介(1人1分程度)

(氏名・所属と併せて、時間があれば、私のいち押し、「実は私○○です」, Good&New[24時間以内にあった「良かったこと(Good)」や「新しい発見(New)」]などを交えた自己紹介も行ってみてください)



2. 役割分担 (リーダー・記録・発表)



3. グループ討論 ・発表内容の確認

役割分担

- 進行 []
 - グループ討論時の司会進行を行う。
 - 書記・P C 入力 . . . []
 - グループ討論時のP C 入力（書記）を行う（プロダクト作成）。
 - 作成したプロダクトはPC等に保存（終了後提出）。
 - 発表者 []
 - 全体発表時にグループプロダクトの発表を行う。
-
- ファシリテーター（FD委員）
 - グループ討論・作業が効率的に進むようにサポートする。
 - グループ討論のタイムキーパーも行う。



休憩



グループ発表の開始 : **15:10**

（時間厳守）

15:08 までにお集まりください。

グループ発表

総 評

（全学FD委員会 委員長）

参加者 アンケート



研修の評価

皆さんの感想をお聞かせください
(上記QRコード又はEメールに送信されたURLを利用してください)

！アンケートの回答をもって終了です！
お疲れさまでした

学長講話

北海道医療大学の教員としての使命と期待

北海道医療大学の建学の理念

知育・徳育・体育

三位一体による医療人としての全人格の完成

「知」: 真理の探究心に裏打ちされた確かな知識・技術の修得

「徳」: 幅広く深い教養と豊かな人間性を培うこと、

「体」: 健康で活力ある美しく強靱な心身を養うこと



教育基本法 第二条

教育は、その目的を実現するため、学問の自由を尊重しつつ、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

- 一 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。
- 二 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び

知育・徳育・体育: 教育における究極の達成目標であり、
ヒューマンケアを担う人材に欠かせない資質

態度を養うこと。(以下略)

北海道医療大学の教育理念

生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の
連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と
幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を養成
することによって、地域社会ならびに国際社会に貢献すること



※この教育理念のもとに教育目的・目標を設定

北海道医療大学教育の3方針

入学者受け入れの方針(アドミッション・ポリシー)

1. 入学後の修学に必要な基礎学力を有している人
2. 協調性や基礎的な思考力と表現力を有している人
3. 生命を尊重し、他者を大切に思う心がある人
4. 保健・医療・福祉に関心があり、地域社会ならびに人類の幸福に貢献するという目的意識を持っている人
5. 生涯にわたって学習を継続し、自己を磨く意欲を持っている人



北海道医療大学教育の3方針

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

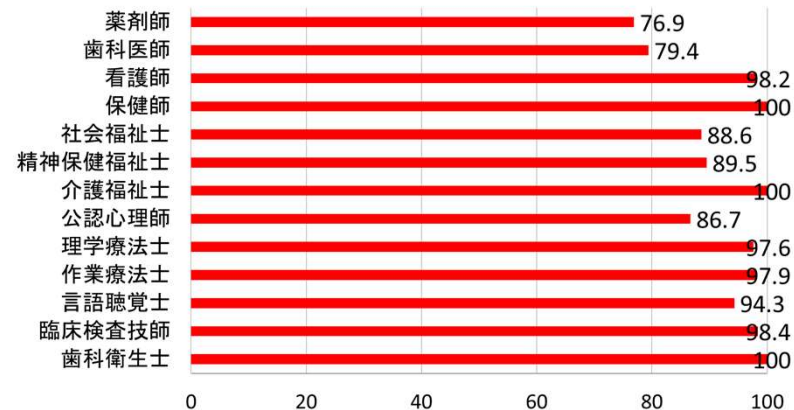
「全学教育科目」と各学部・学科の「専門教育科目」を組み合わせた学士課程教育を提供。

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

各学部・学科の教育理念・目標に沿った学士課程の授業科目を履修し、保健・医療・福祉の高度化・専門化に対応しうる高い技術と知識を身につけ、かつ各学部が定める履修上の要件を満たした学生に対して「学士」の学位を授与する。



本学の国家試験合格率（2023年度）



本学における学生教育への対応

- 1 教育の質の向上と、教育内容・方法の充実
2007年4月 大学教育の総合的検討・立案・実行する「大学教育開発センター」設置
2019年4月より、**全学教育推進センター**に名称変更
- 2 教員の自己評価と学生の評価
教員評価制度(2007年から実施)と評価結果の利用
学生による授業アンケート(1993年度から実施)
- 3 充実した学生生活の確保
Student Campus Presidents (SCP)の導入
(2008年度から実施)

主に全学教育科目



大学経費の問題

国立大学: 運営費交付金(2023年度)

東京大**709億円**、京都大**489億円**、北海道大**320億円**と桁違いに多い。
北海道教育大は**63億円**、旭川医大でも**45億円**給付されている。

私立大学: 経常費補助金(2023年度)

国から配分される運営費交付金は10億円に満たない。
本学**7億8千万円**

学納金に見合った大学側の対応が必要(**学生中心の教育**)
私立大学の収入の**約7割は授業料**であることを忘れてはいけない



道内私立大学経常費補助金

(令和5年度)

(単位:千円)



北海道内の私立大では
最も多い



Health Sciences
University of Hokkaido

安定した経営を維持するためには

- 授業料収入の増加または安定化が第一。
- そのためには、定員割れがあってはいけない。
- 定員割れをなくすためには多くの人が受験してくれなくてはならない。
- 多くの人が受験してくれるためには、魅力的な大学にしなければいけない。
- 北海道からのみ学生が受験してくれるだけではなく、全国から来てくれるのが理想である。
- 魅力的な大学・選ばれる大学になるために何をすべきかを教員の方々は考えてほしい。



Health Sciences
University of Hokkaido

国家試験の合格率を上げるために

- 入り口対策
 - 入試の際、優秀な学生を集める。
 - 北海道医療大学のブランドを上昇させる。
 - 国試の合格率が高い。留年率が低い。
 - 北海道だけでなく、全国から受験生を集める。
- 出口対策
 - 国試対策をきめ細かく行う。
 - 他の大学の教育システムを学び応用する。
 - 魅力的な授業を行う。



Health Sciences
University of Hokkaido



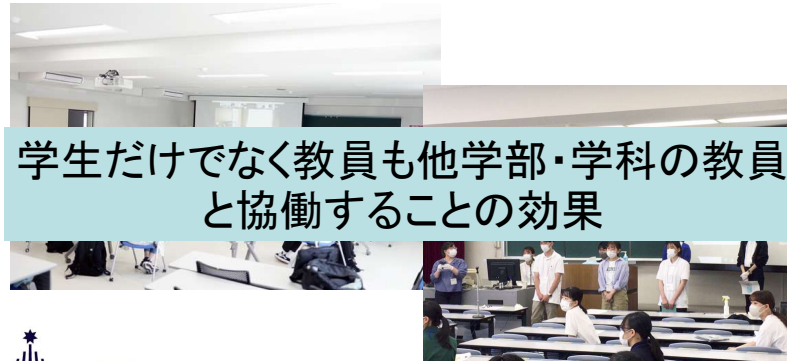
多職種連携教育：
医療系総合大学の本学だからこそ実現できる
さらなる体系化により充実させる必要がある



Health Sciences
University of Hokkaido

※表は一部のみ抜粋

全学連携地域包括ケア実践演習



学生だけでなく教員も他学部・学科の教員
と協働することの効果



新型コロナウイルスワクチン接種への 北海道医療大学の取り組み

- わが国で最も早く2021年6月21日より学生、教職員とその家族に対してワクチン接種を開始した。
- 打ち手として歯科医師を90人確保できた。
- 医師、歯科医師、看護師、薬剤師など北海道医療大学の保有する人材を駆使することで問題なく終了した。
- 学生、教職員を合わせてほぼ90%の接種率であった。



コロナワクチンの職域接種をいち早く実施



医師による問診

北海道医療大学における
教職員の多職種連携の実践の場となった

医療従事者資格のある
各学部の教員による対応



学生に健康を守ることの大切さを教える

- ・医療人になるためには健康の重要性をしっかりと認識する必要がある。そうでなければ他人の健康を守ることはできない。
- ・学生生活を健康に過ごせるよういくつかのアドバイスが必要。
- ・バランスの取れた食生活、適度な運動、十分な睡眠が重要。
- ・喫煙は絶対に止めよう。



北海道内の大学別科研費採択数・配分一覧(令和5年度)

大学名	採択件数(件)	女性比率(%)	新規・継続 40歳未満比率(%)	合計(千円)
北海道大学	1,687	15.7%	27.0%	6,052,020
札幌医科大学	264	20.1%	29.2%	406,380
旭川医科大学	141	18.4%	27.7%	265,330
北海道医療大学	106	28.3%	24.5%	145,990
北海道教育大学	99	17.2%	25.3%	128,960
室蘭工業大学	76	9.2%	28.9%	108,030
帯広畜産大学	69	15.9%	26.1%	143,130
北海道科学大学	61	29.5%	14.8%	81,510
北見工業大学	60	8.3%	15.0%	128,310
酪農学園大学	56	16.1%	26.8%	81,640
公立はこだて未来大学	34	8.8%		
小樽商科大学	33	15.2%		
札幌市立大学	31	61.3%		
北海学園大学	31	19.4%		
北星学園大学	19	31.6%	21.1%	19,370

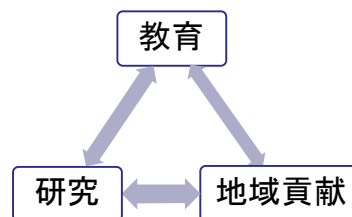
採択件数・配分額
北海道で第
道内私立大学

採択件数・配分額のいずれも
北海道で第4位
道内私立大学で**第1位**

研究活動への期待

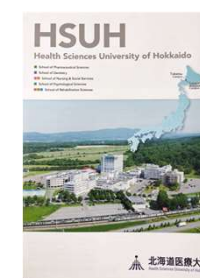
- ・医療系総合大学の強みを生かして、**学際的な研究活動**を進めてほしい
- ・地域貢献・教育の観点から、研究活動と効果的にリンクできるような取り組みも期待される

地域包括連携協定：
当別町・滝川市・苫小牧市



國際交流

大学関係機関	国語大学(国名)	備考	国語年・最新更新年
アールバーグ大学(スウェーデン)			1992年・2022年
北米大学(カナダ)		英字版(1995年)、普通国語学専攻国語学(1995年)	2004年・2018年
北米大学(カナダ)			2007年・2023年
北大(中国)			2016年
韓城東亞聯合医科大学(ロシア)			2023年
ベルゴ国立医科大学	医学部(2017年)		
学術関係機関			
国語大学(国名)	国語専攻	日本語専攻	国語年・最新更新年
東洋大学(中国)	口語専攻		1993年・2018年
ユニバーシタス・デ・フッフルーレ(オランダ)	普通国語学・社会言語学	普通国語学専攻	1996年
東京大学(インドネシア)	国語学		2007年・2023年
カウラツ・デ・ペルセ(インドネシア)	国語学		2010年・2022年
中央大学(オーストラリア)	国語学	国語学	2014年・2017年
マサチューセッツ工科大学	国語学	国語学	2015年・2020年
ロンドン大学(イギリス)	国語学	国語学	2015年・2020年
リヴィングストン・ユニヴァーシティ	国語学	国語学	2016年
東京工業大学(スウェーデン)	国語学	国語学	2017年・2023年
東京大学(インドネシア)	国語学	国語学	2018年・2022年
東京大学(オーストラリア)	国語学	国語学	2018年・2022年
チャロコン大学(タイ)		9年制・理科専攻	2020年
アール・ヘンダーソン大学(バングラデシュ)	国語学		2018年・2022年
セント・メアリー大学(オーストラリア)	国語学	普通国語学専攻	2018年
バン・マン・グン大学(ベトナム)	日本語学		2018年
キョート大学(韓国)	国語学	国語学	2018年
岡山大学(マレーシア)	国語学	国語学	2018年
岡山大学(マレーシア)	国語学	国語学	2019年・2022年
カウラツ・デ・ペルセ(オーストラリア)	社会言語学専攻	普通国語学専攻	2019年
ハイデルベルグ大学(オランダ)	国語学	国語学	2023年
ハイデルベルグ大学(オランダ)	国語学	国語学	2023年



大学間連携:5大学
学部間連携:20大学



勉強励む学生へ「応援メシ」



農家提供のメニュー 学内でピラフなど調理

【函】「口を揃えて応援メシ」を叫ぶ学生たち。この活動は、学生たちが勉強を頑張る中で、栄養士や学生たちが協力して、学内でピラフなどを調理し、学生たちに提供している。この活動は、学生たちが勉強を頑張る中で、栄養士や学生たちが協力して、学内でピラフなどを調理し、学生たちに提供している。

北海道新聞掲載
2023年2月22日



SCP×北海道医療大学後援会
「合格祈願！応援メシ」

コラボ！試験応援企画

寄付いただいた白米約300kgを、後援会の協賛の下、学内食堂（エームサービス）に調理して頂き、国家試験や定期試験等の勉強に励む学生に無料で提供し応援します！

〈当別キャンパス〉
・16時15分～17時15分
・総合玄関ロビー（P-1講義室前）・就職相談室前ロビー

〈あいの里キャンパス〉
・16時15分～17時15分

両キャンパス・実施期間合計、約3,000食の提供を予定しています。

1. Googleフォームで申込受付（締切：提供当日9時）
※当日の提供可能数を超えた場合は抽選とし、できる限り多くの学生に提供したいと考えています。
2. 当選結果はメールで通知
3. 受け取りの際は、IC学生証が必要になります。



SCP×北海道医療大学後援会
合格祈願！応援メシ

ご寄付いただいた白米300kgを学内食堂に調理していただき、国家試験・定期試験等、試験勉強に励む学生向けに無料提供！

1. Googleフォームで申込受付（締切：提供当日9時）
※予定数を超えた場合、抽選となります。
2. 受け取りの際は必ずIC学生証をお持ちください！

期間：1/31～2/29を予定
当別キャンパス（16:15～17:30）
あいの里キャンパス（16:15～17:00）
月・水・金→正面玄関ロビー
火・木→中央講義棟2階
就職相談室前ロビー

さらに！生米配布も実施します！
両キャンパスに生米を配布し、手配などの先着順となります！
ご来校の際は、IC学生証の提示をお願いします！

北海道ボールパークFビレッジ 新キャンパス設置について

北海道医療大学は、北広島市の北海道ボールパークFビレッジ内に新キャンパスの増設を計画することといたしました。

新キャンパスは、2028年4月の開設をめざしており、学生の皆さんの通学の利便性の向上を図るとともに、主な教育研究機能の一元化及び校舎機能・設備の充実化による教育機能の一層の強化を目的としたものです。

また本学は2023年10月10日、新キャンパスを含む周辺地域のまちづくりについて官民学で連携しながらすすめていくため、北広島市、株式会社ファイターズスポーツ&エンターテインメントと三者間で基本合意を締結いたしました。これまで以上に学生の皆さんが学部学科の枠を超えて共に学び、さらに充実した学生生活を送ることが出来るよう教育環境を整備してまいります。

2023年10月11日発表 大学HPより



北海道ボールパークFビレッジ 共同まちづくりに関する基本合意締結について

北海道医療大学は、北広島市と、株式会社ファイターズスポーツ&エンターテインメント（以下FSE）とともに、北海道ボールパークFビレッジ（以下「Fビレッジ」）エリア内を予定地とする大学キャンパス・病院新設などの計画について、三者基本合意を締結いたしました。

本基本合意に基づき、北広島市やFSEと協力して、魅力あるまちづくりの実現を共通の基本的思想とし、Fビレッジの都市公園としてのあり方や災害時における連携協力など、Fビレッジ並びにその周辺地域のまちづくりについて十分話し合いをしながら、魅力あるまちづくりの実現に向け、協力してまいります。

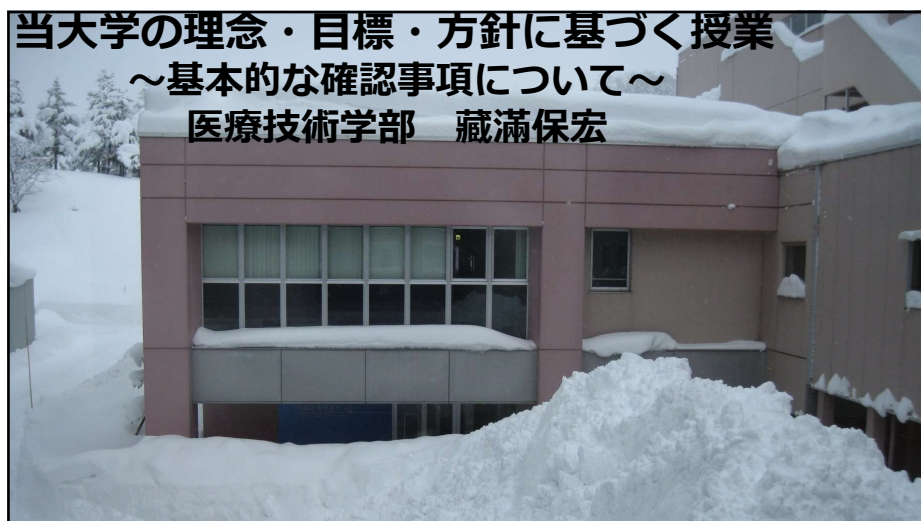
2023年10月11日発表 大学HPより





レクチャー

当大学の理念・目標・方針に基づく授業
～基本的な確認事項について～



本日のレクチャーの内容

- (1) 本学の教育理念
- (2) 本学が力を入れる教育成果
- (3) 授業を行うにあたって
- (4) Google formの使い方
- (5) 授業の成績評価について
- (6) 著作権について
- (7) 私学共済ハンドブックについて
- (8) 当別キャンパスでの気分転換

本日のレクチャーの内容

- (1) 本学の教育理念
- (2) 本学が力を入れる教育成果
- (3) 授業を行うにあたって
- (4) Google formの使い方
- (5) 授業の成績評価について
- (6) 著作権について
- (7) 私学共済ハンドブックについて
- (8) 当別キャンパスでの気分転換

建学の理念：

「知育・徳育・体育の三位一体による医療人としての全人格の完成」

教育理念：「**生命の尊重**と**個人の尊厳**を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を育成することによって、地域社会ならびに国際社会に貢献する。」

教育目標

1. 幅広く深い教養と豊かな人間性の涵養
2. 確かな専門の知識および技術の修得
3. 自主性・創造性および協調性の確立
4. 地域社会ならびに国際社会への貢献

行動指針：「**学生中心の教育**」ならびに「**患者中心の医療**」を推進しつつ、「21世紀の新しい健康科学の構築を追究すること」。

求められる教員像、教員組織（抜粋）

自主性・創造性に優れ、「**学生中心の教育**」と「**患者中心の医療**」を担う教育・研究能力を有し、地域・国際社会への貢献が可能な人材。

1. 「全学教育科目」と各学部・学科の「専門教育科目」の適切なバランスと連携を図ることが可能な適正な教員数を配置。
2. 専門分野及び関連領域の研究とその研究成果を学生教育や国内外の社会へ還元するために必要な教員を配置。
（女性33%、若手25%、外国人4%、研究補助者6%以上が目標）
3. 学生への修学支援、生活支援、進路支援に関する指導・助言を適切に行うために必要な教員組織を整備。
4. 教員の募集・採用・昇任は、透明性、公平性を担保しつつ、公募制に加え推薦制による候補者選考も可能。
5. 必要な役割分担と責任の所在を明確に定めた組織体制を整備。
6. 教育・研究・社会貢献を常に念頭に置き、質の高い教育と優れた研究成果を生むため、FD活動を組織的かつ継続的に取り組む。

北海道医療大学 三方針（抜粋）

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

保健・医療・福祉の高度化・専門化に対応する高い技術と知識、優れた判断力と教養を身につけた学生

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

「保健と医療と福祉の連携・統合」を基本として、確かな知識と技術、深い教養と豊かな人間性を持ち、広く社会に貢献できる専門職業人の養成に向けた教育課程を編成

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

本学卒業には全学共通基盤の知識・技術・態度が必要となるばかりではなく高度な専門性の修得が要求される。そのため、各学部学科では学位授与の方針の要件をより効果的に達成する資質を持った人材を受け入れる

本日のレクチャーの内容

- （1）本学の教育理念
- （2）本学が力を入れる教育成果
- （3）授業を行うにあたって
- （4）Google formの使い方
- （5）授業の成績評価について
- （6）著作権について
- （7）私学共済ハンドブックについて
- （8）当別キャンパスでの気分転換

本学が特に力を入れる教育成果

- ・ **国家試験**受験者の高い**合格率**
- ・ 保健・医療・福祉領域で（指導的）専門家に求められる資質として
→ **多職種連携**に関する教育の推進・充実

各学部国家試験合格率（2023年度）

名称	区 分	回	受験者（名）	新 卒 者			国公立合格率（%）
				合格者（名）	合格率（%）	合格率（%）	
名称	薬剤師	109	117	90	76.9	84.4	
	歯科医師	117	34	27	79.4	81.5	
	看護師	113	114	112	98.2	93.2	
	保健師	110	15	15	100.0	97.7	
	社会福祉士	36	35	31	88.6	76.8	
	精神保健福祉士	26	19	17	89.5	82.5	
	介護福祉士	36	3	3	100.0	82.8	
	理学療法士	59	82	80	97.6	95.2	
	作業療法士	59	48	47	97.9	91.3	
	言語聴覚士	26	35	33	94.3	87.3	
	公認心理師	6	15	13	86.7	73.8	
	臨床検査技師	70	61	60	98.4	88.0	
	歯科衛生士	33	19	19	100.0	92.4	

各学部国家試験合格率（2023年度）

名称	区 分	回	受験者（名）	新 卒 者			国公立合格率（%）
				合格者（名）	合格率（%）	合格率（%）	
名称	薬剤師	109	117	90	76.9	84.4	
	歯科医師	117	34	27	79.4	81.5	
	看護師	113	114	112	98.2	93.2	
	保健師	110	15	15	100.0	97.7	
	社会福祉士	36	35	31	88.6	76.8	
	精神保健福祉士	26	19	17	89.5	82.5	
	介護福祉士	36	3	3	100.0	82.8	
	理学療法士	59	82	80	97.6	95.2	
	作業療法士	59	48	47	97.9	91.3	
	言語聴覚士	26	35	33	94.3	87.3	
	公認心理師	6	15	13	86.7	73.8	
	臨床検査技師	70	61	60	98.4	88.0	
	歯科衛生士	33	19	19	100.0	92.4	

各学部国家試験合格率（2023年度）

名称	区 分	回	受験者（名）	新 卒 者			国公立合格率（%）
				合格者（名）	合格率（%）	合格率（%）	
名称	薬剤師	109	117	90	76.9	84.4	
	歯科医師	117	34	27	79.4	81.5	
	看護師	113	114	112	98.2	93.2	
	保健師	110	15	15	100.0	97.7	
	社会福祉士	36	35	31	88.6	76.8	
	精神保健福祉士	26	19	17	89.5	82.5	
	介護福祉士	36	3	3	100.0	82.8	
	理学療法士	59	82	80	97.6	95.2	
	作業療法士	59	48	47	97.9	91.3	
	言語聴覚士	26	35	33	94.3	87.3	
	公認心理師	6	15	13	86.7	73.8	
	臨床検査技師	70	61	60	98.4	88.0	
	歯科衛生士	33	19	19	100.0	92.4	

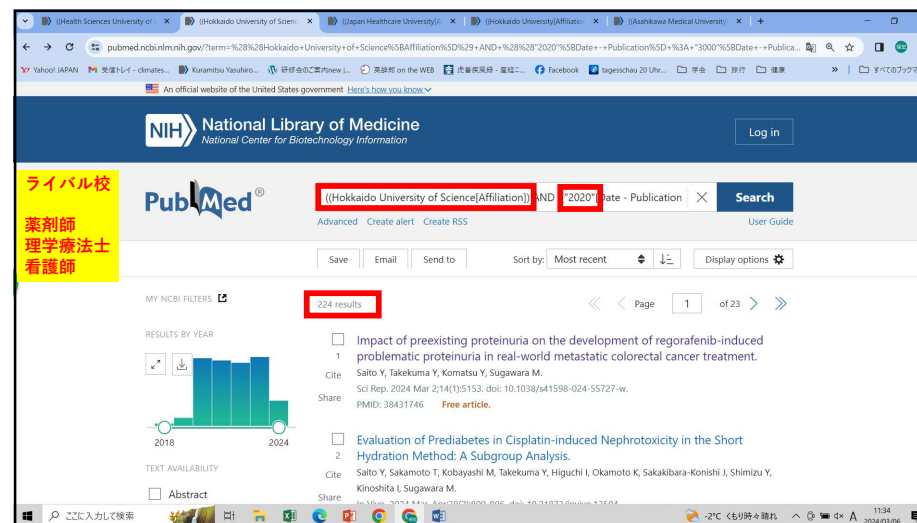
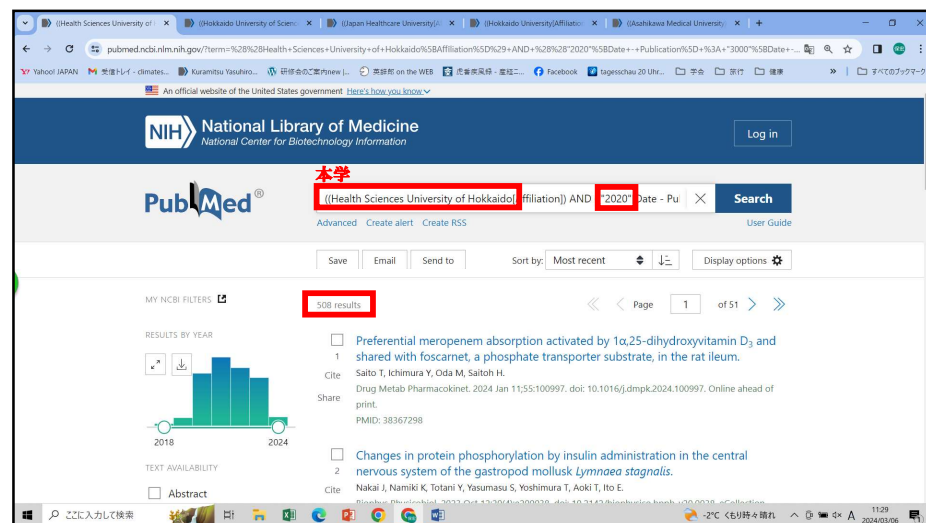
北海道医療大学における多職種連携教育

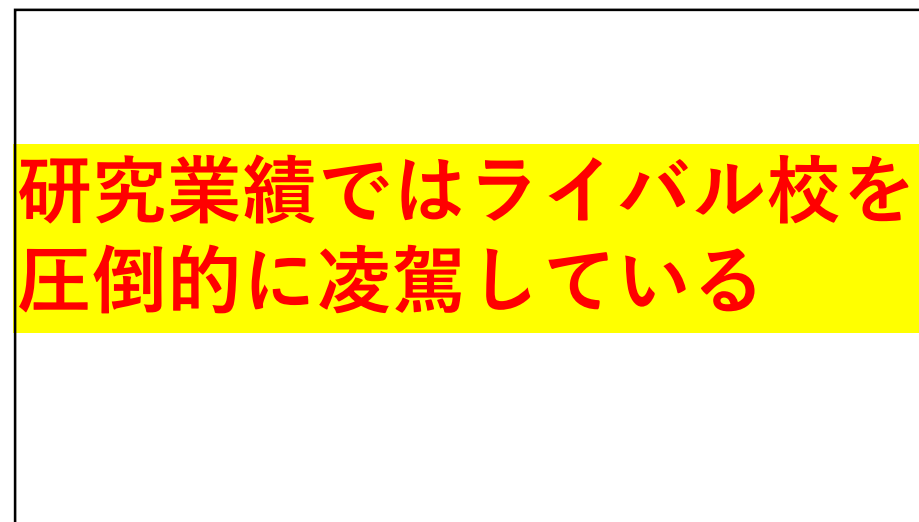
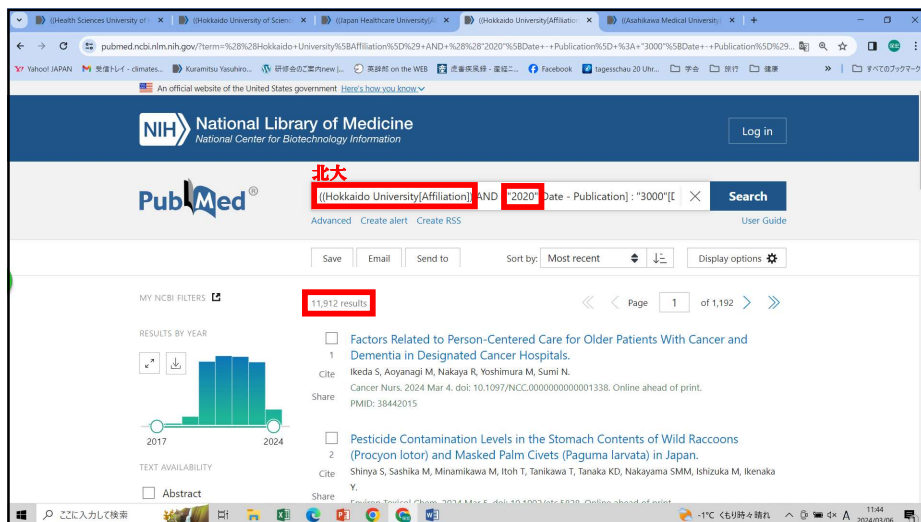
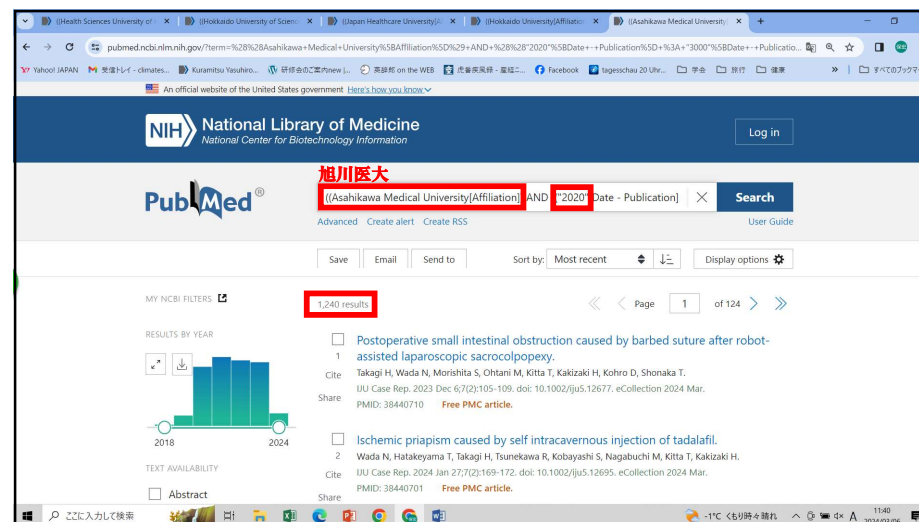
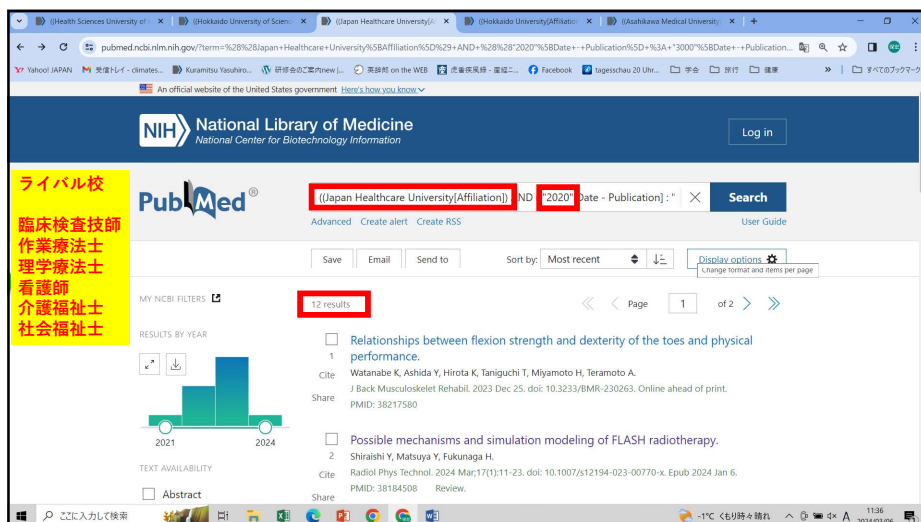
薬学部	歯学部	看護福祉学部	心理科学部	リハビリテーション科学部	医療技術学部
多職種連携入門					
		多職種連携論		多職種連携論	チーム医療・コミュニケーション演習 医療リスクマネジメント演習
全学連携地域包括ケア実践演習					
	医薬品の科学			薬理学	薬理学
				解剖学実習	
				歯科学総論	保健医療福祉演習
看護実践学	看護福祉概論		国際福祉経済論	地域包括ケア論	
医療福祉活動演習	医療人間学演習		ソーシャルワーク概論		
地域医療学			地域医療政策論		
	医療行動科学	臨床心理学		臨床心理学	
	リハビリテーション科学概論	リハビリテーション法			
フィジカルアセスメント	その他の隣接医学（臨床検査学）				

※表は一部のみ抜粋

国試合格률을上げて
ライバル校に差をつけろ！

研究面ではどうなんだろう？





この調子で研究業績を上げてライバル校に圧倒的な差をつければ道内No.1私大の地位を守っていける

さらに

一人一人が現状の倍の論文を発表すれば、旭川医大に並ぶことも可能である！

本日のレクチャーの内容

- (1) 本学の教育理念
- (2) 本学が力を入れる教育成果
- (3) 授業を行うにあたって
- (4) Google formの使い方
- (5) 授業の成績評価について
- (6) 著作権について
- (7) 私学共済ハンドブックについて
- (8) 当別キャンパスでの気分転換

SARS-CoV-2に 感染した場合 どうするか

SARS-CoV-2に感染した場合の流れ

- (1) 発症日を0日として5日間は自宅待機
- (2) 症状軽快し24時間経過していれば6日目から出勤可能
- (3) 感染症報告フォームへの入力必要
- (4) コロナ陽性の場合診断書があれば職免

対応方針：<https://www.hoku-iryo-u.ac.jp/topics/important/945615/>
報告フォーム：<https://forms.gle/VE5ebRbMPwXDeHcq9>

The screenshot shows a Google Forms interface titled '(教職員) 感染症報告フォーム' (Faculty Infection Report Form). The form is for reporting COVID-19 infection status. It includes a login field for 'climates@hoku-iryo-u.ac.jp', a checkbox for email notification, and a dropdown for department selection.

(教職員) 感染症報告フォーム

新型コロナウイルスの5類引き下げを受け、本学教職員の感染症罹患状況を把握するための報告フォーム

climates@hoku-iryo-u.ac.jp アカウントを切り替える

* 必須の欄です

メール *

☐ 返信に表示するメールアドレスとして climates@hoku-iryo-u.ac.jp を記録する

所属

選択

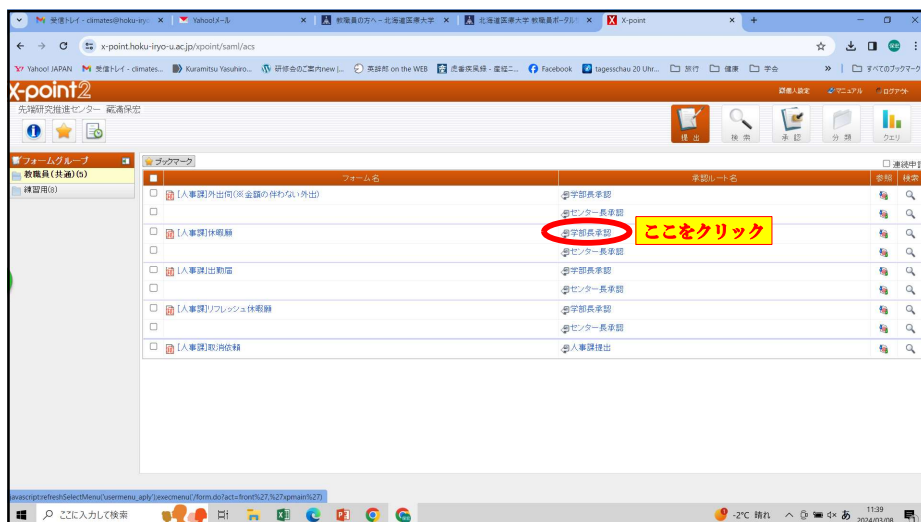




有給休暇や振替 休日を取得する 時にどうするか

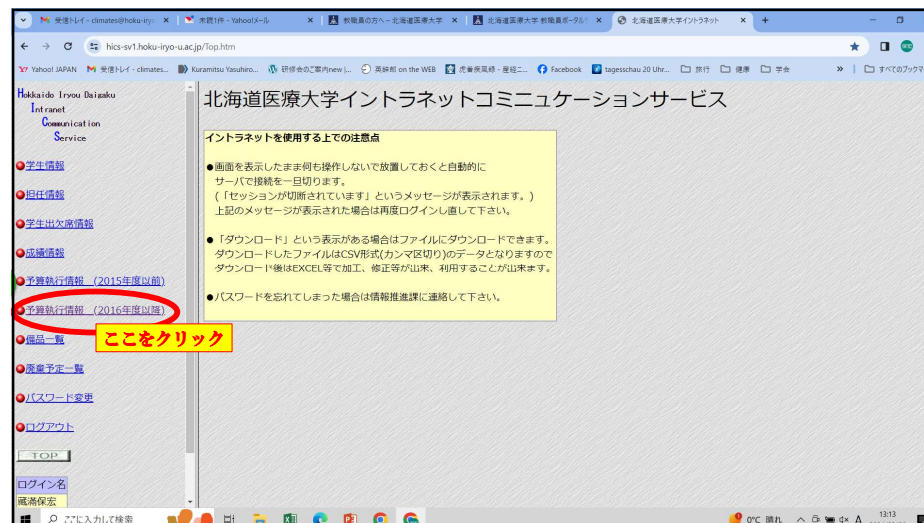


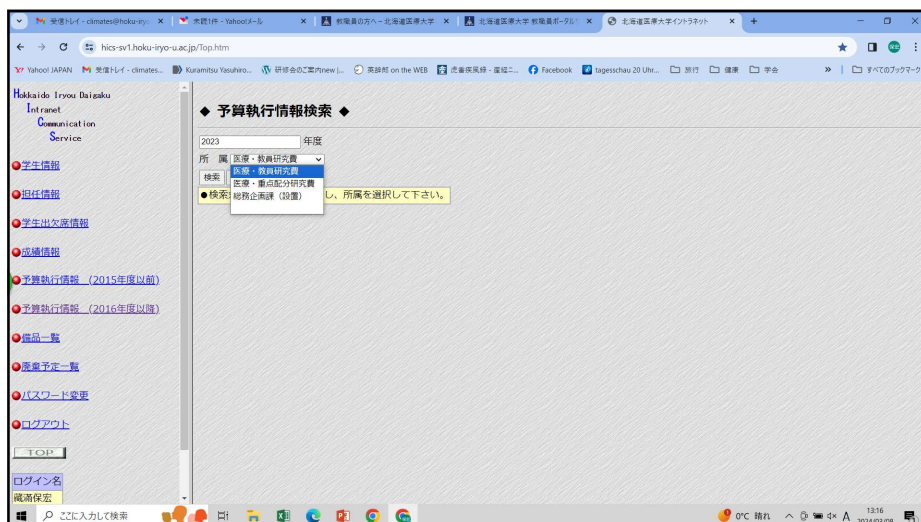




自分の教員研究 費収支を確認する にはどうする







授業を行うにあたって

授業を行うにあたって

授業準備

問い合わせ先	内容
各学部・学科 教務担当教員	授業資料の印刷、場所 周知 (manaba等教育プラットフォーム、 Google ; Classroom)
各学部教務課	講義室の予約、鍵、使い方 座席表、出席カード、カードリーダー 学生へ連絡 (i-portal)

教室に備え付けられているもの

- ・黒板、パソコン・スクリーン → 板書授業でもスライド授業でも対応可能
ただし、パソコン、スクリーン、暗幕の操作が操作机にすべてある教室とスクリーン、暗幕のスイッチが異なる場所にある教室がある
- ・OHP、DVDプレーヤー、VGA端子、HDMI端子
→部屋によってあるなしがある
- ・自分のパソコンをつなげることも可能である。
USBメモリを持参する方が問題が少ない
→特にオンライン授業時

* 教室によって装備品が異なります。
各教室について、事前チェックと動作確認をしてください。

授業形態と特徴（対面授業）

板書授業

- ・学生はノートを取りながら行うので**授業に集中できる**
- ・ノートをとるのが遅い学生がいるので、**進行が遅くなる**
- ・**字が汚い、読めない**、板書だけで理解できないなど時に苦情が出る
- ・事前に**板書計画**を立てておくと学生が理解しやすくなる

スライド授業

- ・**予定通り授業が進行**できる
- ・授業の**進行が速くなりがち**。学生の理解が追いつきにくい
- ・ハンドアウトを渡す必要がある。渡さないと何も残らない
- ・ハンドアウトを渡すと、**ノートをとらず授業に集中しない**学生がでる
- ・**穴あき（カッコ内埋型）ハンドアウト**を配付するなどの工夫が必要である

学生からは、授業のまとめ（確認テスト）が欲しいという意見がある。
その時々ノート記載、内容理解に精一杯なっている可能性がある。

授業形態と特徴（オンライン授業）

（教員と学生の双方向性の確保をお願いします）

<Zoom型授業；オンライン会議システムを利用したライブ授業>

- ・対面授業に近い形で授業ができる
- ・チャットを利用することで、双方向性が確保されやすい
- ・ネット環境の影響を受けやすく、内容が理解しづらい学生がでる
- ・授業中ネット不具合を理由に後日視聴申請学生がでる

<オンデマンド型授業；スライド、動画などをサーバに置き、e-learningシステムなどにより随時配信する授業方式>

- ・ネット環境の影響を受けにくい
- ・時間を気にせず、何度も受講が可能である
- ・双方向性の確保を考える必要がある
- ・受講が後回しになって受講していないコマがたまる学生が出る

Zoom授業解説が、大学のGoogle Drive共有フォルダ内にあります。
USBメモリからスライドショー提示にすると動作が重くなるので、
デスクトップにいったんアップすることをお勧めします。

遠隔授業の要件

1. 設問解答，添削指導，質疑応答等による十分な指導
2. 学生等の意見の公開の機会

平成13年文部科学省告示第51号第2号規定
https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/07091103.htm
https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/07091103/002.htm

学生等の意見交換の公開の機会の確保

- ・掲示板などを設け、学生が書き込めるようにするなどする。
- ・同時双方向型の授業内で自由な発言時間を設定する

Zoom型授業（注意：Zoomの録画授業はオンデマンド型授業になります）

- ・授業中に1、2を実施し、面接授業に相当する教育効果が担保できればよい。
- ・従来型授業とほぼ同じ授業の進め方で実現可能である。
- ・教員＋参加学生全員が授業の意見交換ができる時間を設ける。
（従来授業では挙手による質問が随時可能であることに対応）

オンデマンド型

- ・授業終了後すみやかに1、2を実施（毎回の授業実施に併せて）
- ・動画視聴などと設問解答を組合せて行うことで意見交換が可能である。
- ・LMS（Google Classroomなど）などで意見交換ができる場を設ける。

授業で気をつけたいポイント

- ・集中して話を聞ける時間は、**10～15分**。長くて30分間と思って5分、10分、15分等と、予め講義内容をモジュール化の準備をする
- ・動（書く、解く、作業する）と静（見る、聞く、考える）を組み合わせる
→質問、確認テスト、動画、新情報など新しさと変化が注意・集中力に有効
- ・脳を適度に活性化させたり、休ましたりする
→**雑談や教員自身のエピソード**は、寝ている学生もなぜか起きる
- ・**物理的な筋・関節ストレッチ**などの動作も気分転換（リフレッシュ）として、効果的

経験から毎回の授業毎に国試問題を解かせてみると、講義の内容と国試問題の関係を実感してもらえる

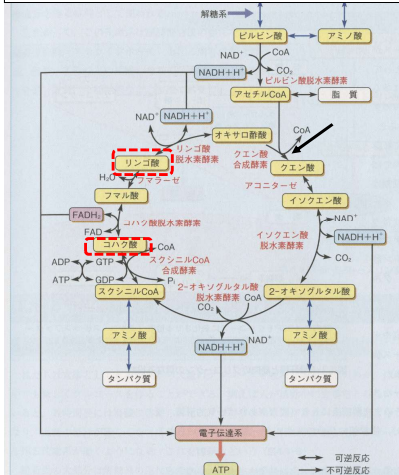
TCA回路に含まれる化合物はどれか。
2つ選べ

- 1) リンゴ酸
- 2) ピルビン酸
- 3) 乳酸
- 4) アスパラギン酸
- 5) コハク酸

TCA回路に含まれる化合物はどれか。
2つ選べ

- 1) リンゴ酸**
- 2) ピルビン酸
- 3) 乳酸
- 4) アスパラギン酸
- 5) コハク酸**

好氣的解糖によりクエン酸回路でグルコースが完全酸化



- ピルビン酸からクエン酸回路を一周するとグルコース由来の炭素はすべて二酸化炭素へ
- 4分子のNADHが合成
- 1分子のFADH₂が合成
- 1分子のGTP (ATP)が合成

臨床生化学 (MCメディカ出版)

クエン酸回路の中間代謝産物

『クエン酸急いで蹴とばし、すぐに怖くなり踏まれたリンゴ置き去りに』

クエン酸 : (クエン酸)
 急いで : (イソクエン酸)
 蹴とばし : (α-ケトグルタル酸)
 すぐに : (スクシニルCoA)
 怖くなり : (コハク酸)
 踏まれた : (フマル酸)
 リンゴ : (リンゴ酸)
 置き去りに : (オキサロ酢酸)

『オクイアサコ不倫』

オ : オキサロ酢酸
 ク : クエン酸
 イ : イソクエン酸
 ア : α-ケトグルタル酸
 サ : サクシニルCoA
 コ : コハク酸
 不 : フマル酸
 倫 : リンゴ酸

Michaelis-Mentenの式は下記のように表されるが、基質濃度をKm濃度の3倍で用いたとき、その反応速度は最大反応速度Vmaxの何%になるか

$$v = \frac{V_{\max} \cdot [S]}{K_m + [S]}$$

- 1) 50%
- 2) 60%
- 3) 75%
- 4) 80%
- 5) 100%

Michaelis-Mentenの式は下記のように表されるが、基質濃度をKm濃度の3倍で用いたとき、その反応速度は最大反応速度Vmaxの何%になるか

$$v = \frac{V_{\max} \cdot [S]}{K_m + [S]}$$

- 1) 50%
- 2) 60%
- 3) 75%
- 4) 80%
- 5) 100%

Michaelis-MentenのKmに1、[S]に3を代入するとv/Vmaxは3/4となり、反応速度はVmaxの75%となる

$$v = V_{\max} \cdot 3 / 1 + 3 = 3 / 4 \cdot V_{\max} = 0.75 \cdot V_{\max}$$

単純計算なので、慌てるな！！

1回の講義で国試問題を5問ほど紹介しているので年間30回の講義だと150問ほど紹介することになる

試験に出題する場合は5択だとウルおぼえでも正解できるので、**選択肢をバラバラ**にして○×で解かせた方が正確に覚える

出欠席（担当教員は注意・関心を払う必要があります）

出席率70%以上。15回授業で**5回**以上の欠席は失格。

学部、科目によって違いがあります。

→毎週欠席者報告、あるいは3回以上で報告、定期試験前に報告などがある。

いずれの場合も、必ず**出欠席確認等の管理**を行う必要がある。

学生から欠席回数について、疑義申し立てられる場合もある。

対面講義出欠確認方法：点呼、カードリーダー、出席カード、座席表、
確認テスト、リアクションペーパー

オンライン授業での出欠席確認法

Google Formによる確認テストを利用する方法が多いようです。

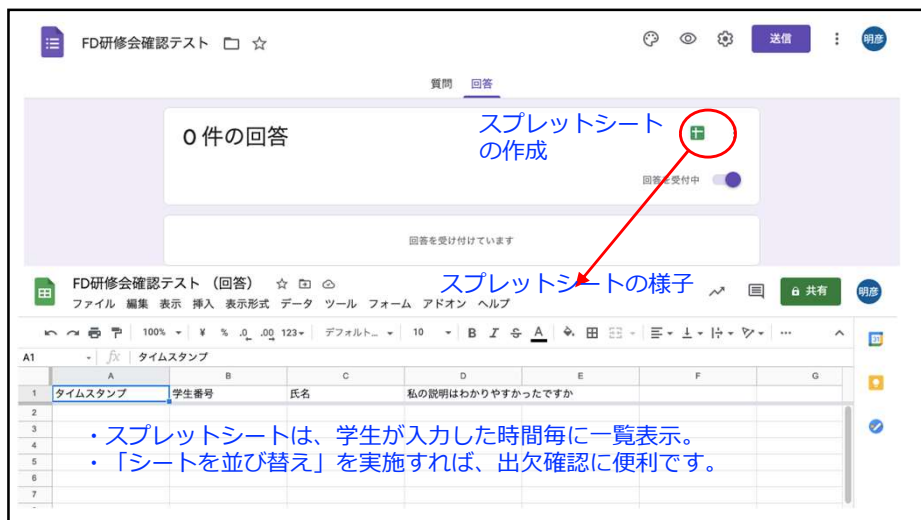
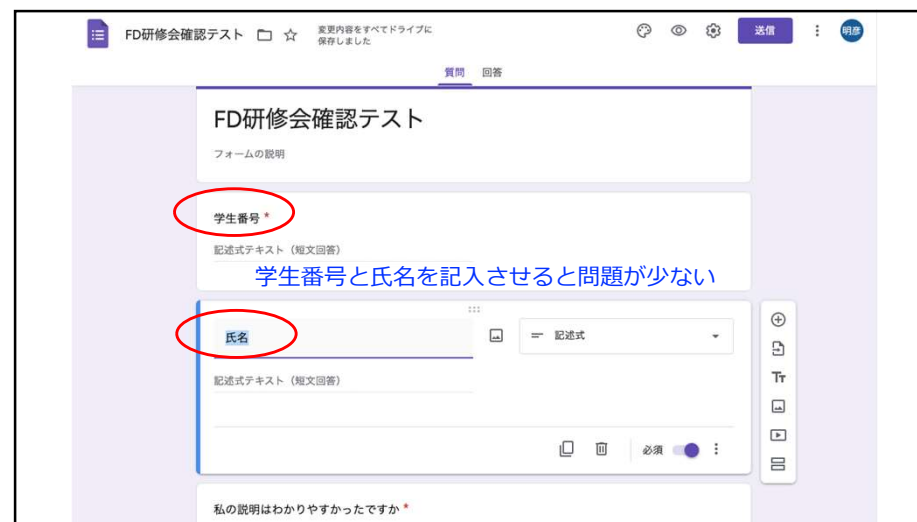
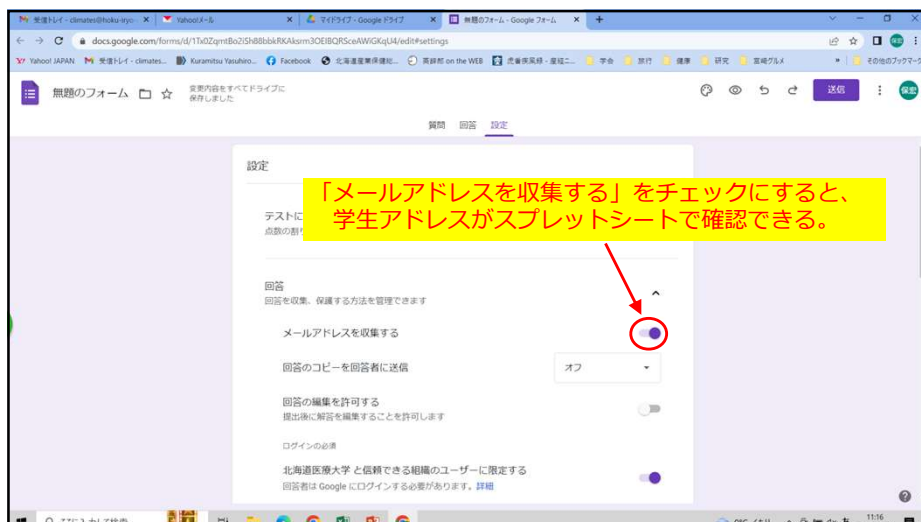
Google Drive内にGoogle Formの様式があります。

Google Formのアクセス方法

- ・作成したGoogle FormのURLをチャットに貼付、全員に送信。
- ・作成したGoogle FormのURLからQRコードを作成し、スライドに提示。
QRコード作成の無料サイト例：<<https://www.cman.jp/QRcode/>>

本日のレクチャーの内容

- (1) 本学の教育理念
- (2) 本学が力を入れる教育成果
- (3) 授業を行うにあたって
- (4) Google formの使い方
- (5) 授業の成績評価について
- (6) 著作権について
- (7) 私学共済ハンドブックについて
- (8) 当別キャンパスでの気分転換



スプレッドシートの様子

	A	B	C	D	E
1	タイムスタンプ	メールアドレス	学籍番号	名前	本日の授業はどうでしたか
2	2020/04/24 10:29:06	aaaaa@hoku-iryo-u.ac.jp	10A002	山田	5
3	2020/04/24 10:29:24	zzzzz@hoku-iryo-u.ac.jp	10A004	鈴木	4
4	2020/04/24 10:29:39	xxxxx@hoku-iryo-u.ac.jp	10A005	高橋	1
5	2020/04/24 10:30:00	ccccc@hoku-iryo-u.ac.jp	10A001	田中	5
6	2020/04/24 10:30:21	vvvvv@hoku-iryo-u.ac.jp	10A009	佐々木	3
7	2020/04/24 10:30:45	bbbbbb@hoku-iryo-u.ac.jp	10A008	小林	4
8	2020/04/24 10:31:03	sssss@hoku-iryo-u.ac.jp	10A007	斉藤	2
9	2020/04/24 10:31:34	ddddd@hoku-iryo-u.ac.jp	10A012	加藤	4
10	2020/04/24 10:31:50	ggggg@hoku-iryo-u.ac.jp	10A015	佐藤	3
11	2020/04/24 10:32:47	hhhhh@hoku-iryo-u.ac.jp	10A018	伊藤	5
12	2020/04/24 10:33:04	nnnnn@hoku-iryo-u.ac.jp	10A013	青木	5

本日のレクチャーの内容

- (1) 本学の教育理念
- (2) 本学が力を入れる教育成果
- (3) 授業を行うにあたって
- (4) Google formの使い方
- (5) 授業の成績評価について
- (6) 著作権について
- (7) 私学共済ハンドブックについて
- (8) 当別キャンパスでの気分転換

成績評価（学生側から疑義申し立てができます）

評価方法：筆記試験（小テスト、定期テスト）、レポート、授業態度

評価基準（各評価法の割合）のシラバス明示

論述問題やレポート採点での客観的評価手法

- ・ルーブリック方法：学習の達成度を表を用いて測定する評価方法
- ・チェックシート方法

本日のレクチャーの内容

- (1) 本学の教育理念
- (2) 本学が力を入れる教育成果
- (3) 授業を行うにあたって
- (4) Google formの使い方
- (5) 授業の成績評価について
- (6) 著作権について
- (7) 私学共済ハンドブックについて
- (8) 当別キャンパスでの気分転換

注意事項

感染対策：使用した機器消毒、授業時の換気、3密の回避を徹底する。

著作権法への抵触

<条文> （改正著作権法第35条運用指針）

学校その他の教育機関（営利を目的として設置されているものを除く。）において教育を担当する者及び授業を受ける者は、その授業の過程における利用に供することを目的とする場合には、その必要と認められる限度において、公表された著作物を複製し、若しくは公衆送信（自動公衆送信の場合にあつては、送信可能化を含む。以下この条において同じ。）を行い、又は公表された著作物であつて公衆送信されるものを受信装置を用いて公に伝達することができる。ただし、当該著作物の種類及び用途並びに当該複製の部数及び当該複製、公衆送信又は伝達の態様に照らし著作権者の利益を不当に害することとなる場合は、この限りでない。

<https://sartras.or.jp/wp-content/uploads/unyoshishin2020.pdf>

著作権法に関する解説

- ・教員が授業に参加する学生のみ閲覧可能な場合は、教育的配慮により、授業資料への複製（転載）、配信が可能である
- ・必要と認められる限度は、**クラス単位、授業単位**である
- ・授業に用いる場合でも、**受講生以外がオンライン上で閲覧できる状況（URLの流出を含む）は著作権法に抵触**する
- ・著作権法に抵触する場合は、著作権者に使用に関する許諾を得なければならない
- ・授業資料の2次使用（公衆配信）は著作権法に抵触する
（学生などがSNSにアップしないよう授業資料に2次使用禁止を明記）

*** 本授業資料は当該学生に対する教育資料としてのみ使用するものであり、使用目的外の利用、第三者の転載・転用、公開、移譲を固く禁じます。**

①「複製」

手書き、キーボード入力、印刷、写真、複写、録音、録画その他の方法により、既存の著作物の一部又は全部を有形的に再製することをいいます（著作権法第2条1項15号。著作物だけでなく、実演、レコード、放送・有線放送の利用についても同様です）。

該当する例

- ・黒板への文学作品の板書
- ・ノートへの文学作品の書き込み
- ・画用紙への絵画の模写
- ・紙粘土による彫刻の模造
- ・コピー機を用いて紙に印刷された著作物を別の紙へコピー
- ・コピー機を用いて紙に印刷された著作物をスキャンして変換したPDFファイルの記録メディアへの保存
- ・キーボード等を用いて著作物を入力したファイルのパソコンやスマホへの保存
- ・パソコン等に保存された著作物のファイルのUSBメモリへの保存
- ・著作物のファイルのサーバーへのデータによる蓄積（バックアップも含む）
- ・テレビ番組のハードディスクへの録画

改正著作権法第35条

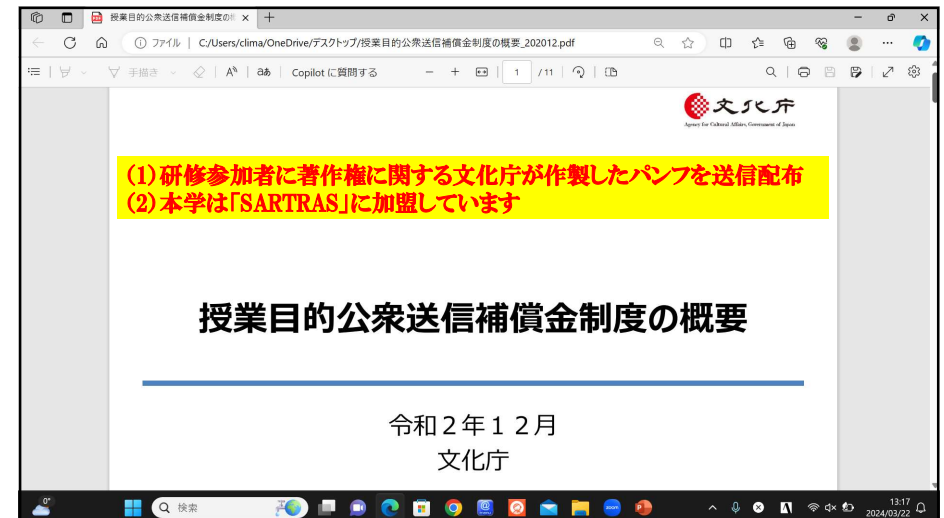
授業の履修者以外がオンライン上で著作物を見られる状況はダメ！

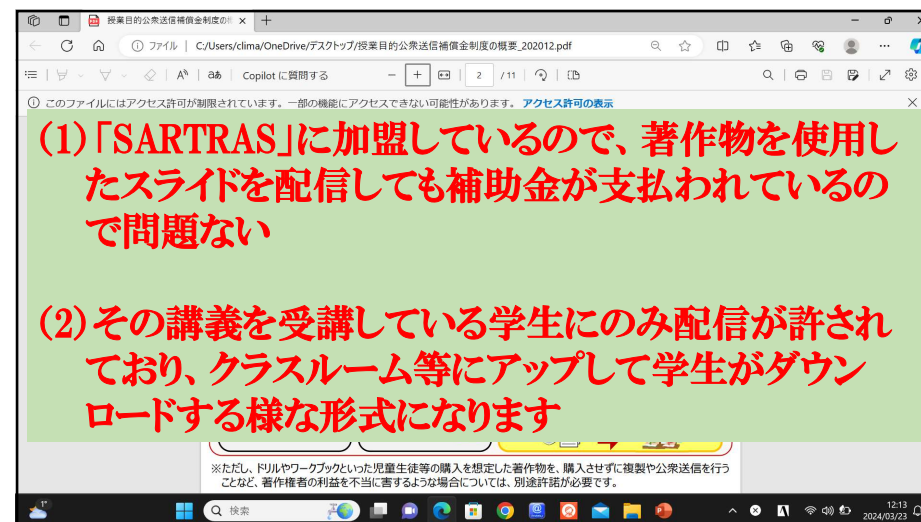
URLが流出されたり、履修者以外に送信されないために、
どう設定すればよいか？

Google Classroomやmanaba等で履修者のみアクセスできるように設定すれば良い。

- ・ Google の場合、Classroomを介してDriveを利用すれば、Driveの著作権用の設定は不要である。

詳しくは、情報推進課や各学部、学科教務担当教員に問い合わせてください。





本日のレクチャーの内容

- (1) 本学の教育理念
- (2) 本学が力を入れる教育成果
- (3) 授業を行うにあたって
- (4) Google formの使い方
- (5) 授業の成績評価について
- (6) 著作権について
- (7) 私学共済ハンドブックについて
- (8) 当別キャンパスでの気分転換





本日のレクチャーの内容

- (1) 本学の教育理念
- (2) 本学が力を入れる教育成果
- (3) 授業を行うにあたって
- (4) Google formの使い方
- (5) 授業の成績評価について
- (6) 著作権について
- (7) 私学共済ハンドブックについて
- (8) 当別キャンパスでの気分転換

Philosophenweg 哲学者の道



ドイツ
Heidelberg



筋力トレーニングセンター



真冬の当別の樹氷



ご清聴ありがとうございました



参考資料（リンクまとめ）

（リンクの表示は、マウス URL に乗せて、Ctrl+左クリックです）

本学ホームページ（下記のリンクはすべてこちらからのリンクです）

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/>

本学の基本方針

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/philosophy/basic-policy>

教育理念・目的・目標

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/philosophy/rinen/>

行動指針

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/philosophy/guideline/>

大学の三方針（ディプロマ、カリキュラム、アドミSSIONの各ポリシー）

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/philosophy/policy/>

シラバス（学部別にサイトが用意されています）

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/for/student/syllabus/>

学則

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/assets/pdf/about/summary/gakusoku/21gakusoku.pdf>

学生便覧

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/for/student/gakuseibinran/>

学校法人東日本学園 中期計画

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/summary/med-term>

入試情報 WEB サイト

<https://manavi.hoku-iryo-u.ac.jp/>

オープンキャンパス

<https://sites.google.com/hoku-iryo-u.ac.jp/opencampus/>

上記以外についても、大学ホームページの各コンテンツからご覧ください。

ワークショップ (プロダクト)

「本学のユニバーシティ・

アイデンティティに即した教育法」

2024年度 全学FD研修

本学のユニバーシティアイデンティティー
に即した教育法
グループA

コンセプト

学生が自ら足を運び
たくなるような、
活気ある学生生活を送れる環境づくり

課題

1、定員割れや受験者数減少により、学生の学力差が大きく学習へのモチベーションが低下し、低学力者への学習支援が必要となっている

背景：学生のコミュニケーション力の低下やコロナの経験から、学生間のコミュニティが不活化し学生が孤立化している。学生が気軽に学習の相談がしにくい。

2、道内に医療福祉系大学が増え、本学独自の魅力をアピールする必要がある

背景：当別という地理的な問題で募集が難しい。面白い研究を知ってもらう機会が少ない。OCの反応などフィードバックがわかりにくい。

課題の着眼点

- ・ 学生の孤立化
- ・ コミュニケーション力の低下
- ・ 相談しにくい環境
- ・ 地理的問題
- ・ やりたいことが見つからない
- ・ モチベーションの低下

方法

新キャンパスに学生サポートに特化したフロアを設ける

・運動スペース、サークル活動スペース
関連部署をオープンスペースにまとめる

- ・就学支援
- ・サークル、部活動支援
- ・ボランティア活動支援

専任教員や専門の教員を配置し、学生の主体性を支援し、個別の問題への対応をする
学生中心の教育を実現する環境づくり

効果

学生同士でコミュニティを作り、勉強以外にも自分のやりたいことや得意なことを見つけ、主体的に活動する場ができる。

サークル活動を通し、学習以外での成功体験が大学生活へのモチベーションUPにつながる。

他学部他学科の学生同士の交流が多職種連携の土台を作る機会になる。

ボランティア活動から実習以外で地域住民との関わり、医療福祉専門職としての礼節を学ぶ。

教員－学生の個別の支援から、学生同士のピアサポートの関係が育まれる。

方法

新キャンパスに学生サポートに特化したフロアを設ける

- ・移設先、北広島市やファイターズとの連携
- ・球場関連施設でのボランティア→単位化
- ・エスコンフィールドを活用した催し
入学式や卒業式など大学行事の開催
部活・サークル活動発表の場
体育大会の開催
在学生や関係者の割引利用等

効果

エスコンフィールドを活用した大学と地域との関係性の構築

学生サポートフロアの様子やエスコンフィールドでの活動等をSNS、オープンキャンパスなどで紹介

他大学に無い本学の魅力を生み出す

空港が近くなり、道外学生のアクセスが良くなる

他アイデア

- ・留学生への語学サポート
- ・特待生制度や大学独自の学資制度の導入
- ・低学力学生への学習支援で国家資格合格率UPを目指す
- ・学生自身で創造する体験を通し、研究への興味関心が向上する

利益・結果

- ・成功体験によるモチベーションの向上
- ・自分のやりたいことが見つけれられる
- ・横のつながりがつくれる
- ・コミュニティへの参加ができる
- ・長期的効果として活気ある学生の増加
→入学志願者数の増加

ディスカッション中に出た意見(1)

- (1) 北広島での地域密着型の教育方法
(2) 学生がこの大学に入って良かったと思える教育
これを軸にまずは課題を洗い出していく

課題

- ・定員割れ 漢学部で割れている 成績的に下の方の学生も合格にしている
- ・学生内での学力の差が大きい
- ・面白い研究が大学のPRに→それどころではなく低学力者への対応に手が届かない
- ・難力的な研究が学生へのアピールになる
- ・歯学部にも学力に開きがある
- ・医療大学の受験 高校まで文系でも受験可能→医療系は理系系の学力がベースになっているため厳しい学生も多い
- ・低学力者へのフォロー
- ・留学生への語学サポート
- ・受験生の間では国家試験の合格者で入る入らないを選んでいるケースが多くみられる
- ・道外からの学生を入れるために空海に近いのがメリットに
- ・特待生制度 学費の支援 国立大学と同じくらいの金額に
- ・熱心な先生が多い 教育が手厚い
- ・歯学部：できない子に合わせて全体を諦め付ける 試験はこまめに 嫌でも勉強させられるカリキュラムに 補講も多い
- ・漢学部：支援室にまづ来ない 実れるような支援体制の構築が重要
- ・コロナで学生の感じが変わった 学生のレスポンスが変わった
- ・看護も過保護 手を出したい気質 母のような
- ・クラスのほとんどは道外から
- ・専門学校がどんどん大学化へ どの大学に行ったらいいか
- ・なかなか教員が外部へアピールすることは難しいが
- ・アピールポイント：国家試験の合格率、オープンキャンパス、通学の利便性
- ・オープンキャンパスで学生に刺さるアピールを
- ・オープンキャンパスから入試にどれほどつながっているかが大学内で共有されていない？フィードバックがあると課題が見つかる？
- ・在学生が伝える方が高校生に伝わりやすい コミュニケーションとれる学生を
- ・SNSなどで情報発信
- ・趣味やスポーツ 楽しいキャンパスライフを
- ・学生同士でコミュニティを作って 主体的な取り組み
- ・校舎に学生同士が集まれるようなスペース、学生が自由に使えるスペースを多く作る
- ・多でも履外スポーツができるスペースの確保 新キャンパスの建物は12階まで
- ・エスコンフィールドが使える 開会式の演奏
- ・入学式や卒業式 エスコンフィールド
- ・ファイターズ応援キャンペーン
- ・温泉に入る
- ・試合オフ期間を

ディスカッション中に出た意見(2)

課題(続き)

- ・学校に足が向くような戦略を 部活や
- ・横のつながりが希薄 固定席にもかかわらず話したことがない
- ・コミュニケーションとれるように
- ・軽食・コミュニケーションができるスペース 誰かと話せるような空間を支援室につくりたい
- ・孤立してしまう学生がコミュニケーションをとれるような空間をつくりたい
- ・大学に足が向くような雰囲気づくり
- ・今の学生は忙しい 大学帰うためにバイトを入れる 祖母の介護 大学以外で忙しい
- ・履修冊を出すことが入学後の課題 計画的な履修計画ができない 手続的なサポート 一元的に管理できるアプリがあると便利かも
- ・歯学部はほぼすべてが必修科目 学年全体が同じ
- ・コミュニケーションの重要性
- ・北広島では専門職としてのボランティア活動ができる機会が増えるか？
- ・実習が成功体験になると学力アップにつながる 有償ボランティア、ボランティアを単位化する
- ・自分の意志でなんでもやることが重要 やらされるのではなく
- ・自分でやりたいことが見つけれられるような環境づくり
- ・専門学校ではなく大学教育 自分で創造していく面白さ いいね欲しい 承認欲求 学問は正解を出すことではない
- ・自分でやってみないと考えることが見つかる環境づくり
- ・10年くらいかけて活気ある学生を増やしていく
- ・ワンフロアに学生が集約するような空間を新キャンパスにつくる；専任の教員を配置、スペース確保(2階分くらい)、演奏・スポーツ、ボランティアがで
- ・全学を統合的に管理する課をつくり、専任の教員を配置して集約する
- ・なんでも良いので課外活動を嫌わして学生の孤立化を防ぐ

課題へのアプローチ：定員割れを起こさないための大学教育を推進

- ・他大学との比較化
- ・低学力者への手厚い教育→高い国家試験合格率
- ・「多くの学生が活力ある学生生活を送れる大学教育を目指して大学のアピールを」
- ・エスコンフィールドとの連携→横のつながりができる
 - ・学部対抗の野球やソフトボール大会 体育
 - ・入学式や卒業式
 - ・吹奏楽部
 - ・ファイターズ応援
 - ・温泉
 - ・高齢者レジデンス
- ・地域との関係性の構築→成功体験が学習意欲につながる
- ・社会貢献：ボランティア 全学教育で単位化する
- ・学生が自ら足を運ぶようになるような、学生が活気あふれる大学生活を送れる環境を作る
- ・学生の孤立化を防ぐ
- ・横のつながりが作れる 自分のやりたいことが見つけれられる環境づくり 全ての学生が何かのコミュニティに参加できるような体制の構築

解決策

- ・新校舎の設計の中でワンフロアで学生の課外活動を一括管理できるようなスペースを確保する
- ・解決できない問題はさらに専門の先生を配置して相談できるようにする

本学のユニバーシティ・アイデンティティ に即した教育法

Bグループ

結論

多様性に配慮された学内教育と
グローバルな視点で行う学生主体の教育

グローバル（グローバルとローカルの融合）

① 多様性に配慮した教育

- 一人ひとりの学生を育てる、育む（ジェンダー問題）
- 講義の中に学生主体で取り組む時間を作る
 - 医療者としてのセルフケアについて
 - 国家試験に向けての対策
- 多職種でのグループワークを増やす
- 他学部の講義の聴講の機会を作る

オンラインやSCPを有効に活用し、充実を図る

② 開けた教育

- 学外交流（他大学、異文化）
- 医療AI
- 外部講師の招聘（FDでの内容、学生主体に）
- 海外の大学との交流・連携

今後の展望

4年後（2028）に北広島に移転

①日本ハムファイターズとの連携

【具体案】

傷害予防分野での協働（全ての学部が関わるができる）

学生教育に選手やコーチが参画する（プロの現場の視点で話が聞ける）

②Fビレッジの活性化（地域住民への関わり）

【具体案】

在住高齢者との連携（医療、介護）、子供への関わり、親世代への関わり

2024年 4月 2日
FD研修

本学のユニバーシティ・アイデンティティー に即した教育方法

Cグループ

本学のユニバーシティ・アイデンティティーに即した具体的教育法

■専門職の特徴がイメージしやすくなる講義

- なぜこの科目を勉強するのかを想像しやすくする
 - ✓多職種のOBOGの話聞く, OBOGとの繋がりを作る
 - ✓授業の一環として, 医療職ではない人（専門職の資格は取得済みの方）の話聞く

■効果的な国家試験対策

- 細かく模擬試験を行う→勉強効率が上がる
- 勉強の波を作る
 - ✓過去問に早めに触れさせる
 - ✓国試の問題を授業に取り込み, 正答や誤答の理由まで授業で扱う

1

入口戦略（入学者を増やすための戦略）

- CMを打ち出す
 - ✓話題性のあるニュース
 - ✓ファイターズと共にした学生生活
 - ✓現段階でファイターズの関係者割引
- 学生募集に対するアイデア：多職種連携, 学部間の横断的つながりの強調
- 参加型, 体験型の実習, 受験者になる高校生についての野外実習
 - ✓「なぜこの科目を学ぶのか」というモチベーションの向上
- 大学教育から大学院教育につなげる
 - ✓大学院教育のアピール
- 若年層が増える→子どもが増える生活, 子どもへの支援が身近になる
- 通学時間の短縮（札幌駅から50分から15分程度に）
- 北広島および周辺に加えて, 全国からの学生募集
 - ✓新千歳空港が近くアクセスが良好

2

出口戦略（卒業時点の魅力向上）

- 高い国家試験合格率达到する
 - ✓在学生間で国家試験の勉強の懸念箇所などの共有（学年間のつながり）
 - 学生中心の能動的な学びを促す
 - ✓国家試験の出題基準を教員が把握し, 早い段階から学生に過去問に触れさせる
- 就職先の選択肢を増やす：医療職だけでなく一般企業などへの就職に繋げる
 - ✓背景：医療福祉職の給与が安い→医療職以外でも融通が利くキャリアを促す教育の必要性
 - ✓大学教育から大学院教育につなげる
 - 医療に関連する多職種に就職した大学院OBOGの話聞く

3

プロダクト

立地と特色を駆使して、
学生に早期から医療人としての
意識を向上させつつ**社会還元**する

4

本学のユニバーシティ・アイデンティティ（UI）に即した教育法

Dグループ

山城寿樹 高橋正敏 原美希 用田歩

問題点と解決の指針

- 学生数の低下
 - 学力の低下
 - 入学後のモチベーションの低下
 - 国家試験合格率の低下
- ...それはつまり 大学としての魅力の低下...! ?

大学の魅力が高まれば...

- 受験生が集まってくる
- 学生の学力が向上する
- 国家試験合格率が上がる

コンセプト

学生に寄り添う大学、
学生が輝ける大学をアピール

案1 多数ある学部学科の活用 （多職種連携）

- **患者中心の医療**を考えるために、医療系総合大学最大の特色である「学部がたくさんある」点を活かす
- 各学年の最後に、多職種連携の時間を設ける
- 症例などを用いて他の学部の学生とともに進めることで、座学で学んだことが実務に活用できることを実感する
- 北海道医療大学の卒業生（OB・OG）も参加
- 大学・病院・施設

案2 同窓生から、現場の話を聞く (1年生)

- 北海道医療大学の長い歴史で多数輩出してきた卒業生 (OB・OG) のお力を借り、現場の話を講話として聞く
- 入学後すぐ、自分たちがこれから携わる仕事のイメージをつける
- 興味を持つ、意欲を高める
- ホームカミングデー、卒業生講話などの形で実現できる

案3 他大学との連携

- 北広島への移転に伴って、他大学との物理的距離が近くなる
- 大学同士、大学教員同士での連携＝他大学の講義の聴講などで幅広い知識を身につける
- 入学後に志望を変えたとしても対応できる環境づくり (編入学)、教育カリキュラム

学生に寄り添う大学、
学生が輝ける大学

ア ン ケ ー ト

2024(令和6)年度 全学FD研修(基本編)アンケート結果

開催日時:2024(令和6)年4月2日(火) 10:00~16:15

開催会場:本学当別キャンパス 中央講義棟 C52 講義室

参加対象:2023(令和5)年4月2日以降に採用及び2024(令和6)年4月1日付採用の専任教員

参加人数:16名(薬学部2名、歯学部4名、看護福祉学部5名、リハビリテーション科学部5名)

アンケートは Google Form により実施。

参加対象者の回答率は100.0%(16名中16名)。

所属 Affiliation

16件の回答



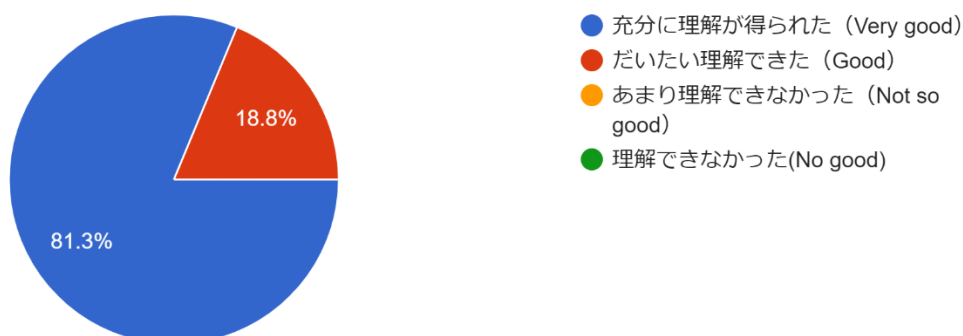
1. 今回の新任教員研修における次のテーマについて、習得度を自己評価してください。

①学長講話について

十分に理解が得られた	13
だいたい理解できた	3

①学長講話について(Lecture of the president of H.S.U.H, professor MikuniSelect one item among four.)

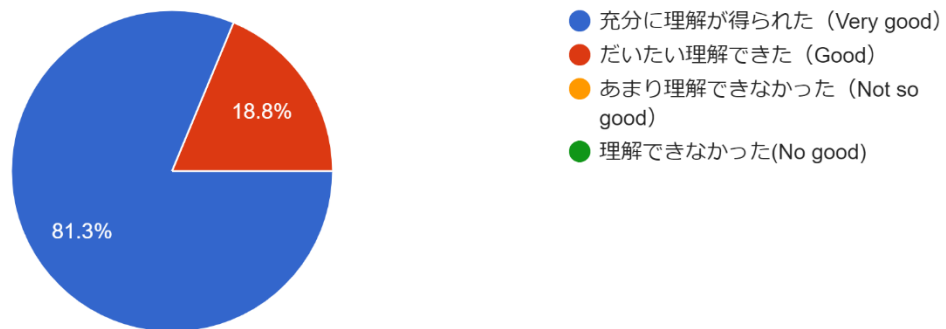
16件の回答



②レクチャー：当大学の理念・目標・方針に基づく授業について

十分に理解が得られた	13
だいたい理解できた	3

レクチャー：当大学の理念・目標・方針に基づく授業～基本的な確認事項について～(5. Lecture of classes based on the philosophy, goals, and policies of the University ～Basic Confirmation Matters)
16 件の回答

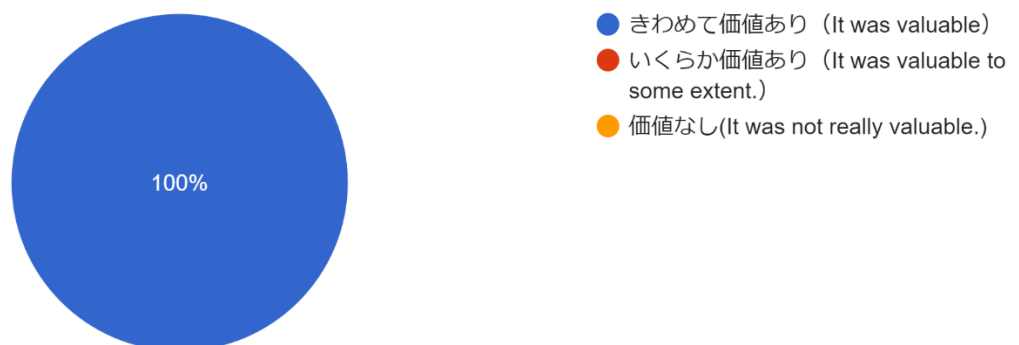


2.ワークショップについて評価してください。

(1)内容についてどう評価しますか。

きわめて価値あり	16
いくらか価値あり	0

(1) 内容についてどう評価しますか。How is your general opinion about the content?
16 件の回答

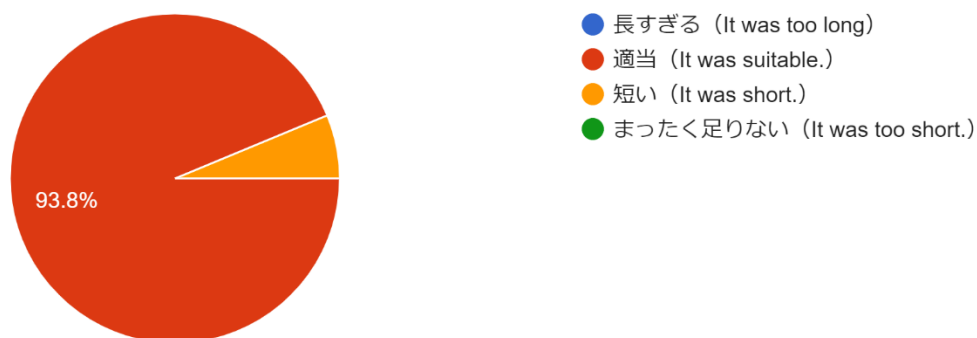


(2)内容に対する時間量はいかがでしたか。

適当	15
長すぎる	0
短い	1

(2) 内容に対する時間量はいかがでしたか。How is your impression on hours of the workshop?

16 件の回答

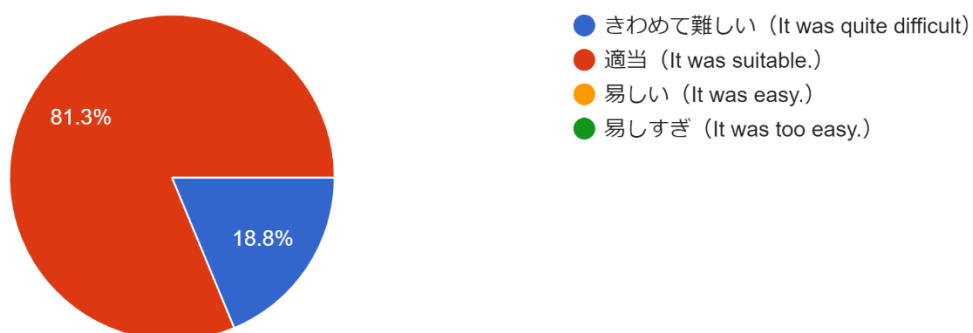


(3) 内容の難易をどう感じましたか。

適当	13
きわめて難しい	3

(3) 内容の難易をどう感じましたか。How is the difficulty level of explanation and discussions in your opinion?

16 件の回答

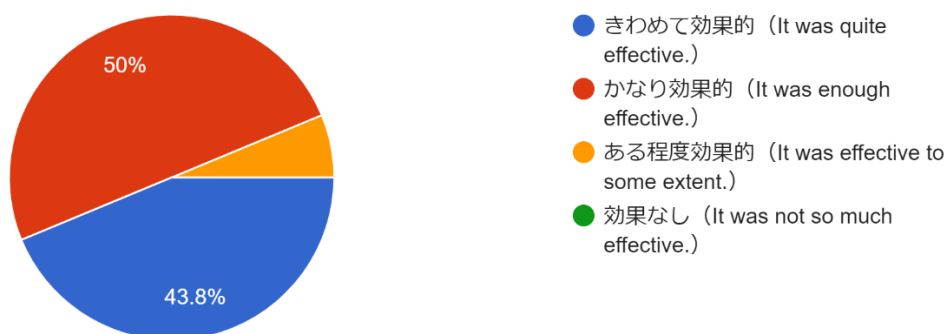


(4) このようなワークショップ形式についてどう感じましたか。

きわめて効果的	7
かなり効果的	8
ある程度効果的	1

(4) このようなワークショップ形式についてどう思いましたか。How did you evaluate the workshop style instruction course?

16 件の回答

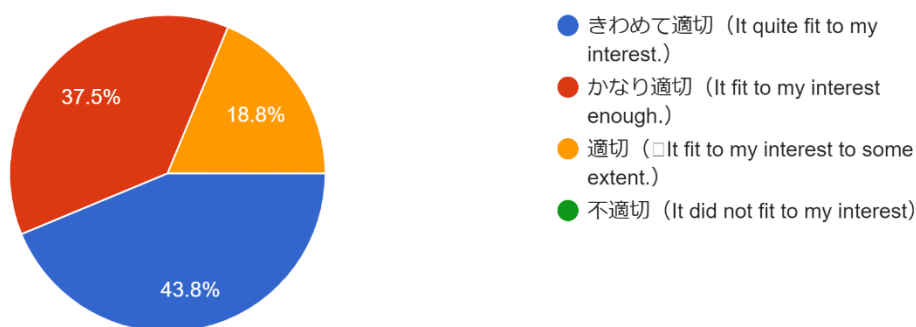


(5) このワークショップの内容はあなたの興味に対して適切でしたか。

きわめて適切	7
かなり適切	6
適切	3

(5) このワークショップの内容はあなたの興味に対して適切でしたか。Did the content of the workshop fit to your interest?

16 件の回答



3. 今回のワークショップ全体にわたり、とても良かったと思われる点は。

- ・様々な学部の方とディスカッションできたのは大変有意義であった
- ・各グループのディスカッション
- ・今後の大学としての魅力の付け方を他職種の先生と話し合えたのはとても良かった。
- ・他学部の方と知り合うことができた。北医療大の特徴を理解することができた。
- ・多学部の方とコミュニケーションが取れたこと
- ・他者の意見を聞けました。
- ・問題点について思考を巡らせる良い機会になりました。
- ・他学部の色々な先生方と交流することが出来、様々な視野が広がったこと。
- ・私のグループは全員私より経験のある他学部の先生方だったので、とても充実とした時間を過ごせました。
- ・ワークショップは他の学部の方との対話機会として非常に効果的だった。またこのような学部の垣根を超えた関わりの機会があると大変良いと思った。

- ・他分野の先生方と分野の垣根を超えてディスカッションできたこと。
- ・他分野の方から意見が聞けて、自分がこれまで持っていない意見に触れることができた
- ・他学部の教員とディスカッションができた点
- ・各学部により教育での課題が異なる点や現状を共有できた。そのうえで大学全体の課題は何か、方略を建設的に話し合うことができた。新任して間もないが、大学教員の一人として本学の課題を自分事として考えられたことが今後の教育活動へのモチベーションにつながると感じました。
- ・意見が自由に分かち合い共有できた。
- ・学生支援室担当という立場から、学生教育について他学部の教員の意見を聞くことができたこと

4. 今回のワークショップ全体にわたり、良くなかったと思われる点(改善点)

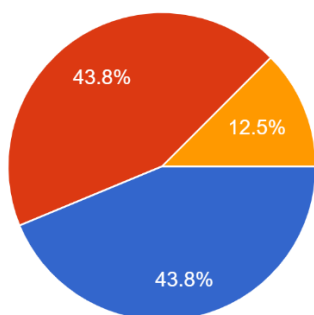
- ・特にありません
- ・なし
- ・テーマがざっくりしており各グループの発表が似通っていた
- ・案が各グループで偏りやすいイメージであった。
- ・時間で区切らなければならないのは分かるがプレゼンスライドが作りこめなかった。
- ・医療大学の状況については、講話からの把握が主となり、事前にしていたものではなかった。
- ・休憩をもう少し長めに設定いただけるとありがたいと思いました。
- ・特に思い当たりません。
- ・時間配分として、ワークショップはもう少し長く時間を取ることができるとよかったと感じた。現状のままでも問題ない。
- ・明確なタイムキーパーがいればよかったのではないかと思います。
- ・課題の難易度がやや高くまとめるのに時間がかかった
- ・研修終了後にデータの修正をしてから提出というのが負担が大きいです
- ・最初に役割分担があいまいなまま話し合いが開始されてしまい、全員の意見を吸い上げることが難しかった。
- ・特になし

5. 今後ともこのようなワークショップの実施についてどう思いますか。

ぜひ実施すべきである	7
実施したほうがよい	7
どちらでもよい	2

5. 今後ともこのようなワークショップの実施についてどう思いますか。 Should we conduct Today's workshop style in the next time?

16 件の回答



- ぜひ実施すべきである We should definitely conduct it.
- 実施したほうがよい (It is better to conduct it.)
- どちらでもよい It is no difference for me to conduct it.
- 実施しなくてよい (It is not necessary to conduct i.)

6.このワークショップの成果に関連して、今後1年の間に実施したいと考えていることを箇条書きにしてください。

- ・他学部の先生との連携を強化していきたい
- ・学生教育に還元する
- ・OBで学生教育に協力してくれる人や病院を探す。
- ・多職種連携について参加させてもらおうと思います。
- ・教育法について、思考し続けること
- ・講義の際に、国試対策を取り入れる。
- ・国家試験対策に全力を尽くしたいと思います。
- ・学生主体の教育、ヘルスケア教育、他職種連携教育
- ・心不全の資格について調べたいと思いました。
- ・学生に対して、国家試験対策をより強く促そうと思う
- ・他分野での教育や研究内容を理解し、視野を広げた見方・考え方を習得すること。
- ・グループワークで出た課題を学生教育に活かしていきたい。
- ・孤立している学生にも積極的に関わりたいと思います
- ・学生の孤立化を解消するために、学生とのコミュニケーションを積極的に取り、演習や授業で学生間の交流が活発になるよう働きかけていきたいです。
- ・地域と海外とのネットワークを築く
- ・学生の気持ちを尊重した対応、学生が通いたいと思えるような魅力ある大学(の雰囲気)づくり

7.全体を通して、今回の新任教員研修に対するご意見を記入してください。

- ・大変有意義に学ぶことができました。ありがとうございました。
- ・充実な研修でした
- ・有意義な時間でした。ありがとうございました。
- ・着任早々でしたが大変良い刺激になりました。
- ・新任ではありますが、多様な経験をお持ちの方とディスカッションの機会をいただき、誠にありがとうございました。
- ・少し医療大学の学生の特徴を把握してからでも良いのではないかと思います。
- ・大変勉強になりました。ご調整いただきありがとうございました。
- ・実りのある新任研修でした。ありがとうございました。
- ・直接学長の先生から講義を受ける機会是他学部にはないので、とても貴重な経験でした。
- ・今回の新任教員研修は講話、レクチャー、ワークショップのいずれも大変有意義だった。ワークショップでは普段関わる機会のない他学部の先生と対話することができ、興味深いお話をたくさん聞くことができた。
- ・大変勉強になり、今後の自己研鑽へのモチベーションが更に高まったこと。
- ・大変勉強になりました。
- ・有意義な時間でした。
- ・とても有意義な研修内容で、他学部の先生方と意見交換でき一緒に作業できた体験がとても良かったです。この研修での出会いを活かして、今後も何かあればご相談したいと思います。また、ファシリテーターの先生方にもたくさんフォローしていただきました。活発な意見交換ができる場を作っていただきありがとうございました。
- ・効果的で有効であった。
- ・本大学の状況などを客観的にみるのに適した研修だと思います

以上

F D 委 員 感 想

B グループのワークショップに FT として参加した。課題「UI に即した教育法を考える」の議論は途切れることなく展開された。内容としては、国際化への対応、田舎にあることの利点、医療系総合大学としての講義の充実、学生へのサポート体制について主に議論された。ただし、4年後の大学移転について話が及ばなかったため、移転による将来像を議論に加えるように FT として提案した。なお、対面での WS 実施状況として、4グループの距離感が近く、声のとおりが悪いことが印象に残った。今後改善すべき点と考える。総合発表では各グループから建設的な意見が出され、やはり移転による効果に期待する声が多く聞かれたのが収穫であった。「入学式と卒業式をエスコンスタジアムで」「移転による大学と病院の連携強化」など、今時の学生に魅力ある大学とは何かを考える良い機会になった。本年、大きく定員割れを起こした薬学部の一教員としては、希望の光である。

(薬学部 小島 弘幸)

三国学長からの講話の後に行ったレクチャーのテーマは、今回も前回と同じく「当大学の理念・目標・方針に基づく授業～基本的な確認事項について～」であった。内容は、教育効果を高める講義、講義資料配布時の著作権に対する配慮、教職員ポータルサイトの活用にまでおよぶもので、藏満委員ご自身の講義スタイルの紹介等もあり、新任教員にとって実用的な内容であったと考える。

午後のグループワークでは、C グループの討議にファシリテーターとして参加した。C グループは参加メンバー全員が積極的に討議に参加していて、ワークショップ時間内に発言が途切れることがなく、とても濃厚な議論が交わされていた。できあがったプロダクトも本研修会の意図が十分に反映されていた。今回、全学 FD 研修(基本編)への参加は6回目であったが、5年ぶりに対面開催となり、オンライン開催よりもさらに有意義なグループワークを行うことができたと感じた。

(歯学部 會田 英紀)

この度、FD 委員として、全学 FD 研修(テーマ編)に参加した。参加教員の皆様は、午前中は少し緊張されつつ北海道医療大学に関する知識を三国学長、藏満委員の講義で確認され、午後のワークショップでは講義を踏まえて活発な意見が交換された。D グループのファシリテーターを務めたが、薬学部、歯学部、看護福祉学部、リハビリテーション科学部のそれぞれの視点から課題を共有し、その課題解決に向けて柔軟にアイデアを出し合った。一つの課題を解決するための具体的方策を検討することで、他の課題の解決にもつながるということが実感されるワークショップであった。

他のグループも研修時間一杯活用され、多職種連携教育をさらに進める具体案や北広島新キャンパス設置後の魅力ある街づくりの実現に向けての協力が共通して報告された。本研修で知り合った皆様が、研修後も学部や職位を超えた関係を継続して下さることが本学の力になるのではと考える。

(看護福祉学部 桑原 ゆみ)

この度、入職 11 年ぶりにファシリテーターとして新任教員のための全学 FD 研修に参加した。私の入職時は、新任教員全員の自己紹介を中心とした、長時間のプログラムだった記憶が残っており、同じ医療職といってもどれほど異なった臨床経験や背景の教員が集まっているものなのかを知って、当校の教員の多様性に圧倒された覚えがある。これはある意味で教員間の多職種連携の前提となる研修になっていたと思われる。

当時から見ると、今回のプログラムは共通のテーマに対して議論を行なって1つの結論を導くという点では、以前より生産的な取り組みになっていると感じた。特に、新任教員の皆様の「大学をより良いものにしよう」という熱心な取り組み姿勢や発表の様子を見て、率直に大変に素晴らしいと感じた。その分、自分自身が教育に関する夢や理念よりも、“実際に実行可能か、可能でないか”その時間的余裕はあるか？などと現実優先の思考に陥って発想の限界を作っていることを思い知らされた。教育の原点は求める理想や目標を共有することから始まることを改めて再認識させられる時間となった。

しかし、「ユニバーシティ・アイデンティティーに即した教育法」というのは、新任の先生たちにとって、果たして適切なテーマであったのだろうか。私のグループには卒業生が 2 名と他の教育機関から来た先生が 1 名、病院勤務から来た先生が 1 名であったが、本校の特徴やどのような教育が展開されているかが詳しくわからない新任の先生たちからの積極的な提案、“こうしたら、ああしたらどうか”という内容に対して、せっかくの発想に水を差すようで申し訳なかったのだが、「すでにこのような教育を展開中、こんな結果や困難があっそうなっている」などの経過を伝えることで、現状を踏まえ、それを超える議論に導くように方向性を修正した感じだった。議論が空論にならないようにと考えたからである。

上記により、1つのテーマに対してグループ討議をすることは大変、良い方法であると思う一方、議論に必要な認識や情報が不十分である場合には、一考が必要ではないかと感じる研修であった。ではどういうテーマであったなら良かったかという、簡単に答えは見つけれないが、例えば、職位が近いグループを編成して、「これまでの職業体験を活かした(基づく)、学生中心の教育への貢献とは」などというテーマであれば、1つに結論を導く議論にはならなくとも、新任の先生同士がお互いの背景を知り合いつつ、どのように当校の学生中心の教育を目指していくかという、それぞれの個性や経験を活かした実践的な話し合いができるのではないかと考える。テーマへの問題意識も含めて、新たな発想を刺激された研修であったと思う。また、ファシリテーターは1つのグループに 3 名は多すぎたと思う。春と夏と1回ずつにして役割分担するもの1つの方法ではないかと感じた。

(看護福祉学部 八木 こずえ)

全学 FD 研修<基本編>に全学 FD 委員として参加させていただきました。藏満先生による授業に関するレクチャーでは、大学の教育理念や方針を改めて確認するとともに、日々の授業や学生対応にどう活かしていけるかを考える良い機会になりました。「知育・德育・体育の三位一体」という基本理念を実現するための具体的な方法や、学生中心の教育の重要性について、丁寧に説明していただき、非常にわかりやすかったです。

特に授業形態や評価方法の工夫、オンライン授業の進め方など、すぐに活用できる実践的な

内容が盛りだくさんで、「これなら自分も取り組みそうだな」と思える点が多かったです。また、著作権に関する配慮やツールの使い方なども具体的に教えていただき、これからの授業づくりに役立つと感じました。学生だけでなく、自分たち教員も一緒に成長していけるように、学びを共有していけたらと思います。

(心理科学部 柳生 一自)

令和6年度全学FD研修<基本編>には、午後からのワークショップから参加しました。ワークショップのテーマは、本学のユニバーシティ・アイデンティティーに即した教育法ということでAグループのファシリテーターを担当しました。そのワークショップでは、2028年度に本キャンパスが北広島に移転することを想定した議論も展開されましたが、本テーマの教育方法の基盤として、そもそも大学に通いたいという動機づけが重要ではないかということが、グループメンバーのコンセンサスとなりました。そこから、具体的な案として、学生が中心に使用できるフロアを設置するなどの具体案が出されていました。私自身のファシリテートがなくても、ワークショップの教員同士で積極的に議論がなされていました。

(リハビリテーション科学部 本家 寿洋)

令和6年度全学FD研修<基本編>が、令和6年4月2日に開催されました。午前は、本学の教員としての使命と期待と題し、北海道での本学の立ち位置などについて三国学長から、また本学の理念・目標・方針に基づく授業と題し、教員活動に役立つ情報が蔵満委員から提供されました。午後にはワークショップが組まれ、参加教員、ファシリテーター教員は4つのグループに別れ、約100分のグループ討論と発表を行いました。参加教員は皆熱心で、活発な話し合いがなされていました。そこに教員活動への熱意を感じるものでした。筆者は、今回ワークショップテーマの説明や、プロダクトの作成作業、ワークショップの進め方についての説明役だったのですが、担当するスライドの区切りを間違えてしまい、大変申し訳なく感じております。ここに心よりお詫び申し上げます。

(リハビリテーション科学部 中川 賀嗣)

WSの際の配置に問題があると思います。パーテーションで仕切られたただけなので左右からの白熱した議論が騒がしくて自分の班の声が聞き取りにくくて困りました。次回は4隅に配置した方が良くと思います。

夏のFD研修会では、現在定員割れが続いている学部が多くなっているので喫緊の課題として『学生が入学したくなる大学にするには』というテーマを取り上げて欲しいです。このままでは将来が非常に心配です。何よりも最優先だと思います。残念ながら小生は日程上参加できません。

小生の発表内容(レクチャー)で大講座制の学部と小講座制の学部(歯学部、薬学部)の違いによる教員研究費の確認法に触れていなかったのも、次回発表のチャンスがあれば修正したいと思っています。

(医療技術学部 蔵満 保宏)

FD 委員としては、2度目の FD 研修基本編でした。完全に対面開催となり、充実した内容だったと思います。学長講話も、新任の先生方に問題意識を共有するという意義深い内容に感じました。私学および医療大学のおかれている状況がわかりやすく、午後のワークショップでも新任の教員の先生方は、ポイントを絞りやすかったのではないのでしょうか。またレクチャーでの、国試の合格率向上および研究力向上という強調点は、参加者にとって、ユニバーシティアイデンティティーと関連付けやすかったと思います。ワークショップの内容も、北広島移転というポジティブな材料があったおかげで、前向きな意見が出しやすかった印象があります。最後の、発表でもスポーツと医療科学の相性の良さを再認識できました。あえて改善点をあげるなら、ワークショップのグループ間の間隔が、もう少しあれば(ファシリテーターとしては)自グループの討議に集中できた気がしました。

(全学教育推進センター 鈴木 喜一)

今回の新人研修はファシリテーターとして 2 回目の参加でした。前回と違い対面での研修会だったので、スムーズなグループ討議が出来ていた印象でした。WS では参加者の先生方が自分の専門性を生かし、さまざまな視点から「学生中心の教育」について討議する姿に、研修会の中でも多職種連携を感じる部分が多くありました。

また、「本学のユニバーシティ・アイデンティティー」とは何かを考えるという部分では、北広島移転を盛り込んだ案が出されるなど、非常に興味深い意見交換が行われ、先生方の様々なアイデア、考え方を聞いていると、今後の本学の教育に多くの可能性があることを感じました。

ファシリテーターでの参加ではありましたが、参加者の先生方のさまざまな考え方を聞くことで、自分の考え方にも新たな引き出しが増えたような気がしました。貴重な時間をいただき、ありがとうございました。

(歯科衛生士専門学校 千葉 利代)

全学 FD 研修 [テーマ編]

「学生を中心とした
教育をすすめるために」

—DX 関連ツールの教育・実習への有効な活用について—

期 日：令和 6 年 8 月 1 日（木）

会 場：当別キャンパス 中央講義棟

（対面・Zoom ハイブリッド）

はじめに

北海道医療大学 全学 FD 委員長
荒川俊哉

去る 8 月 1 日（木）に 2024 年度全学 FD 研修＜テーマ編＞が開催されました。本年度は「DX 関連ツールの教育・実習への有効な活用について」をサブテーマに、DX ツールのより実践的な利用を目指して 2 つのトピックに対してのレクチャー並びにワークショップを行いました。1 つ目のトピックは、昨年に引き続き生成系 AI の活用についてで、午前中のレクチャーでは「生成 AI の新展開」と題して、薬学部の二瓶裕之教授にご講演をいただきました。講演をお伺いして、改めて生成 AI の凄さと、凄まじい進歩を実感いたしました。2 つ目のテーマはタブレット端末の講義での利用法についてで、同じく午前中でのレクチャーでは「講義・実習におけるタブレット端末の効果的な活用—Good notes を使った講義の実際—」と題して、歯学部の根津顕弘准教授にご講演をいただきました。こちらもより実践的に講義での利用の仕方を説明いただき、その有用性を理解し、多くの学生がどうして Good notes を常にご利用しているのかが納得できました。午後のワークショップには、三国学長にも一部ご参加いただき、各学部から参加された先生方により活発に議論が行われました。「授業・実習における生成系 AI の活用法」では、ChatGPT にその活用法を問いかけながらのワークショップとなり、まさに ChatGPT の活用が実践されていました。「タブレット端末の授業・実習での有効な活用方法」に関するワークショップでも、全員が Good notes とペンシルを使いながら、根津先生が講義で実際に使われている資料を説明していただき、使い方、有用性、発展性を実感したようです。そして 2 つのテーマにおいて、より具体的に直ぐにでも実践できそうなプロダクトを共に作成いただきました。今回の FD 研修は、いつにも増してより実践的で有意義な研修会となりました。これらの成果が講義および実習に活用いただけると幸いです。ご講演いただきました、二瓶教授、根津准教授、会の運営にご尽力いただいた FD 委員の先生、事務担当の皆様にはこの場をお借りして御礼申し上げます。

2024（令和6）年度 全学FD研修〈テーマ編〉 実施概要

メインテーマ：	学生を中心とした教育をすすめるために
サブテーマ：	DX 関連ツールの教育・実習への有効な活用について
主催：	全学FD委員会
開催日：	2024（令和6）年8月1日（木） 9：40 ～ 15：55
開催方法：	対面・Zoom のハイブリッド
開催場所：	当別キャンパス 中央講義棟 C52 講義室 [全体会] C109・C104・C103 演習室 [WS]
ディレクター：	荒川俊哉（全学FD委員会 委員長）
進行行：	午前：荒川委員長 午後：豊下委員（ワークショップ解説）、齊藤委員（グループ発表）

1. 日程

進行内容		担当
9：40	参加者集合 開会・委員長挨拶、テーマ説明、日程確認ほか	荒川委員長
9：50	学長あいさつ	三国久美 学長
9：55	【レクチャー（ワークショップテーマに関する話題提供）】 1）生成系 AI の新展開 薬学部：二瓶裕之 教授	
10：45	<小休憩 5 分>	
10：50	2）講義・実習におけるタブレット端末の効果的な活用法 －Goodnotes を使った講義の実際－ 歯学部：根津顕弘 准教授 <各テーマのレクチャーは 50 分>	
11：40	学長講評	三国久美 学長
11：50	昼休憩（50 分）	
12：40	*レクチャー・ワークショップの進め方について、プロダクトの作成について（5 分）	進行解説：豊下委員
12：45	レクチャー・ワークショップ（160 分、15 分程度の体験演習、途中休憩 5 分を含む） *参加者自己紹介、*役割分担（進行・記録・発表）の決定 *グループワークテーマ 1）授業・実習における生成系 AI の活用法 2）タブレット端末の授業・実習での有効な活用方法	【ファシリテーター】 FD 委員 （各グループに配置） スーパーバイザー 二瓶教授 根津准教授
15：25	休憩（5 分）	
15：30	グループ発表・質疑応答（1 グループ 10 分×2 グループ）	進行：齊藤委員
15：50	全学FD委員長総評	荒川委員長
15：55	ワークショップ参加者アンケート 閉会	

※午前中のプログラムはワークショップ参加者以外の教職員の対面参加を可とし、Zoom 配信も行う。
 グループワークの報告（プロダクトの発表）を Zoom 配信する。
 ワークショップの参加者には午後のプログラムからノート PC の持参を依頼する。

2024全学FD研修(8/1)ワークショップ出席者一覧

(職位・敬称略)

参加テーマ	グループ	参加者氏名	学部・学校	学科・科
1) 授業・実習における生成系AIの活用法	①	平山 裕一郎	薬学部	薬学科
		三浦 桃子	薬学部	薬学科
		長瀬 雅揮	薬学部	薬学科
		横関 健治	歯学部	歯学科
		米川 弘樹	看護福祉学部	看護学科
		野田 昌道	心理科学部	臨床心理学科
		井上 恒志郎	リハビリテーション科学部	理学療法学科
		高橋 祐輔	医療技術学部	臨床検査学科
		八木 こずえ	看護福祉学部	FD委員
		齊藤 恵一	心理科学部	FD委員
		中川 賀嗣	リハビリテーション科学部	FD委員
		二瓶 裕之	薬学部	スーパーバイザー

参加テーマ	グループ	参加者氏名	学部・学校	学科・科
2) タブレット端末の授業・実習での有効な活用方法	②	根津 尚史	歯学部	歯学科
		根津 顕弘	歯学部	歯学科
		伊藤 加奈子	看護福祉学部	看護学科
		齋藤 隆司	リハビリテーション科学部	作業療法学科
		若松 千裕	リハビリテーション科学部	言語聴覚療法学科
		秋元 奈美	歯科衛生士専門学校	歯科衛生科
		豊下 祥史	歯学部	FD委員
		本家 寿洋	リハビリテーション科学部	FD委員
		山形 摩紗	歯科衛生士専門学校	FD委員
		根津 顕弘 【再掲】	歯学部	スーパーバイザー

全体統括	荒川 俊哉	歯学部	FD委員長
------	-------	-----	-------

学部別参加数 (FD委員等除く)	
薬学部	3
歯学部	3
看護福祉学部	2
心理科学部	1
リハビリテーション科学部	3
医療技術学部	1
歯科衛生士専門学校	1
計	14

2024年度 全学FD研修 <テーマ編>

学生を中心とした教育を
すすめるために

DX関連ツールの教育・実習への
有効な活用について



主催：全学FD委員会

2024年8月1日（木） 当別キャンパス 中央講義棟¹

研修会開催の趣旨 研修会スケジュール

2

研修会開催の趣旨

本学の教職員一人ひとりが自主性・創造性を発揮することにより「学生中心の教育」並びに「患者中心の医療」を推進しつつ、「21世紀の新しい健康科学の構築」を追究することが本学の行動指針である。

その実現のためにFD研修会を開催し、教授法の開発改善を行うとともに「教育力」を高めることを本研修会の趣旨とする。

3

研修スケジュール

- 9:40 開会 委員長あいさつ テーマ説明、スケジュール説明ほか
- 9:50 学長あいさつ 三國学長
- 9:55 レクチャー
①「生成AIの新展開」
二瓶裕之 教授（薬学部）
(休憩 10:45~10:50)
- 10:50 ②「講義・実習におけるタブレット端末の効果的な活用法—Goodnotesを使った講義の実験—」
根岸順弘 准教授（歯学部）
- 11:40 学長講評
- 11:50 昼休憩
- 12:40 ワークショップの進め方とプロダクト作成の説明
- 12:45 レクチャー・ワークショップ（160分、15分程度の体験演習、途中休憩5分を含む）
- 15:25 ワークショップ終了・休憩
- 15:30 グループ発表・質疑応答、全体討論（1グループ10分×2グループ）
- 15:50 FD委員長総評・アンケートの実施
- 15:55 閉会

4

学長あいさつ

北海道医療大学 学長 三國 久美

5

レクチャー①

北海道医療大学 薬学部

二瓶 裕之 教授

<演題>

「生成AIの新展開」

6

レクチャー②

北海道医療大学 歯学部

根津 顕弘 准教授

<演題>

「講義・実習におけるタブレット端末の効果的な活用法
ーGoodnotesを使った講義の実際ー」

7

昼食・休憩



午後のワークショップの開始時間

12:40 (時間厳守)

※ワークショップ参加者は予め決まっています。
自由参加ではありませんので、予めご了承ください。

8



2024年度 全学FD研修 <テーマ編>

ワークショップの進め方 プロダクトの作成について

2024年8月1日 (木曜日)

主催：全学FD委員会

担当：豊下祥史 (歯学部・FD委員)

9

ミニレクチャーについて

体験演習を組み込んだワークショップを行います。

【体験演習】

- (1) ChatGPTを実際に体験します。「ChatGPTを活用」「低学力学生」「学習支援方法」などのテキストを入力してみます。翻訳された語句から低学力学生への学習支援にChatGPTを活用する可能性について考察します。
- (2) iPadを使ってタブレット用のノートアプリであるGoodnotesを実際に体験します。スタイラスを使って自由に書き込むことで講義ノートを作成してみます。講義・実習でのデジタルノートの活用方法について考察します。

10

ワークショップの進め方

質問です。

ワークショップは初めて？



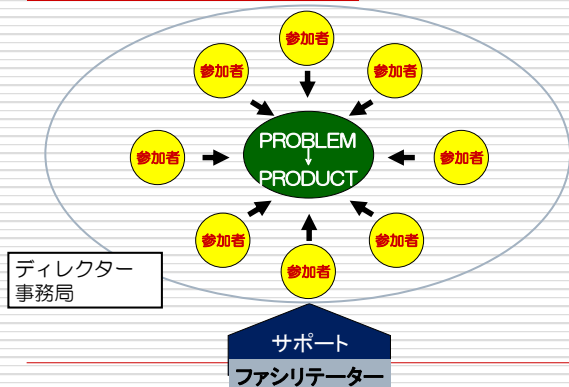
ワークショップとは？



- ・ 多人数を対象として、参加者1人1人の参画意識を高めるために、小グループに分かれて討論と作業を行い、結論を出していく方式をいう。
- ・ 一定の時間内にある成果(プロダクト)を生み出すという手段をとる。

12

ワークショップとは？



13

ワークショップの流れ

1. プレナリーセッション

全 体 : 導入講義・作業課題



2. スモールグループディスカッション (約120分)

グループ別: 課題について討論・プロダクト作成



3. プレゼンテーション (1グループ10分)

グループ別: 発表・質疑応答



14

ワークショップの要件

1. 全てのメンバーが積極的な参加者になる
2. 参加者全員が Resource Person(主役)
3. 積極的に建設的、前向きな意見を述べる
4. どんな質問・意見でも無意味ではない
(良否の判断はしない。自分と異なる意見でも、まずは「なるほど～」と頷き、もう少し深く尋ねてみる等)
5. あらかじめ決まった正解はない
6. 先生はいない
7. 時間を守る



イラスト：富士研WSスライドより

これは歓迎しません… (16+)



イラスト：富士研WSスライドより

こんな感じで !(??)!

スモールグループディスカッション

1. 参加者の自己紹介(1分程)

(アイスブレイク: 氏名・所属・

私のいち押し, 「実は私〇〇です」,

Good & New[24時間以内にあった「良かったこと (Good) 」や「新しい発見 (New) 」]など)



2. 役割分担 (リーダー・記録・発表)



3. グループ討論

・発表内容の確認

18

役割分担

- 司会 []
 - グループ討論時の司会進行を行う。
- 書記・PC入力 []
 - グループ討論時、書記(PC入力)を行う(プロダクト作成)
 - 作成したプロダクトはPC等に保存(終了後提出)。
- 発表者 []
 - 全体発表時にグループプロダクトをZoomで画面共有して、発表を行う。
- ファシリテーター (FD委員)
 - グループ討論・作業が効率的に進むようにサポートする。
 - グループ討論のタイムキーパーも行う。



19

<ワークショップ>

【サブテーマ】

DX関連ツールの教育・実習への有効な活用について

【ワークショップのテーマ】

- (1) 授業・実習における生成系AIの活用法
- (2) タブレット端末の授業・実習での有効な活用方法

<テーマ説明(1)>

授業・実習における生成系AIの活用法

ChatGPTに代表される生成系AIが教育の現場でも活用されるべき

学生による主体的な学びの補助・支援のほか、教員による教材開発等にも活用することができないか



グループ討議への期待

授業・実習における学習支援にChatGPTを代表とする生成系AIを活用する可能性についての新たな見解

<テーマ説明(2)>

タブレット端末の授業・実習での有効な活用方法

新型コロナウイルス感染症の拡大により、多彩なメディアを高度に利用して行う授業形態が広く普及した

法改正により、補償金を支払うことでICTを活用した教育での著作物の利用が無許諾で行うことが可能となった



グループ討議への期待

令和3(2021)年度から本学でもノートPCが必携となり、デジタル教科書の使用も始まったが、タブレット端末ならではの授業・実習での有効な活用方法に関する見解

作業解説

プロダクト作成の作業ステップを例示します
(いろいろな進め方があると思いますので進め方の一例として参考にしてください)

<step1>

【課題を具体的に定義する】

議論を効率的に進めるには、課題を具体的に定義し、スタート地点をしっかりと共有することで議論がまとまりやすくなります。

<step2>

【アイデアを出し議論する】

グループ内でテーマに対するアイデアを引き出し、議論を活発にします。

ポイントは、出てきたアイデアを否定しない、傾聴する、議論に参加できないメンバーには話を振る。また、アイデアの質は後で検討するので、ここでは気にしません。

<step3>

【アイデアを分類し選択する】

出されたアイデアを分類することは、アイデアの良し悪しを議論するよりも効率的になります。

アイデアを分類した後、グループのプロダクトとするアイデアを選択します。

選択の方法としては、「評価軸」を決めて選択していく方法があります。

※評価軸の例：実行性、効果、かかる費用、時間・・・など

<step4>

【アイデアの詳細を詰めてまとめる】

自由に出されたアイデアは細部が詰められていません。グループのプロダクトにするために、選択したアイデアについて、以下の点を詰めていきます。

1.誰が、2.どこで、3.どんな風に、4.誰に対して、5.どんなタイミングで、6.なぜそれをやるのか
・・・いわゆる5W1H

<step5>

【グループ発表】

発表では、以下のポイントを意識します。

- ◇最終的な結論を一言で表現する
40文字程度
- ◇なぜそのアイデアを選んだのか
他に出されたアイデアのまとめ、選択理由・基準など
- ◇具体的なアイデアの内容
実行方法、アイデアの詳細など
- ◇アイデアの実行による結果
生じる利益・利点など

<プロダクトのまとめと発表方法>

- プロダクトの発表資料の作成には、パワーポイント、ワードなどを使用してください。プロダクト作成に使用するソフトは問いません。
- 作成したプロダクトは、本研修会終了後、全学FD委員会に提出をお願いします。

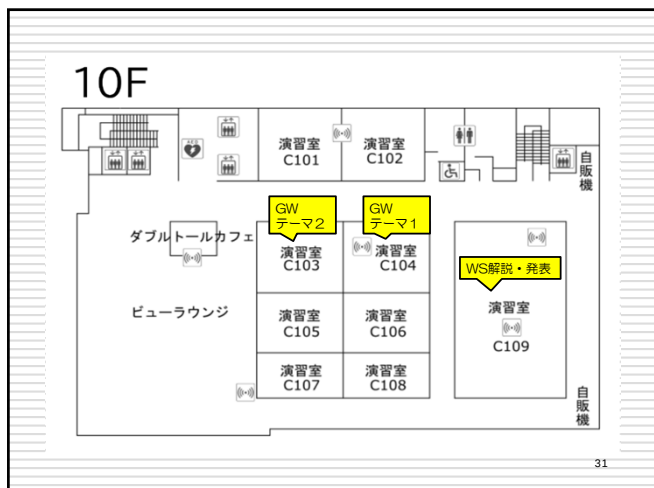
メールの場合：fd-kensyu@hoku-iryo-u.ac.jp

USBメモリなどに保存して提出の場合：学務部教務企画課に持参

学生を中心とした教育をすすめるために、本学の授業環境に適した、より教育効果の高い授業の進め方や新たなスタイルを提案してください。

参加者のグループ分け（敬称略）

テーマ（1）		テーマ（2）	
平山 裕一郎(薬)	三浦 桃子(薬)	根津 尚史(歯)	根津 顕弘(歯)
長瀬 雅揮(薬)	横関 健治(歯)	伊藤 加奈子(看護)	齋藤 隆司(リハ)
米川 弘樹(看護)	野田 昌道(心)	若松 千裕(リハ)	秋元 奈美(歯専)
井上 恒志郎(リハ)	高橋 祐輔(医技)	豊下 祥史(FD委員)	本家 寿洋(FD委員)
八木 こすえ(FD委員)	齊藤 恵一(FD委員)	山形 摩紗(FD委員)	根津 顕弘 (スーパーバイザー) 【再掲】
中川 賀嗣(FD委員)	二瓶 裕之 (スーパーバイザー)		



休憩

休憩時間 15:25~15:30
(時間厳守をお願いします)

15:30 までに、
着席してください。

【次はグループ発表になります】

32

グループ発表

(発表時間は、各グループ10分です)

33

提出物について

<参加者>

- グループ代表はWSの成果として、グループで作成したプロダクトをまとめて下記に提出してください。取りまとめの様式、分量などに特に制約はありません。
- ワークショップ参加者は、ワークショップの感想を400字程度にまとめて提出してください。

<FD委員>

- 研修の感想文を400字程度にまとめて提出してください。

□ 提出期限・提出先

- 提出期限：8月30日（金）
- 提出先：学務部教務企画課 FD研修担当

* fd-kensyu@hoku-iryo-u.ac.jp

34

アンケート

参加者のみなさま、お疲れさまでした。
最後に、アンケートのご回答、よろしくお願い致します。

<https://forms.gle/cv6QWrkymfz8cxvS9>
(チャットにURLを送信しております。ご利用ください。)

35

レクチャー

- ①生成 AI の新展開
- ②講義・実習におけるタブレット端末の効果的な活用法 —Goodnotes を使った講義の実際—

ワークショップ内レクチャー

- ①授業・実習における生成系 AI の活用法
- ②タブレット端末の授業・実習での有効な活用方法

2024（令和6）年度 全学FD研修（テーマ編）

メインテーマ：学生を中心とした教育をすすめるために
サブテーマ：DX 関連ツールの教育・実習への有効な活用について
主 催：全学FD委員会
開 催 日：2024（令和6）年8月1日（木）9：55～10：45
開 催 場 所：当別キャンパス 中央講義棟 C52 講義室

何を
どこまで
できるのか

ワークショップテーマに関する話題提供

生成AIの新展開

二瓶 裕之

北海道医療大学 薬学部

Eye-Catching Images



- 生成AIの新展開

Eye-Catching Images



- 生成AIの新展開

生成AIの現状

利用の広まり

- Windows Copilotなど生成AIは、利用の可否を議論できないほどに、身近なところに広がっている

表現力の高まり

- Open AI社のgpt4モデルもマルチモーダルになるなど、生成AIの表現力も飛躍的に向上している

- 生成AIの新展開

マルチモーダル生成AIとは



この画像について日本語で説明してください。また、何を話すと思いますか

- 生成AIの新展開

教育の転換

生成AIがあることを前提とした教育

MDASH（リテラシーレベル）

- AIや生成AIを体験しながら、批判的観点を持って、AIを効果的に活用できる

MDASH（応用基礎レベル）

- AIや生成AIの仕組みを学んだうえで、将来にわたり、AIを使いこなせる

- 生成AIの新展開

留意する点

人工知能とナレッジベースの違い

人工知能

入力された情報に対して
最も相関のある学習データを出力

ナレッジベース

入力された情報に対して
正確な情報を出力

「最も相関の高い学習データ」が「正確な情報」であるとは限らない

正しい訓練データがあれば、人工知能は、より正しい回答を提供

- 生成AIの新展開

新しい展開

「生成AI」×「ナレッジベース」

- 「生成AIの回答」に「ナレッジベースの情報」を掛け合わせることで、より精度の高い回答を生成できるようになる

「クラウド」×「オンプレミス」

- 「gptなどのクラウドサービス」に「大学構内で運用するオンプレミス」の生成AIを掛け合わせることで、安定性、拡張性、強固なセキュリティを担保できるようになる

- 生成AIの新展開

「生成AI」×「〇〇〇」での利活用

そのまま利活用するのではなく

何かを掛け合わせることで

教育的な意図を持たせる

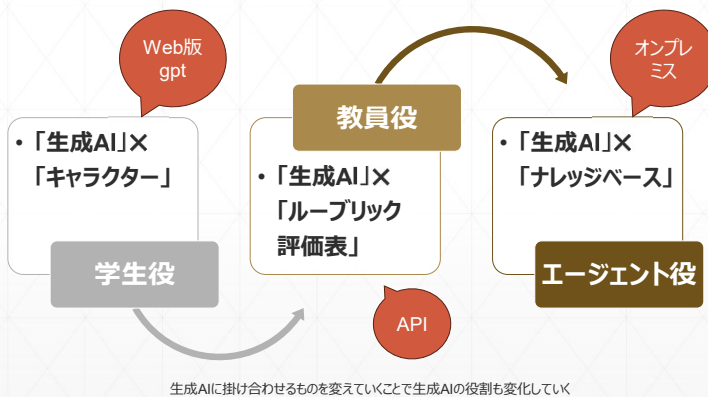
- 生成AIの新展開

生成AIの利活用



- 生成AIの新展開

「生成AI」×「〇〇〇」での利活用



- 生成AIの新展開

学生役を演じる生成AI

目的 多様な発想や意見に対する「批判的観点」を醸成

方法 「生成AI」×「学生のキャラクター」がグループワークで発言

学生が普段接していないようなキャラクターを持たせることで新しい発想に触れられるようにする

- 生成AIの新展開

学生役を演じる生成AI



- 生成AIの新展開

大学生が生成AIの回答をそのまま使ってレポートとして提出してしまう例があります。そのことについて、あなたの意見と、その対応策を考えてください。ただし、あなたは、誰もが驚くような斬新な発想を持った国際的にも有名なAIエンジニアだとする一方で、学生の本音や実態もよく把握している人情派とします。



- 生成AIの新展開

教員役を演じる生成AI

目的 個別最適化した指導で学生の文章表現力を向上

方法 「生成AI」×「ルーブリック評価表」でレポートを添削

全体の評価基準であるルーブリック評価表に基づいて一人一人に個別最適化した評価をする

- 生成AIの新展開

教員役を演じる生成AI

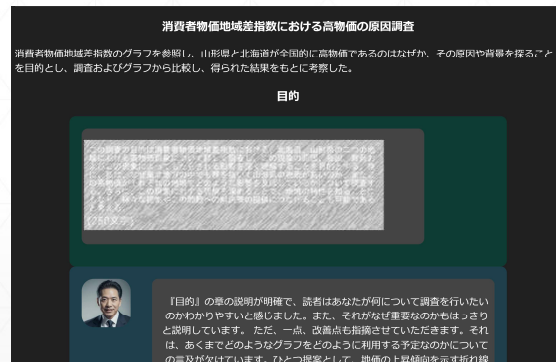
gpt-4へのプロンプトとして、ルーブリック評価表に基づいた添削の指導方針を提示

```
response = openai.ChatCompletion.create(
    model="gpt-4",
    messages=[
        [{"role": "user", "content": "あなたが、学生のレポートを採点するとして、どのように伝えますか。"}],
        [{"role": "system", "content": "あなたは、この学生を担当する大学教員であるとの役割を持ちます。"},
        [{"role": "system", "content": "kaitou"},
        [{"role": "system", "content": "レポートは、目的、方法、結果、考察から構成されます。タイトルは"},
        [{"role": "system", "content": "レポートでは、学生は、自身が設定した医療分野におけるAIに関する"},
        [{"role": "system", "content": "目的の採点項目は、様々な「医療分野におけるAI活用」の事例（テ"},
        [{"role": "system", "content": "方法の採点項目は、インターネットを検索する上で使ったキーワードが"},
        [{"role": "system", "content": "結果の採点項目は、複数の検索結果について記載されているか、です。"},
        [{"role": "system", "content": "考察の採点項目は、何を感じ、何を思ったのかが記載されているか、"},
        [{"role": "system", "content": "参考にしたURLは、別に記載しているので、このレポートには記載しな"},
        [{"role": "system", "content": "点数を数値としては付けなくてください。"},
        [{"role": "system", "content": "あなたのコメントを学生が読んで、どこを、どのように改善すれば、"},
        [{"role": "system", "content": "ただ、学生のレポートを否定するのではなく、良いところをさらに伸ばし"}]
```

Gtp-4が指導方針に沿って、学生ひとりひとりに個別最適化したレポート添削

- 生成AIの新展開

教員役を演じる生成AI



- 生成AIの新展開

エージェント役を演じる生成AI

目的 教育ビッグデータを基にして学生の探求心を鼓舞

方法 「生成AI」×「ナレッジベース」で学生の疑問を解決

生成AIに「より正しいデータ」となるナレッジベースを学習させることで回答精度を向上させる

- 生成AIの新展開

教育ビッグデータをナレッジベースへ

生成AIの回答に対する精度向上やハルシネーション抑制のカギとなるナレッジベースをいかに構築するのか

授業録画映像（zoom等）

時系列に沿って3分間で分割

クリップ映像

発話テキスト

1000本

130万語

教員は授業の中で相当数の「言葉」を発しており、ひとつ一つの「言葉」が貴重な教育ビッグデータとなる

- 生成AIの新展開

教育ビッグデータをナレッジベースへ



教育ビッグデータをナレッジベースへ



- 生成AIの新展開

エージェント役を演じる生成AI



- 生成AIの新展開

生成AIの利用にあたって

学生役を演じる生成AI

- Chat gptの有償契約 (gpt 4モデル)

教員役を演じる生成AI

- 学生レポートとルーブリック評価表

エージェント役を演じる生成AI

- 授業録画映像 (zoom等)

- 生成AIの新展開

情報センター生成AIサービス



- 生成AIの新展開





Health Sciences University of Hokkaido

2024（令和6）年度全学FD研修
令和6年8月1日（木）

学生を中心とした教育を進めるために
DX関連ツールの教育・実習への有効な活用について
ワークショップテーマに関する話題提供

**講義・実習におけるタブレット端末の
効果的な活用法**

—  Goodnotes™ を使った講義の実際 —



歯学部口腔生物学系薬理学分野
根津顕弘

<https://www.goodnotes.com/jp>
<https://www.ac-illust.com/main/detail.php?id=22454426&word=タッチペン>

 Anniversary
Health Sciences University of Hokkaido

Health Sciences University of Hokkaido

**タブレット端末を用いた講義・実習での
効果的な活用法**

- 1) 講義形態の変遷
- 2) タブレットを使う**メリット**と**デメリット**
- 3) タブレット講義に必要なもの
- 4) タブレット講義・実習の実際
- 5) タブレット講義に適したレジメは？



<https://www.irasutoya.com>

 Anniversary
Health Sciences University of Hokkaido

Health Sciences University of Hokkaido

1) 講義形態の変遷

2000年以前：アナログな時代
(教員) 黒板への板書 → (学生) ノートを書く



メリット：書くことで専門知識に触れる
整理することで知識を定着しやすい
まとめる力がつく

デメリット：視覚素材を示しにくい
講義内容が限られてくる
ノートを書くだけで精一杯になる
教科書の内容は読むだけ

<https://www.irasutoya.com>

 Anniversary
Health Sciences University of Hokkaido

Health Sciences University of Hokkaido

1) 講義形態の変遷

2000年以降：**PC、パワーポイント**登場後
(教員) **パワーポイント**の提示 → (学生) レジメへ記入



メリット：視覚素材が見やすい
講義時間内で得る内容が多い
見直しやすい

デメリット：レジメに頼りがち
まとめる力が低下する
聞いて書くので記入漏れが起こる
書くことが少ない

<https://www.irasutoya.com>

 Anniversary
Health Sciences University of Hokkaido

1) 講義形態の変遷

2015年以降：iPadとApple pencil、Goodnotes登場後

(教員) Goodnotesでレジメの提示 → (学生) レジメへ記入



2) タブレットを使うメリットとデメリット

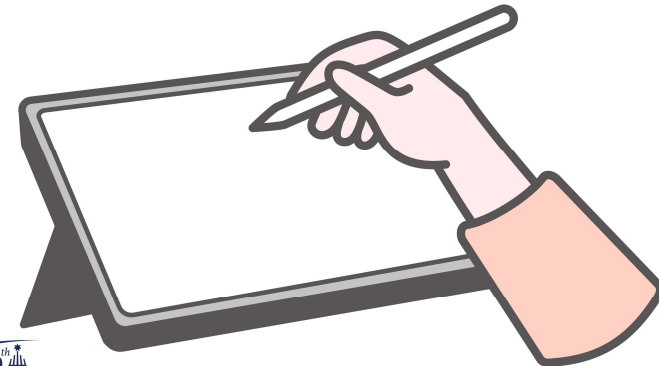
何が良くなったのか？



<https://www.goodnotes.com/jp>
<https://www.irasutoya.com>

2) タブレットを使うメリットとデメリット

タブレット端末 + スタイラス + アプリ
配布したレジメ上で手書きで書き込む



https://www.ac-illust.com/main/detail.php?id=22554804&word=タブレットPC+描く%E3%80%80仕事%E3%80%80液タブ#goog_rewarded

2) タブレットを使うメリットとデメリット

タブレット端末 + スタイラス + アプリ

配布したレジメ上で手書きで講義の板書などが可能

メリット : 視覚素材の指す場所がわかりやすい
講義時間内で示す内容が多くできる
メモを取りやすい
教科書の提示が簡単

教員側の メリット

- 「(項目の追加が容易)
- 「(講義記録が残る) → 質問対応が簡単
- 「(板書ができる) → 書くことが増える

デメリット：レジメに頼りがち
まとめる力が低下する



7

3) タブレット講義に必要なもの

タブレット端末 + スタイラス + アプリ

1) **タブレット** 10インチ～11インチ

小さいと書きずらく、大きいと邪魔
ストレージは多いほうがよい (64G以上)
SoCやCPU性能はある程度必要

VGAかHDMIアダプタ
(仮面出力に必需品)

2) スタイルス

書きやすいものを選ぶ
ペーパーライクフィルムを貼ると書きやすい

3) アプリ Goodnotes, PowerPoint

ファイル管理がしやすいものを選ぶ
ポインター機能も大事



8

Health Sciences University of Hokkaido

3) タブレット講義に必要なもの

タブレット端末 + スタイラス + アプリ

- 1) **タブレット**

iOS:	Apple	iPad, iPad Air , iPad pro	注) 高い!
Android:	Google	Google Pixel Tablet	
	Samsung	Galaxy Tab A9+	
	Xiaomi	Redmi Pad SE	
	Lenovo	Lenovo Tab M10	
Windows:	Microsoft	Surface Go, Surface Pro	
- 2) **スタイラス**

iOS:	Apple Pencil ,	各種スタイラス, 指	注) 高い!
Android:		各種スタイラス, 指	
Windows:	Surface Pen,	各種スタイラス, 指	
- 3) **アプリ**

iOS:	Goodnotes , PowerPoint, メモ, フリーボード
Android:	Goodnotes , PowerPoint
Windows:	Goodnotes , PowerPoint, ペイント

50th Anniversary Health Sciences University of Hokkaido

9

Health Sciences University of Hokkaido

3) タブレット講義に必要なもの

最近の歯学部学生が使っているもの

- 1) **タブレット** iPad
- 2) **スタイラス** Apple Pencil
- 3) **アプリ** Goodnotes



50th Anniversary Health Sciences University of Hokkaido

10
<https://www.goodnotes.com/jp>

Health Sciences University of Hokkaido

3) タブレット講義に必要なもの

Goodnotes



50th Anniversary Health Sciences University of Hokkaido

<https://www.goodnotes.com/jp>

Health Sciences University of Hokkaido

3) タブレット講義に必要なもの

Goodnotes



50th Anniversary Health Sciences University of Hokkaido

<https://www.goodnotes.com/jp>

Health Sciences University of Hokkaido

3) タブレット講義に必要なもの

 Goodnotes™



ワンクリックであなたのライブラリ全てにアクセス

ノートパソコンで入力するときも、タブレットでPDFに注釈をつける時も、スマートフォンでノートを見直す時も、Goodnotesにお任せください。すべてのデバイスでご利用いただけるようになりました。

iOS版をダウンロード

<https://www.goodnotes.com/jp>

50th Anniversary Health Sciences University of Hokkaido

Health Sciences University of Hokkaido

3) タブレット講義に必要なもの

 Goodnotes™

東京大学の情報システムの総合案内サイト：最新版ではないですが、詳しく記載されています。



GoodNotes 5 で板書をする

この記事のハイライト

- この記事では、GoodNotes 5 を用いて画面上で板書を行う方法について紹介しています。
- 以下の場面で使用できます。
 - リアルタイムで板書しながら授業を行います。
 - 事前に作成した資料 (PDF, PowerPoint, Word など) に書き込みながら授業を行います。
 - 学生の提出課題 (PDF, PowerPoint, Word など) を添削します。
- 以下のようなことはできません。
 - Windows に対応していません (iPhone, iPad, Mac のアプリケーションです)。

アプリケーションについての説明

GoodNotes 5 は、読み込んだスライドや文書 (PDF, PowerPoint, Word などに対応) に手書きの注釈を付けることができるメモ/画面用アプリケーションです。Zoom と組み合わせて使用することで、リアルタイムで手書きの板書をしながら授業を展開することが可能です。

Goodnotes で検索すると 1 ページ目にです。

<https://utelectron.adm.u-tokyo.ac.jp/articles/goodnotes-writing/>

50th Anniversary Health Sciences University of Hokkaido

Health Sciences University of Hokkaido

3) タブレット講義に必要なもの

 Goodnotes™ のいいところ

- 1) **書きやすい**：Apple Pencil との親和性が高い
- 2) **強調しやすい**：選べるペンタイプが多い
- 3) ファイル管理が簡単
- 4) ポインターが見やすい
- 5) レジメの移動が簡単
- 6) Undo (取り消し) と Redo (やり直し) が簡単
- 7) 書いたものそのまま残る
- 8) PDF に書き出せる
- 9) iPad と Mac との親和性が高い (データ移動が楽)

欲しい機能：動画の埋め込み

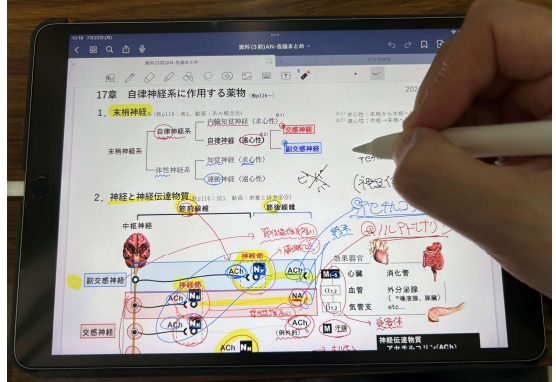
50th Anniversary Health Sciences University of Hokkaido

Health Sciences University of Hokkaido

4) タブレット講義・実習の実際

iPad + Apple Pencil +  Goodnotes™

配布したレジメ上で手書きで講義をする



17章 自律神経系に作用する薬物

1. 末梢神経
 - 交感神経系
 - 心臓交感神経 (心臓神経)
 - 肺交感神経 (肺神経)
 - 腸交感神経 (腸神経)
 - 腎交感神経 (腎神経)
 - 生殖器交感神経 (生殖器神経)
 - 副交感神経系
 - 心臓副交感神経 (心臓神経)
 - 肺副交感神経 (肺神経)
 - 腸副交感神経 (腸神経)
 - 腎副交感神経 (腎神経)
 - 生殖器副交感神経 (生殖器神経)
2. 神経と神経伝達物質
 - 交感神経
 - 中枢神経
 - 視床下部
 - 視床下部 (視床下部)
 - 視床下部 (視床下部)
 - 視床下部 (視床下部)
 - 視床下部 (視床下部)
 - 視床下部 (視床下部)
 - 末梢神経
 - 交感神経
 - 交感神経 (交感神経)
 - 交感神経 (交感神経)
 - 交感神経 (交感神経)
 - 副交感神経
 - 副交感神経 (副交感神経)
 - 副交感神経 (副交感神経)
 - 副交感神経 (副交感神経)

50th Anniversary Health Sciences University of Hokkaido

Health Sciences University of Hokkaido

4) タブレット講義・実習の実際

現在持っている講義

- 1) **歯学部3年生**：歯科薬理学講義・実習（前・後期）
 - 初めて薬理学に触れる
 - 生理学、生化学は履修済み
 - 薬物名や作用点を覚える
 - 作用機序を理解する
 - 総論を理解する
- 2) **歯学部4年、5年生、6年生**：歯科医学総合講義
 - 薬理学の知識を持っている
 - 薬理学を思い出す作業
 - 反復による知識の定着と追加
 - 練習問題と解説



<https://www.goodnotes.com/jp>
<https://www.irasutoya.com>

50th Anniversary Health Sciences University of Hokkaido

Health Sciences University of Hokkaido

4) タブレット講義・実習の実際

現在持っている講義

- 3) 歯科衛生士専門学校1年生：歯科薬理学講義（後期）
 - 初めて薬理学に触れる学生
 - 生物学を習っていない可能性
 - 生理学、生化学を履修中
 - 学部学生よりも知識が少ない状況
- 4) 歯科衛生士専門学校3年生：歯科薬理学講義（後期）
 - 薬理学の知識を持っている
 - 薬理学を思い出す作業
 - 反復による知識の定着と追加
 - 練習問題と解説



<https://www.goodnotes.com/jp>
<https://www.irasutoya.com>

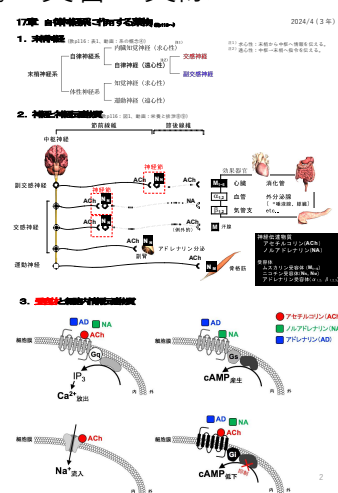
50th Anniversary Health Sciences University of Hokkaido

Health Sciences University of Hokkaido

4) タブレット講義・実習の実際

1) 歯学部3年生用レジメ例：

- 初めて薬理学に触れる
- 生理学、生化学は履修済み
- 薬物名や作用点を覚える
- 作用機序を理解する
- 総論を理解する



17章 自律神経系に作用する薬物 (2024/4 (3年))

1. 自律神経系

2. 神経伝達物質

3. 受容体と細胞内情報伝達物質

4. 自律神経系に作用する薬物の作用機序

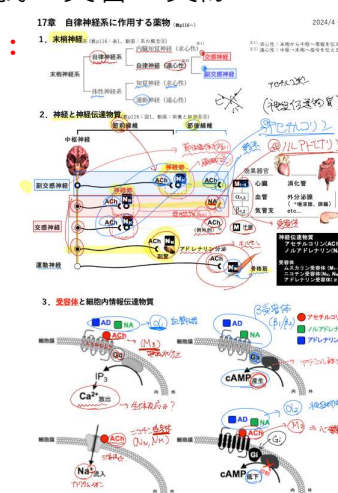
50th Anniversary Health Sciences University of Hokkaido

Health Sciences University of Hokkaido

4) タブレット講義・実習の実際

1) 歯学部3年生用レジメ例：

- 初めて薬理学に触れる
- 生理学、生化学は履修済み
- 薬物名や作用点を覚える
- 作用機序を理解する
- 総論を理解する



17章 自律神経系に作用する薬物 (2024/4 (3年))

1. 自律神経系

2. 神経伝達物質

3. 受容体と細胞内情報伝達物質

4. 自律神経系に作用する薬物の作用機序

50th Anniversary Health Sciences University of Hokkaido

Health Sciences University of Hokkaido

4) タブレット講義・実習の実際

1) 歯学部3年生の板書例1：要点のまとめ

- 初めて薬理学に触れる
- 生理学、生化学は履修済み
- 薬物名や作用点を覚える
- 作用機序を理解する
- 総論を理解する

① 筋弛緩作用
 (1) 競合性筋弛緩薬
 ② ACH は NM 結合部位に結合 → Ca^{2+} 流入
 Ca^{2+} 流入 → 筋収縮 → 運動能力が低下
 Ca^{2+} 流入 → 筋弛緩 → 運動能力が向上
 ③ 作用点
 Ca^{2+} 流入 → Ca^{2+} 流入を競合的に遮断
 ⇒ 筋弛緩が起る

50th Anniversary
Health Sciences University of Hokkaido

21

Health Sciences University of Hokkaido

4) タブレット講義・実習の実際

1) 歯学部3年生の板書例2：表の作成

- 初めて薬理学に触れる
- 生理学、生化学は履修済み
- 薬物名や作用点を覚える
- 作用機序を理解する
- 総論を理解する

イスタリ型	アミド型
-COO-	-NHCO-
① 腸吸収 (中腸)	① 化学結合 (中腸)
② 腸吸収 (中腸)	② 代謝
③ 代謝 (PABA類似物)	③ 代謝 (PABA類似物)
④ 代謝 (PABA類似物)	④ 代謝 (PABA類似物)
⑤ 代謝 (PABA類似物)	⑤ 代謝 (PABA類似物)
作用時間が短い	作用時間が長い
コカイン、アミド型、アミド型、アミド型	アミド型、アミド型、アミド型、アミド型

50th Anniversary
Health Sciences University of Hokkaido

Health Sciences University of Hokkaido

4) タブレット講義・実習の実際

1) 歯学部3年生用レジメ例：実習解説

- 初めて薬理学に触れる
- 生理学、生化学は履修済み
- 薬物名や作用点を覚える
- 作用機序を理解する
- 総論を理解する

実験4) AChによる腸管収縮に対するAtrの抑制効果

実験5) Hisによる腸管収縮に対するメピラミン (Mep) の抑制効果
 (目的) ヒスタミンによる腸管収縮に対するメピラミンの効果を観察する。
 ヒスタミン刺激 (最終濃度: $1.0 \times 10^{-4} M$) によるモルモット回腸標本の収縮に対し、様々な濃度のメピラミンを加えた時の腸管収縮に対する作用を観察

(シミュレーション操作)

50th Anniversary
Health Sciences University of Hokkaido

23

Health Sciences University of Hokkaido

4) タブレット講義・実習の実際

1) 歯学部3年生用レジメ例：実習解説

- 初めて薬理学に触れる
- 生理学、生化学は履修済み
- 薬物名や作用点を覚える
- 作用機序を理解する
- 総論を理解する

実験4) AChによる腸管収縮に対するAtrの抑制効果

実験5) Hisによる腸管収縮に対するメピラミン (Mep) の抑制効果
 (目的) ヒスタミンによる腸管収縮に対するメピラミンの効果を観察する。
 ヒスタミン刺激 (最終濃度: $1.0 \times 10^{-4} M$) によるモルモット回腸標本の収縮に対し、様々な濃度のメピラミンを加えた時の腸管収縮に対する作用を観察

(シミュレーション操作)

50th Anniversary
Health Sciences University of Hokkaido

24

- 薬理学の知識を持っている
- 薬理学を思い出す作業
- 反復による知識の定着と追加
- 練習問題と解説**

食品経路系の特異性に関する主要関数と主要遺伝子						2004.4
代謝経路	主要な代謝物	主要な代謝物	主要な代謝物	主要な代謝物	主要な代謝物	
代謝経路系の特異性	① (C16:0, C18:0)	ニードン (C16:0, C18:0)	N_1	脂肪酸	脂肪酸 (C16:0, C18:0) の合成 (脂肪酸合成経路)	脂肪酸 (C16:0, C18:0) の合成 (脂肪酸合成経路)
			N_2	脂肪酸	脂肪酸 (C16:0, C18:0) の合成 (脂肪酸合成経路)	脂肪酸 (C16:0, C18:0) の合成 (脂肪酸合成経路)
			M_1	脂肪酸	脂肪酸 (C16:0, C18:0) の合成 (脂肪酸合成経路)	脂肪酸 (C16:0, C18:0) の合成 (脂肪酸合成経路)
			M_2	脂肪酸	脂肪酸 (C16:0, C18:0) の合成 (脂肪酸合成経路)	脂肪酸 (C16:0, C18:0) の合成 (脂肪酸合成経路)
			M_3	脂肪酸	脂肪酸 (C16:0, C18:0) の合成 (脂肪酸合成経路)	脂肪酸 (C16:0, C18:0) の合成 (脂肪酸合成経路)
	② (C16:0, C18:0)	ニードン (C16:0, C18:0)	α_1	脂肪酸	脂肪酸 (C16:0, C18:0) の合成 (脂肪酸合成経路)	脂肪酸 (C16:0, C18:0) の合成 (脂肪酸合成経路)
			α_2	脂肪酸	脂肪酸 (C16:0, C18:0) の合成 (脂肪酸合成経路)	脂肪酸 (C16:0, C18:0) の合成 (脂肪酸合成経路)
			α_3	脂肪酸	脂肪酸 (C16:0, C18:0) の合成 (脂肪酸合成経路)	脂肪酸 (C16:0, C18:0) の合成 (脂肪酸合成経路)
			α_4	脂肪酸	脂肪酸 (C16:0, C18:0) の合成 (脂肪酸合成経路)	脂肪酸 (C16:0, C18:0) の合成 (脂肪酸合成経路)
			α_5	脂肪酸	脂肪酸 (C16:0, C18:0) の合成 (脂肪酸合成経路)	脂肪酸 (C16:0, C18:0) の合成 (脂肪酸合成経路)
交配経路系の特異性	③ (C16:0, C18:0)	ニードン (C16:0, C18:0)	β_1	脂肪酸	脂肪酸 (C16:0, C18:0) の合成 (脂肪酸合成経路)	脂肪酸 (C16:0, C18:0) の合成 (脂肪酸合成経路)
			β_2	脂肪酸	脂肪酸 (C16:0, C18:0) の合成 (脂肪酸合成経路)	脂肪酸 (C16:0, C18:0) の合成 (脂肪酸合成経路)
			β_3	脂肪酸	脂肪酸 (C16:0, C18:0) の合成 (脂肪酸合成経路)	脂肪酸 (C16:0, C18:0) の合成 (脂肪酸合成経路)
			β_4	脂肪酸	脂肪酸 (C16:0, C18:0) の合成 (脂肪酸合成経路)	脂肪酸 (C16:0, C18:0) の合成 (脂肪酸合成経路)
			β_5	脂肪酸	脂肪酸 (C16:0, C18:0) の合成 (脂肪酸合成経路)	脂肪酸 (C16:0, C18:0) の合成 (脂肪酸合成経路)
	④ (C16:0, C18:0)	ニードン (C16:0, C18:0)	γ_1	脂肪酸	脂肪酸 (C16:0, C18:0) の合成 (脂肪酸合成経路)	脂肪酸 (C16:0, C18:0) の合成 (脂肪酸合成経路)
			γ_2	脂肪酸	脂肪酸 (C16:0, C18:0) の合成 (脂肪酸合成経路)	脂肪酸 (C16:0, C18:0) の合成 (脂肪酸合成経路)
			γ_3	脂肪酸	脂肪酸 (C16:0, C18:0) の合成 (脂肪酸合成経路)	脂肪酸 (C16:0, C18:0) の合成 (脂肪酸合成経路)
			γ_4	脂肪酸	脂肪酸 (C16:0, C18:0) の合成 (脂肪酸合成経路)	脂肪酸 (C16:0, C18:0) の合成 (脂肪酸合成経路)
			γ_5	脂肪酸	脂肪酸 (C16:0, C18:0) の合成 (脂肪酸合成経路)	脂肪酸 (C16:0, C18:0) の合成 (脂肪酸合成経路)

- 薬理学の知識を持っている
- 薬理学を思い出す作業
- 反復による知識の定着と追加
- 練習問題と解説

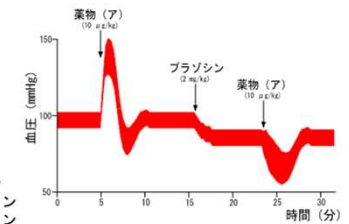
[illegible]

- 薬理学の知識を持っている
- 薬理学を思い出す作業
- 反復による知識の定着と追加
- 練習問題と解説

3) 自律神経系の作用に及ぼす受容体と生体伝達							2024.4
神経系	神経伝達物質 (自律神経)	受容体 (Gタンパク質結合型受容体)	第二信使 (細胞内伝達物質)	生理作用	生体伝達	生体作用の動態 (フィードバック)	受容体の動態 (フィードバック)
副交感神経	副交感神経神経線維 副交感神経神経線維末梢から分泌される神経伝達物質 ●副交感神経神経線維末梢から分泌される神経伝達物質	N_A		神経筋	心筋の収縮力増加 (増加) 消化器・平滑筋の収縮・弛緩・分泌・腺分泌の促進 (平滑筋の弛緩)	① $2 \times 10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン)	① $10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン)
		ニコチン受容体	(Na^+) ↓	興奮性			
		N_M		平滑筋		① $2 \times 10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン) ② $10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン) ③ $10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン)	① $10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン) ② $10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン) ③ $10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン)
		M_2 (cAMP) ↓	心臓 心臓 (抑制)	興奮性		① $2 \times 10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン) ② $10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン) ③ $10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン)	① $10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン) ② $10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン) ③ $10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン)
交感神経	交感神経神経線維末梢から分泌される神経伝達物質 ●交感神経神経線維末梢から分泌される神経伝達物質	M_1 (Ca ²⁺) ↓	心臓 心臓 (抑制)	興奮性		① $2 \times 10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン) ② $10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン) ③ $10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン)	① $10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン) ② $10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン) ③ $10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン)
		M_2 (Ca ²⁺) ↓	心臓 心臓 (抑制)	興奮性		① $2 \times 10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン) ② $10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン) ③ $10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン)	① $10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン) ② $10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン) ③ $10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン)
		M_3 (Ca ²⁺) ↓	心臓 心臓 (抑制)	興奮性		① $2 \times 10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン) ② $10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン) ③ $10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン)	① $10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン) ② $10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン) ③ $10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン)
		M_4 (Ca ²⁺) ↓	心臓 心臓 (抑制)	興奮性		① $2 \times 10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン) ② $10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン) ③ $10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン)	① $10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン) ② $10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン) ③ $10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン)
交感神経	交感神経神経線維末梢から分泌される神経伝達物質 ●交感神経神経線維末梢から分泌される神経伝達物質	α_1 (Ca ²⁺) ↓	心臓 心臓 (抑制)	興奮性		① $2 \times 10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン) ② $10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン) ③ $10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン)	① $10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン) ② $10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン) ③ $10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン)
		α_2 (Ca ²⁺) ↓	心臓 心臓 (抑制)	興奮性		① $2 \times 10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン) ② $10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン) ③ $10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン)	① $10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン) ② $10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン) ③ $10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン)
		α_3 (Ca ²⁺) ↓	心臓 心臓 (抑制)	興奮性		① $2 \times 10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン) ② $10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン) ③ $10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン)	① $10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン) ② $10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン) ③ $10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン)
		α_4 (Ca ²⁺) ↓	心臓 心臓 (抑制)	興奮性		① $2 \times 10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン) ② $10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン) ③ $10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン)	① $10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン) ② $10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン) ③ $10^{-6} \sim 10^{-5}$ M (ニコチン)

- 薬理学の知識を持っている
- 薬理学を思い出す作業
- 反復による知識の定着と追加
- 練習問題と解説

薬物（ア）投与による血圧変動の図を示す。
プラゾシン投与により図の様に变化した。
薬物（ア）はどれか。



- a アドレナリン
- b アセチルコリン
- c イソブレンナリン
- d ノルアドレナリン
- e アンジオテンシンII

ワークショップ プロダクト

授業・実習における 生成系AIの活用法

～チャットGPTを医療の教育現場
でどう活用するか！？～

今回のワークショップでの議事録…



Chatgptに
「パワーポイントの資料としてまとめて」依頼



具体案～教員の活用方法～

1. 問題作成の支援
◇提示した課題に対する多角的な問題の作成
2. バーチャル患者の作成
◇生成AIを利用して多様なバーチャル患者シナリオを自動生成
◇学生がさまざまなシチュエーションでスキルを練習
3. 実践力向上
◇バーチャル患者との対話でコミュニケーションスキルを強化
◇実技練習を通じてテクニックの習得

具体案～学生サポート～

1. タスク管理の支援
◇学習進捗や不足部分をAIが分析
◇改善策や追加リソースを具体的に提案
2. 理解支援の強化
◇難解な用語や概念を生成AIが簡潔に説明
◇学生が質問するたびにリアルタイムで解説を提供
3. パーソナルメンターの導入
◇学業だけでなく大学の運用に関する質問にも対応
◇24時間対応可能なサポート体制を整備

生成系AIを教員が活用する利点

1. 効率的な教材作成
 - ◇自動でパーソナライズされた課題や教材を生成
 - ◇テスト結果や進捗データを基にした個別対応
2. 作業負担の軽減
 - ◇難解な課題や模擬患者シナリオの生成をAIに任せる
 - ◇教員の時間と労力を削減し、より重要な教育活動に集中
3. 24時間サポート
 - ◇パーソナルメンター機能により、学生の質問や課題に即時対応
 - ◇学生の学習サポートを強化し、教員の負担を分散
4. 多様なシナリオ作成
 - ◇VR/ARシナリオの生成をサポートし、実践的な学習環境を提供

生成系AIを使う学生への利点

1. パーソナライズド学習
 - ◇個々の学習ニーズに合わせた教材と課題提供
 - ◇苦手分野や理解度に応じた練習問題を自動生成
2. リアルタイムのフィードバック
 - ◇学習進捗を即座に分析し、改善策を提案
 - ◇理解度や進捗に基づくパーソナルアドバイス
3. 効率的な学習
 - ◇VR/ARによる実践的な学習体験でスキルの向上
 - ◇生成AIによる難解な用語や概念の簡潔な説明
4. 自立性の促進
 - ◇AIメンターを活用した自己課題の解決
 - ◇国家試験対策や学業のサポートを自分で管理

生成AIの課題

1. ナレッジベースの構築
 - ◇正確で有用な情報をAIが学習するためのナレッジベースの構築が必要
 - ◇知識のアップデートと維持に関する課題
2. 非言語的なコミュニケーション
 - ◇身体言語や感情の表現に対する対応が困難
 - ◇AIが非言語的な要素をどのように取り入れるかの検討
3. モチベーションとインスピレーション
 - ◇AIが提供する情報に対する学生のモチベーション維持
 - ◇インスピレーションを与えるためのアプローチ
4. 倫理的教育
 - ◇AIが教育に与える影響を考慮し、倫理的な配慮を行う
 - ◇教員とAIの役割の再考、教育の公平性を保つ

まとめ

Chatgptを使っていきましょう!!



タブレット端末の授業・実習 での有効活用方法

タブレット端末を授業で有効活用すること

タブレット端末を利用することで、
学生と教員が臨場感を感じながら、
メリハリのあるリアルタイムな授業を
作り上げることができる。

タブレット端末の可能性について

教員側と学生側の距離を縮める授業には価値があると考えられる。

- ▶ 双方向性の情報交換を行う方法として、
タブレット端末が「デジタル黒板」として新しい役割を
担える可能性がある。
- ▶ 「デジタル黒板」にはデジタルとアナログの長所を併せ持ち、
双方向性の情報交換を促す可能性がある。

教員側のタブレット端末利用のメリット

- ▶ 幹を提示して、必要最小限の情報から始まり、肉付けしていく授業を展開できる。書き示すことで、応用的な内容をオプションとして提示できる。
- ▶ 多角的な視点で授業を説明でき、学生を飽きさせない授業を提供できる。
- ▶ タブレット端末を持ち歩きながら授業を行え、授業中に学生が遊んでいるか確認しながら授業を行える。
- ▶ 手書きのメモを残すことで、過去の授業内容を振り返ることができ、次年度の授業に生かすことにつなげられる。
- ▶ 国家試験の問題の解き方について、思考の流れを説明しやすい。

学生のタブレット端末利用のメリット

- ▶ 教員が授業で話した内容が残り、それをもとに学生が授業を再現・復習しやすい。
- ▶ 手書きで書かれる情報追加は、学生の思考の整理につながる。
- ▶ 学生がお客さんにならずに主体的に参加できるようになる。
- ▶ タブレット端末であれば、必要な情報の拡大・強調を簡単に示すことができ、学生の集中や理解をしやすくなる。

タブレット端末の有効活用により得られる結果

- ▶ 学習効果が高まる
- ▶ 双方向性の情報交換が充実する
レジメの情報共有となり、学生は質問をしやすく、教員は説明がしやすくなる。
- ▶ 紙の印刷物が減り、費用の削減になる。
- ▶ 教員は時間の節約になる。
- ▶ 学生は講義資料を管理しやすくなり、荷物が減る。

ただし

- ▶ ベースとなるスライド(PDF)作成にはパソコンが必要である。
- ▶ デジタル資料を検索しやすいように保存する必要がある。
整理の工夫が必要である。
- ▶ 学生が遊ぶ可能性がある。

デジタルとアナログの融合はむずかしくありません。

みんなで使ってみましょう！

ワークショップ 感想

実際に使ってみると、やはりChatGPTの便利さは革新的で、教員と学生それぞれが教育(学習)の向上と様々な効率化に活かせればと改めて感じました。一方で、ChatGPTの限界や不向きな部分も明確に存在するので、そのあたりに早めに慣れていく必要があると思います。グループトーク内で、学生でも同じように使えるAIが活躍する教育現場において、教員の役割は何かを問う発言があったのが印象的でした。個人的には、教員こそ積極的にAIを利用し、自発的にAIを活用する立場になる必要があると感じています。

兎にも角にも、身近な存在にすることが活用への第一歩です。学習の補助などはまだ難しいかもしれませんが、明確な文書データがある学則や事務手続き、学校案内のような学生サポートにおいては、アバウトな質問にも答えてくれるチャットサービスが早い段階であるといいなと思いました。また、もし可能であれば、このような大学由来のサービスは、Webだけでなくアプリなどにして、より学生に身近な存在になれば良いなと思いました。

(薬学部 平山 裕一郎)

2024年8月1日に開催された全学FD研修(テーマ編)にワークショップメンバーとして参加させていただきました。貴重な機会を与えていただきありがとうございました。実際にChatGPTに触れながら議論を行いました。数年前に一度触れたときよりも格段に技術が進み、使いやすくなったことに驚きました。何か議題について一般的なアイデアをまとめるのであればChatGPTをまず使用すると初動が格段に速くなるため積極的に活用を考えるべきだと感じます。また、AIに複数の生徒役をさせるなどシミュレーションの分野においては個人では想定しきれない要素を洗い出すのに非常に有効でした。一方で、「〇〇について参考文献を挙げて説明してください。」というような使い方をするとハルシネーションを起こすことは相変わらずであり、ChatGPTに任せきりにするのは悪手であることは変わりがないようでした。総じて、非常に有用であるが使いこなすには癖が強く、きっちりと学んで習熟する必要があると感じました。すでにこれを倦厭する時代は過ぎ去り、積極的に学び使いこなす必要があると思います。

(薬学部 三浦 桃子)

全学FD研修「学生を中心とした教育をすすめるために-DX関連ツールの教育・実習への有効活用について-」に参加しました。グループワークでは、①授業・実習における生成系AIの活用方法、②タブレット端末の授業・実習での活用方法について討議しました。生成系AIについては、学生の理解度をリアルタイムで分析し、個別指導を強化するアイデアが出ました。特に、AIを活用した模擬試験やフィードバックシステムが教育の質を向上させる可能性が高いと感じました。タブレット端末については、授業中のインタラクティブな教材提示や、実習時の記録・共有の簡便さが強調されました。参加者の皆さんと意見交換する中で、技術の進化を教育にどう取り入れるかについて多くの示唆を得ることができ、大変有意義な時間となりました。今後も、これらのアイデアを実際の授業に取り入れ、学生の学びをより充実させることに努めていきたいと思っています。

(薬学部 長瀬 雅揮)

自分自身はタブレット端末を使わず、ノート・プリント・教科書をタブレット機一つで済ませる学生の受講スタイルにやや距離を感じていたので、この課題に共感を持って臨めるか不安であった。一方で、以前から不便に思っていた黒板とPCを切り替えての講義が、コロナ禍で「ホワイトボードへのスライド投影+マーカーペン書込みのwebカメラ配信」で見事に解決された。それに近いことができる「スライドショーへのペンタブレット入力」が、講義実施者側のタブレット端末活用になっていたことから、学生と教員の双方に利があるICTであることに納得がいった。

当日はタブレット端末の有効活用にほど遠い身ながら進行を務めた。KJ法でメンバー各自が普段タブレット利用の授業に思うことを吐き出すことから始め、学生に参加させるコンテンツづくりにテーマを絞り込んでいった。その過程で「見/魅せ方」のバリエーション・自由度に於いて単純なスライドショーや板書一辺倒に比べたタブレット端末の強みが改めて認識された。参加メンバー間にも普段のタブレット活用度には差があるものの、それぞれ少なからず思うところがあると、自由意見から感じられた。予習なしのFDの特性上、議論の収束はなかなか難しかったが、全メンバーの活発な提言と集約への努力、要所でポイントを絞りながらのスライド作成、そのスライドを用いた明快な発表と、各役割を十分に果たしつつプロダクトの提示に漕ぎ付けることができた。

参加メンバーがそこに物足りなさを感じたとすれば、それは短時間ながらこのワークショップが「もう少し時間をかけてこのテーマを深掘りしたい」と思わせる熾火となった証左ではないかと思う。このICTの特徴を活かして如何に双方向性のある授業づくりができるか、改めて議論できる場が設けられると嬉しい。

(歯学部 根津 尚史)

今回FD研修でタブレット端末を使った講義・実習での使用の実際について話題提供をさせていただき、さらにワークショップで他の先生方の様々なご意見を聞くことができました。配布資料や教科書を使った講義内容をできるだけ学生と正確に共有したいと考え、自分なりにタブレットを使い10年近く講義を行ってきました。実際に使ってみると、本来の目的以上に使いやすいこと、また講義記録が毎回残せること、講義記録が学生との質問などの対応に有効であることなど思った以上にメリットがあります。ただしこれらのことは私自身で評価したものであることから、実際に他の先生方がタブレットを使うメリットをどのように評価していただけるのかを知ることができて非常に有意義なワークショップとなりました。これを機会に、タブレットを使ったデジタルと手書きのアナログの共存による講義をより深化させ、今後の学生教育の一助になればと思います。

(歯学部 根津 顕弘)

この度、全学FDに参加させていただきました。午前中に生成系AIの現在について、前年度と比較した現状と進歩の程度を改めて確認しました。これまで生成系AIについては漠然と捉えているにとどまっておき、使用してはいませんでした。この度、全学の教員と討議することで教育への利用の現状と対応について見直す機会となりました。討議に当たり、実際に生成系AIを使用し、どのような特徴があり使用するにあたり注意すべき点を再確認できました。今後は我々教員のみならず、学生もレポートなどで使用する機会も増えるのかもしれませんが。他学部ではレポート課題などに学生が生成系AIをすでに活用している可能性が示唆されており、生成系AIを使用しているか否かは判断しづらい現状とのことでした。現状における生成系AIは義務教育レベルなら適当な文章作成に優れるものの、専門性のある問いに関してはまだ返答が的外れとなっております。しかしながら、専門性のある問いに関しても、適当な返答が可能になる未来が間近になっているようにも感じました。今後の生成系AIの進歩に合わせて、我々教員も教育に対して生成系AIを1つの手段として適切に運用する必要があると感じられました。

(歯学部 横関 健治)

近年のDX関連ツールの目覚ましい発展について様々な情報から見聞きしつつ、自身の教育にどのように組み入れ活用していくか、具体的イメージ化ができずにいた。今回のFDを通してタブレット端末でGoodnotesを使用した授業について具体的に考え、今後の教育への活用を示唆を得ることができた。

現在講義ではパワーポイントを使用しているが、一方向的な授業になりがちな限界を感じつつ改善方法を見出せずにいた部分があった。使用するツールだけの問題ではないが、国家試験に向け学生が得るべき知識を授業時間内で教授するには限界があり、教科書等の学習資源の活用や自己学習も重要である。また日々の授業中の学生の態度からは、授業への興味・集中力の低下を感じ危機感を抱いていた。授業内で理解できた感覚が得られることが、主体的学習や記憶に影響すると考え、理解に繋がるような授業資料の作成を意識していたが、今回のGoodnotesを利用した授業方法により、教授方法を変更できる可能性を感じた。学生に授業に主体的に参加してもらうためには、資料への書き込みや理解を深めるための視覚的に訴えた解説が効果的であると感じる。今回得た知識を活用しタブレット端末による授業をまずは後期の授業から活用し、学生の学力向上に効果的か検討していきたいと考えた。

(看護福祉学部 伊藤 加奈子)

今回のワークを通して、ChatGPTの活用に関してメリットとデメリットを感じた。まず、メリットとして、情報を簡潔にまとめられることや、資料の修正に役立つ点が挙げられる。特に、複雑な内容を素早く整理し、効率的に見直す際に大きなサポートとなると考えた。一方で、デメリットとして、専門性の欠如や、教員が重視していることが乖離する可能性があると感じた。生成系AIに教員の役割を取られるという漠然とした恐怖感があったが、杞憂であることに気が付いた。

(看護福祉学部 米川 弘樹)

今回のFD研修では、午後の部において「授業・実習における生成系AIの活用法」のワークショップに参加しました。実際にPCを持ち込み、あたかも学生になったつもりで実際に生成系AIを使ってみました。大雑把な質問には一般的で抽象的な回答しか返ってきませんが、十分に練られた質問であれば、かなり具体的で整った回答を得ることができ、生成系AIによって学習体験がどのように変わりそうなのか、少しばかり実感が得られました。学生が生成系AIをうまく使えるようになれば、自分の理解度や進捗状況に合わせた、まさに個別化された学習支援が実現できるのではないかと期待できました。ただ、うまく使うには、適切な質問とその回答を踏まえた対話を成立させるだけの十分な知識と判断力、思考力、創造力も求められるように思われます。それらも生成系AIを使いながら向上していくものなのか、それとも使いこなせるようになるための教育が必要なのか、強い関心をもって検討していきたい。

(心理科学部 野田 昌道)

今回私は「授業・実習における生成系AIの活用法」のワークショップに参加しました。まず自身がChatGPT4.0を体験し、その後、現在の学生教育・指導における困りごとに対する生成系AIの活用という視点から、議論とまとめを行いました。体験と議論を通じて、生成系AIの利便性を体感し、漠然していた生成系AIの利点や欠点を明確化できました。例えば、ChatGPT4.0は知りたい情報をリアルタイムで取得したり、得られた情報をまとめたり、逆に一つの情報から多様なバリエーションを複製したりすることが得意です。これらの利点は、教員のみならず学生にとっても効率的な時間活用につながるため、今後益々教育現場における活用が増えてくると感じました。一方、生成系AIは最もらしい提案をしてくれるツールに過ぎず、間違いがある可能性や相対的評価ができないという欠点、さらには、使用方法を間違えれば考える力の減弱に繋がるといった欠点もあります。これらの欠点を補い教育するのが教員の役割であることを実感したと同時に、加速度的に進化・発展している生成系AIの教育現場における応用に対応可能な能力を身につけておくためにも、まずは教員がアレルギーを持たずに、積極的に生成系AIを自ら利用してくべきだと感じました。

(リハビリテーション科学部 井上 恒志郎)

生成AIに関して、レクチャーとプロダクト発表を聞いて、生成AIが身近になることに伴って教育で有効活用できる反面、学生が課題に取り組む際には生成AIの使用をどこまで許容するのか今後の検討点になると思った。また、学生の生成AIの使用を踏まえて課題内容を吟味していくことも必要だと思った。タブレット端末の使用に関しては、レクチャーとワークショップを通じて、Goodnotesをはじめとしたノートアプリが搭載されたタブレット端末の活用方法について議論し、タブレット端末を使用することで説明方法の自由度が高くなるため、学生の理解度に合わせた授業が展開可能となり、教員と学生が一体化した教育が実現できるという結論に至った。議論では様々なアイデアが出てきたが、アイデアを整理、総括すると、タブレット端末を導入するデメリットよりもメリットの方が圧倒的に多いこと、デジタルを駆使しつつも実質の内容としてはアナログであることなど、興味深い考察が得られ、有意義な議論ができた。また、他学部の先生方との議論を通して、それぞれの学部での授業方法や課題点、授業に対する考え方などを共有することができ、大変勉強になった。

(リハビリテーション科学部 齋藤 隆司)

学生を中心に据えた教育を発展させるために、生成AIとタブレット端末の有効活用についてのご講演を拝聴しました。講演内容を自分の授業に取り入れることで、学生にとってより理解しやすく、魅力的な授業が実現できると思いました。その後、タブレット端末の実践的な使い方についてのワークショップに参加し、具体的なメリットと可能性を深く掘り下げることができました。様々な教員が提案する具体的な方法論を取り入れることで、より多角的かつ実践的な教育プロダクトを構築できたと思いました。後期の授業に即座に活かせる内容で、実践してみたいという強い意欲を持たせてくれる内容であり、自分にとって非常に有意義なFD研修となりました。急速に進化する技術の恩恵を授業に反映させることができる一方で、その技術をしっかり理解し、活用しようとする教員の心構えが常に求められると感じました。学生中心の授業を実現するため、これからも精進していきたいと思います。

(リハビリテーション科学部 若松 千裕)

ワークショップにおいて、「授業・学習における学習支援に生成系AIを活用する可能性についての新たな見解」に参加しました。AIを教育に活用する多彩な提案が非常に参考になり、自身のタスク管理や業務負担軽減が可能であることが理解できました。生成AIの利点や欠点、特性について理解を深めた上で、早速実践に移したいと考えています。しかし、生成AIの有効性がある一方で、過度に利用することによる倫理的な問題や学生に与える悪影響、また教員の存在価値の見直しが大きな課題であることも認識しました。この研修会は、生成AI利用の方向性だけでなく、自分自身の教員としての方向性についても考えさせられるものでした。また、AIに関する知識を得るだけでなく、他学部での現状や他教員の悩みを共有でき、グループ発表では報告しきれない内容も協議できたことから、とても有意義な時間を過ごせました。

(医療技術学部 高橋 祐輔)

今回、全学FD研修に参加しDX関連ツールに対しての有効性について理解する事が出来ました。また、ワークショップを行ったことで、自分が実践する上での抵抗感が和らぐことが出来、有効な時間となりました。

生成AIの講義を受けて感じた事は、現在チャットGPTなどのサービスを使用したことも無く、知識もほとんどない状態だったため、難しい部分もありましたが、こんなにも進歩しているのだと驚きました。また、少しずつでも活用できるようにしていきたいと感じています。講義・実習におけるタブレット端末の効果的な活用法は、講義受講後に実際にGoodnotesを

操作したことで、より理解が深まりました。また、ワークに参加した先生方の日頃の授業で感じていることを共有できたことは、とても良かったです。

今まで、DX関連ツールに関しては、苦手意識が強く、自分には使いこなせる気がしていませんでしたが、根津先生に丁寧にレクチャーして頂いた事で、実践する上で必要な準備等が分かり、出来ることから始めていこうと思える研修会になりました。

(歯科衛生士専門学校 秋元 奈美)

F D 委 員 感 想

2024年度全学FD研修(テーマ編)にFD委員として参加をさせていただきました。今年度のFD研修は「授業・実習における生成系AIの活用法」と「タブレット端末の授業・実習での有効な活用方法」の2つのテーマが設定されており、私は後者の方に参加をさせていただきました。

グループワークの最初に、スーパーバイザーの根津先生から、Goodnotesの使用方法について説明がありました。私がこのアプリケーションを使用したのは初めてだったのですが、ペンタブレットの反応がよく、書き込みがしやすく、小さく細かい字も書きこむことができ、非常に便利なツールであることを実感しました。歯学部では多くの6年生がこのツールを使って学習をし、国家試験の準備をしております。グループ内の討論においても、肯定的な意見が多く、今後の教育に取り入れられることが望まれるようなディスカッションとなっていました。

(歯学部 豊下 祥史)

この度の全学FD研修の二瓶先生の講義では、生成AIの進化をAIアバターの実現力を通してリアルに感じられた。また根津先生のタブレットを用いた講義の効果的な活用法は、一方的になりがちな講義が手書きを加えて双方向になり、情熱も伝わった。FD研修に出なければ得ることが出来ない学びが具体的に得られて有意義であった。

ワークショップにて歯学部では、AIを用いて患者とのやり取り練習用にARが活用されていたが、「酔ってしまう」と嫌がる学生もいるなど、試行結果を教えていただけることも重要だと思った。

昨年のFD研修のAIの話では、レポートの悪用や学生の思考能力の減退を危惧する戸惑いが渦巻いていたが、今年は皆が前向きにAIを活用していく気概やアイディアに溢れ、建設的な姿勢が強まったと実感した。

ただし、コミュニケーションの練習としてAIを用いる際は、学生が失礼な態度をとっても、AIが受け入れてしまうために、人間を配慮しない学生に育ててしまうなど、不適切な教育につながる可能性も共有された。ナレッジベースを組み込み、AIに適切なフィードバックを返して精度を高めるための努力は、活用と並行して重要であると認識した。

(看護福祉学部 八木 こずえ)

今年度全学FD研修では、生成AIをはじめとするDX関連ツールの教育現場における有効活用が主要テーマとして取り上げられた。特に、生成AIの教育への応用は教育パラダイムの変革をもたらす可能性を秘めており、本研修を通じてその潜在的な力を再認識させられた。また、生成AIが教員の負担を減らす単なる補助ツールにとどまらず、パーソナライズドな学習環境の構築や学生間の協調学習の促進のような、学習体験全体を革新する可能性が示唆された。

「授業・実習における生成系AIの活用法」をテーマとしたワークショップでは二瓶先生をスーパーバイザーに迎え、各学部からの参加者が実際に生成AIに触れながら、自身の専門領域における問題意識を踏まえた議論が進められた。

医療・福祉分野の大学教育でも生成AIの活用は避けて通れない。まだまだ手探り状態であるが、今回の研修が、参加者のみならず、大学全体のAI活用に向けた意識を高めるのに寄与することを期待する。

(心理科学部 齊藤 恵一)

午前中のレクチャーである生成系AIの新展開での二瓶先生の講演では、もうすでに生成系AIの使用の可否の議論は難しいとの話があり、大学教育の中でどのように活用すべきかを考えることが重要であることを学んだ。また、タブレットの効果的な活用法での根津先生の講演では、goodnotes は書き込みができるので学生への注意を喚起することができること

をお話しされていた。そこで、私自身もgoodnetesの使用内容に関して、一緒に出席したOTの齋藤助教と一緒に活用方法を議論していくことを検討していきたい。

午後のワークショップでのAIの活用方法の発表に関しては、効率的な講義資料の作成や、模擬患者のシナリオ作成が有効であるとの話を聞き、まずはChatGPTで実践しようと考えた。

全体を通して、具体的に教育に活用できる内容であったので、まずはgoodnotesやChatGPTを実際に活用していく予定である。

(リハビリテーション科学部 本家 寿洋)

8月1日に開催された全学FD研修にFD委員として参加した。午前は三国学長のご挨拶ののち二瓶先生、根津先生のレクチャーを受講した。このレクチャーの後、午後からはテーマ(1)の授業・実習における生成系AIの活用法にFD委員として参加した。生成系AIについては重要なテーマでありながら、あまり馴染みのないテーマであり、大変興味深く学ぶことができた。この数年目覚ましい進歩が見られていることも理解できた。今回参加して最も有益であったことは、これまで使用したことのないChatGPT4を試用してみることができたことである。個人のレベルであれば、おそらく今後もふれることはなかったかもしれない。その点で大変ありがたく思っている。

(リハビリテーション科学部 中川 賀嗣)

今回の全学FD研修では、初めてのFD委員として参加し、ファシリテーターよりも参加者として研修を受けました。「タブレット端末の授業・実習での有効な活用方法」をテーマにワークショップが行われ、他学部の先生方と討論して作業が行われました。タブレット端末の使用により、紙媒体が不要になりコスト削減や学生の荷物軽減が期待できるなどの意見が出ました。また、学生が主体的に参加でき、教員と学生が同じメモを共有することで情報共有がスムーズになることや、リアルタイムで臨場感のある授業が可能になるなど、これからの時代に求められる活用方法だと実感しました。学生が教員に質問しやすくなり、距離が縮まり、授業内容の理解が深まることを意識して、今後の授業に取り入れていきたいと思います。これからも、学生の学習意欲を高める新しい授業方法を考えていく必要があると感じました。

(歯科衛生士専門学校 山形 摩紗)

総 合 評 価

令和6年度 北海道医療大学全学FD研修（テーマ編） 実施結果（参加者アンケート集計結果）

<実施概要>

開催日：2024（令和6）年8月1日（木）

開催方法：対面・Zoomのハイブリッド

メインテーマ：学生を中心とした教育をすすめるために

サブテーマ：DX関連ツールの教育・実習への有効な活用について

<アンケート集計概要>

回答者：40名（ワークショップ参加者 22名〔FD委員含む〕、視聴参加者 62名）

※延べ参加者数 84名

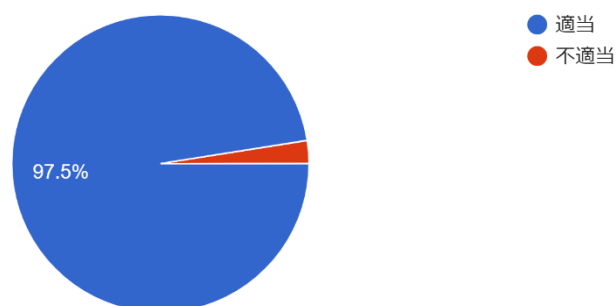
Q1. FD研修の日程について

今回のFD研修の日程は適当でしたか

適当	不適当
39	1

Q1

40件の回答



Q1-2 Q1で不適当を選択した方へ

不適当とご回答の場合はその理由やご意見ををお願いします

- ・試験やオープンキャンパスの準備と重なるため。

FD研修の時間配分について

Q2. 時間配分は適当だと感じましたか

適当			不適当		
40	WS参加	視聴参加	0	WS参加	視聴参加
	21	19		0	0

Q2. で不適当を選択した方へ

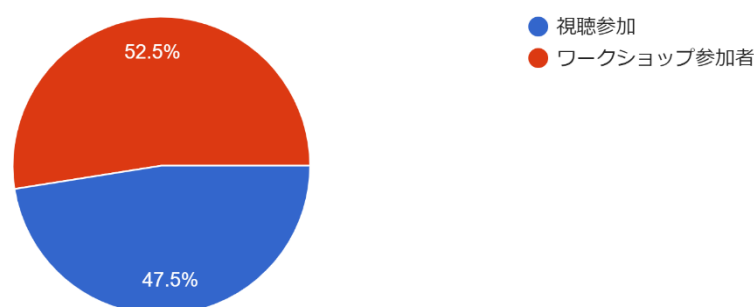
Q2-2. 不適当とご回答の場合はその理由やご意見ををお願いします

該当者なし

アンケート回答者の参加区分について

ワークショップ参加	視聴参加
21	19

視聴参加またはワークショップ参加の確認です
40 件の回答



ワークショップについて

Q3. ワークショップについてのご意見、ご感想をお願いします（回答はワークショップ参加者のみ）

- ・新たなツールの活用可能性について、学科を超えて話し合うことは有意義だと思いました。
- ・チャット GPT に改めて触れて、新鮮でした。
- ・生成 AI に期待できることと課題を考え、まだ生成 AI は参考程度に使うことが望ましいと感じましたが、生成 AI がより完璧な物になった場合に教員の存在価値をどこに求めるかが課題であると認識できた。
- ・この度は、貴重な会の企画、運営をありがとうございました。チャット GPT の活用はもちろんですが、他学部の先生方と交流し、意見をまとめられたことが貴重な経験となりました。また是非参加したいと思います。
- ・とても勉強になり、また他の先生方との議論の時間が大変有意義でした。
- ・具体的に体験できてとてもよかった
- ・大変有意義な時間でした。各学部の問題点等を知ることができるかつ、どのように AI を利用できるか具体例もあげることができ、即導入してほしいとおもいました
- ・テーマが具体的で午前中の講義を踏まえて話し合いができました。実際に使用方法を確認した上での討議でしたので、具体的に活用法についてイメージが膨らみました。今後の活用性もみえたので、ぜひ使用したいと考えます。
- ・テーマ 2 に参加させて頂きましたが、タブレット端末は授業に効果的に使えるものだと言ったワークを通して感じました。
- ・プロダクトのブラッシュアップの時間がもう少し欲しい
- ・興味深いテーマでよかったです。
- ・関心のあるテーマでちょうどよかったです。
- ・講演内容、グループディスカッションともに、これからの DX を生かした教育を考えていくのに良い内容だと思いました。まずは実際に使ってみて、活かせるところは積極的に活かしていければと思います。
- ・生成 AI について、実際に chatGPT に触れてみたところ、こちらの議論を概ね全て補完してしまうほどで、数年前とは比べ物にならないほど進化、安定していた。使いこなすために知識と修練が必要だが、早急に取り組む必要があると感じました。今回このタイミングで触れられて良かったです。
- ・chatgpt の色々な活用方法が議論されていたと感じます

- ・意見交換は活発で良かった。
- ・教育で具体的に活用できる内容であった
- ・双方向性の授業を行いたいと考えていたが、その具体的な方法が思いつかず、苦慮していました。今回のワークショップの内容については、自分の悩みを解決してくれるものであり、大変有意義なワークショップになったと思います。
- ・大学教育における生成 AI やタブレットの活用ということで、非常に勉強になりました。ワークショップでは他の先生方の考え方や他学部での教育状況など幅広く知ることができ、有意義な研修となりました。
- ・メンバーは、これからが期待される若手の人選がベターかな、と思いました。個人的には「新しいツールが苦手な年輩者でもできるかも」と有意義でした。
- ・とても有意義な議論ができたかと思えます

FD 研修全般について

Q 4. 今回の FD でよかった点、悪かった点についてご記入をお願いします

<良かった点>

- ・生成 AI の進歩を知れて良かった
- ・参加者が皆、積極的に良かったと思います。
- ・他の学部の現状を知れて、新鮮でした。
- ・オンラインでも受講可能なのはよかった。
- ・留学生から教員が AI 利用を推進していると聞いたあとの FD だったので大変興味深かったです。
- ・AI 利用の具体的な可能性に触れることが出来ました
- ・AI とタブレットは普段利用していないので、勉強になりました。
- ・デジタル世代である学生への対応や、その未来について講演頂き、考える機会も頂いて、とても有意義であった。
- ・グッドノートの教育への活用が分かった
- ・特にありません、大変学びになりました、ありがとうございました。
- ・午前の講演が非常に具体的で参考になった
- ・実用可能な教育方法を提案いただけただけでなく、活用上の利点と欠点を整理していただき、大変有用だったと思います。ありがとうございました。
- ・実現が叶いそうなプロダクトだったこと、ZOOM 参加できたこと
- ・午前中レクチャーをされた講師の先生が活用されている講義資料の形式やデバイスなど、詳細に説明していただいて大変参考になりました。
- ・とても勉強になり、また他の先生方との議論の時間が大変有意義でした。
- ・授業での生成 AI や Goodnotes 等の活用の可能性について理解でき大変勉強になりました。
- ・良かった点は他学部の先生と交流できたこと
- ・FD 研修会を企画してくださった先生、ご発表くださった先生、ありがとうございました。AI を用いた授業の様子、どのような形で私たちが行っている講義、実習に利用できるかを示していただいた点が良かったと思います。また、タブレットを用いた講義について、最近学生さんがタブレットを用いてノートを作っている様子をみていたのですが、このような形で講義にも利用していくと様々な良い点があるのだと教えていただきとても参考になりました。
- ・話し合いの時間が十分とられていたと思います。
- ・実際に体験しながら学べた点です。
- ・AI やタブレット講義について情報共有ができた
- ・活発な討議が行われて良かったです。悪い点ではないですが、1つのテーマに対して複数のグループが設定されていても良かったと思いました。
- ・実際に Chatgpt を使いながら検討できたこと。
- ・テーマ設定や時間などは適切で良かったと思います。
- ・実際に chatGPT に触れながらディスカッションしたため、具体性のある議論ができた点が良かったと思います。
- ・グループ毎に部屋がわかれていて議論しやすかったと思います
- ・良かった点は、具体的に教育で実践できる内容であったことです。
- ・AI の新たな可能性に気付くことが出来た
- ・良かった点としては、今回のテーマが「使い始めるまでのハードルが高いデバイス」についての話であり、それを使うハードルを下げることになったことだと思います。
- ・生成 AI やタブレットを具体的に教育の現場に活用するのかを議論できた点。
- ・生成系 AI は IT インフラに既に日常的に入り込んでいる現状、他大学に比べてタブレット端末活用が盛んな本学の特長から、両テーマとも良いチョイスだったと思います。

- ・ AI を積極的に取り入れていきたいと思っているが、使いこなせていないので有意義な時間になった。
- ・ ご講演では、最新の情報やデジタル機器を取り入れた講義の様子など、興味深い内容を知ることができ良かった。
- ・ AI の進展やタブレット端末の使い方について知ることができて良かった

<悪かった点>

- ・ 前半の AI の音量が相対的に大きく、演者の音声との音量のバランスが取りにくかった (AI 音声の音量に合わせると演者の声が聞こえなくなる)。
- ・ AI 関連技術を教育現場で利用することについて現実味が湧いていない状態です。事前に利用体験をしたうえで FD をした方が有意義と感じました。
- ・ グループ 1 の VR を作成するのは教員にとって大変な作業だと思いました。グループ 2 の Goodnotes は活用できると思います。ただし端末を利用することで、学生全員の充電供給ができる環境は整備されているのでしょうか。
- ・ エアコンが寒かった
- ・ 悪かった点はグループワーク時間が長いとおもいます
- ・ グループワークの発表は、時間調整などする余裕もあまりないので、発表時間は少しフレキシブルに余裕があると良いなと思いました。
- ・ グループワークには少し人数が多かったかもしれません。意見の重複がかなりありました。1 グループを 2 班に分けても良かったかも知れません。
- ・ テーマは一つだけでよい。
- ・ 悪い点はありません。
- ・ 特にありません。
- ・ テーマとしては去年と同系統で、少し変えても良かった可能性もある。

今後の FD 研修に向けて

Q 5. 今後の FD 研修で取り上げるべきテーマなどのアイデアがあればご提案ください

- ・ 特になし
- ・ VR/AR について
- ・ 新キャンパスへの移転の段取り、器具の移転に伴う講義・実習の編成について
- ・ 学習障害のある学生への教育など
- ・ 特段ありません、ありがとうございました。
- ・ 次年度も今回の内容をもとに開発した教育方法の実践報告を共有するのも良いのではないかと思います。
- ・ AI の進化と実用に関しては、今後数年間注目していくべきテーマだと思う
- ・ 特にありません。
- ・ いまのところございません。
- ・ 生成 AI は、継続的に触れても良いのかもしれませんが
- ・ 思い当たりません。
- ・ 特に無し
- ・ 「学生の学習に対するモチベーションを向上させるには」
- ・ エスコンへの移転に伴い、教育や研究面で、スポーツや北広島との交流で新しい取り組みができないか
- ・ 学舎移転に伴う学生 (及び教職員) の混乱に備えての対策について何かあるといいかもしれません。
- ・ プロフェッショナルイズム教育の実践について
- ・ ゼミ・研究室の運営に関して
- ・ 利用する最新技術に対する利用者の倫理観やルール作りの課題、社会 (特に地域) と大学の連携、など
- ・ 引き続き生成 AI の活用について



学務部 教務企画課 〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢 1757

TEL:0133-23-1211／FAX:0133-23-1669

URL: <https://www.hoku-iryo-u.ac.jp/>